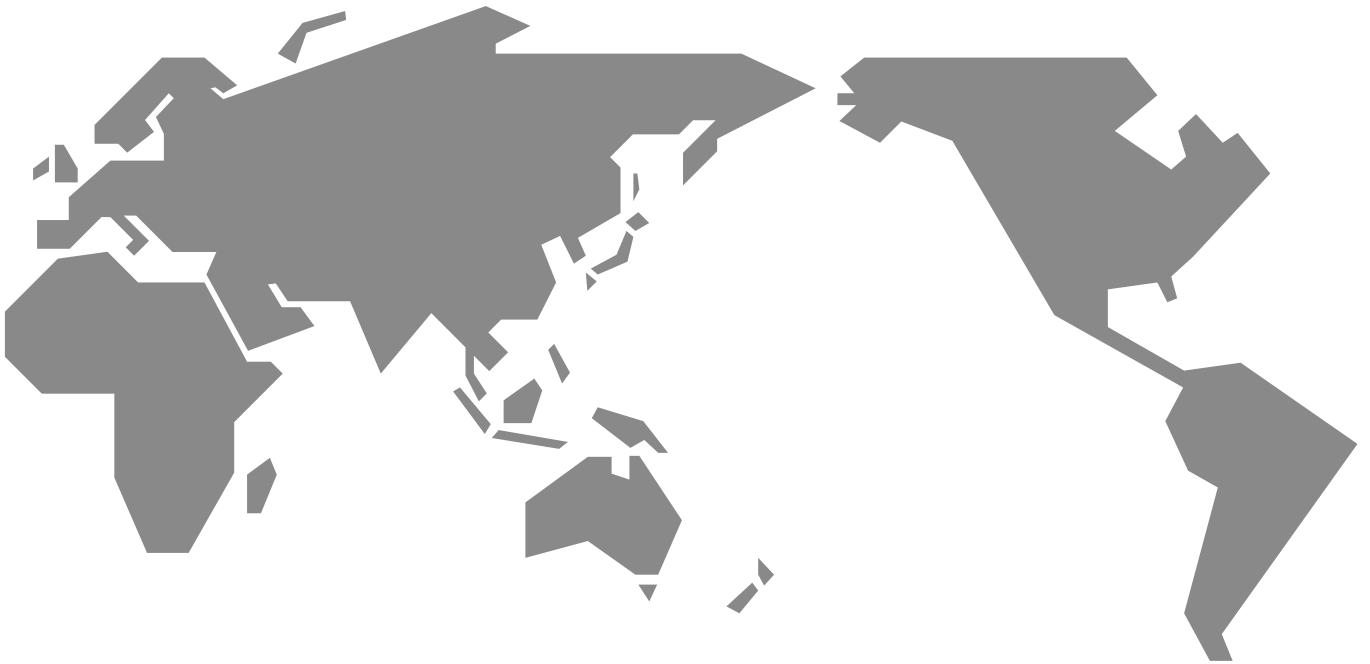


2017年度 年報

Annual Report 2017



大阪大学国際教育交流センター

Center for International Education and Exchange, Osaka University

巻 頭 言

大阪大学国際教育交流センター長
有 川 友 子

国際教育交流センターは、平成22年4月の留学生センターからの改組以降も、大阪大学の国際化に引き続き貢献し、質の高い留学生教育交流支援を目指すという大きな目標のもと、4WD（日本語教育研究、短期プログラム開発研究、交流アドバイジング研究の3チーム＋サポートオフィス）体制にて各種活動に積極的に取り組んでおります。この度、平成29年度の活動につきまして報告いたします。最初に本年度のトピックス、その後各活動について詳細に報告しております。

大阪大学の外国人留学生数は平成29年5月1日現在で2,273名となりました。近年の留学生数の増加とともに多様化が進む中、留学生に関わる教育支援活動、また海外派遣の推進に関わる各種プログラムにつきましても多様化が進んでおります。更に留学生のキャリア支援やキャリア教育に関わる各種取組や学内外との連携協力も進んでおります。

国際教育交流センターは、新たなニーズに応えるべく様々な新たな活動につきまして積極的に取り組むとともに、これまでと変わらず重要である全大阪大学のニーズに柔軟に対応した教育、各種交流や支援に関わる活動、各教員の専門分野に応じた研究活動を行っております。

例えば大阪大学の全留学生の8割強の1,700名程度が、本センター日本語教育研究チームによる多様なニーズに対応した各種日本語科目を受講中もしくは受講経験をもっております。今後留学生数が増えることが見込まれる中、日本語教育の質を保ちながら、改革にも取り組み、新たな科目の開設に向けた準備をしております。また本センターの短期プログラム開発研究チームは通常の学期をベースとした交換留学に加えて、米国カリフォルニア大学や豪州の協定校の学生を主な対象とした短期間のJ-ShIPや超短期プログラムを開発し先駆的に実施してきた実績を持っております。また受入だけでなく、交換留学や短期研修プログラム等、また本学学生の派遣についても全学的な立場から相談対応や支援、コーディネートを行っております。更に交流アドバイジング研究チームはIRIS（留学生交流情報室）をベースに、留学生相談対応は勿論、学生間交流、地域との交流等、関係部局等と緊密な連携とネットワークを活用して活動を行っております。そしてサポートオフィスは外国人留学生と研究者受け入れに関わり、主にビザに関わる支援と宿舎情報提供を全学的に行っております。

大阪大学において留学生数の増加とともに各種コースやプログラムの多様化が進む中で、留学生・一般学生に関わる教育交流支援の質の保証が益々重要となっております。留学生が大阪大学の学生として教育研究を含む各種活動について日本人など一般学生と同じ機会を持つこと、言語文化等多様な背景をもつ留学生に対して大学として必要なサポートを充実させていくこと、いずれも不可欠です。

これからも関係部署と連携しつつ、国際教育交流センターは留学生中心の部局として、大阪大学の国際化に積極的に貢献してまいります。

大阪大学国際教育交流センター
2017年度 年報

目 次

巻 頭 言

I. 本年度のトピックス	1
1. 日本語・グローバル理解演習（仮称）の開設に向けて	1
2. 短期プログラムの「将来像」	4
3. 国連ユースボランティア	5
4. 国際教育交流センタースピーチコンテスト	6
5. CIEE 協議会シリーズ ― 多文化交流の最前線 ―	9
6. 講習会・研修会等の開催	13
7. CIEE ミーティング	16
8. 派遣プログラム運営のアウトソース化	17
II. 現 況	18
1. 運営形態	18
2. 組 織	19
3. 教員、非常勤講師、特任事務職員等	20
4. 今年度の動き	21
III. 留学生対象日本語プログラム	22
1. 日本語集中コース	23
2. 留学生日本語選択コース	28
3. 全学共通教育	29
4. 国際交流科目	31
5. 学際融合教育科目	32
IV. 日韓共同理工系学部留学生プログラム	33
1. 時 間 割	33
2. 学生数と進学先	34
3. 平成 29 年度日韓共同理工系学部留学生事業協議会	34
V. 国際教養・専門複合型プログラム	36
1. 行 事	37
2. 2017 年度春夏学期：OUSSEP 学生名簿と国際交流科目開講リスト	38
3. 2017 年度秋冬学期：OUSSEP 学生名簿と国際交流科目開講リスト	41
4. OUSSEP 学生以外の国際交流科目履修者数と単位取得者数	44
5. 国際交流科目における授業の質保証の取り組み	45
VI. 授業料徴収型『超短期』プログラム	49
1. 『超短期』プログラム	49
2. 『ショートステイ学期内日本語専修プログラム』 J-ShIP	50

VII. 留学生支援	53
1. 生活・就学支援	53
2. 地域との連携	59
3. 留学生に対するキャリア支援	62
VIII. 海外派遣留学支援	66
1. 海外研修・異文化体験プログラム	66
2. 海外留学オリエンテーション	68
3. 大学間交換留学者数	69
4. 海外留学・研修等派遣前危機管理オリエンテーション	71
5. 海外留学相談とアドバイス	73
IX. サポートオフィスの活動	75
1. 査証（ビザ）関連手続きの支援	75
2. 住宅・宿舎手配の情報提供・支援	76
3. 新規来日外国人留学生・研究者向けオリエンテーションの開催	76
4. 留学生・外国人研究者受入事務に初めて関わる担当者向け研修会の開催	77
5. ホームページの管理運営	77
6. 各種印刷物の改訂版作成・配布	78
X. 大学院・学部教育	79
1. 授業担当	79
2. 研究指導	85
3. 研究指導学生学位論文	87
4. リサーチ・アシスタント（RA）の受入れ	87
XI. その他の活動	88
1. 各種行事	88
2. 海外出張・海外研修	91
3. 出版物・印刷物等（2017年5月から2018年4月まで）	92
4. 来訪者対応	93
5. にほんごテーブル	93
XII. 教員個人データ	96
資料編	
資料1 国際教育交流センターが提供する日本語科目 2017年度 時間割	128
資料2 2017年度 留学生日本語プログラム（選択コース）履修登録者数一覧	132
資料3-1 国際交流科目授業時間割（平成29年春夏学期）	134
資料3-2 国際交流科目授業時間割（平成29年秋冬学期）	135
資料4 日本語授業についてのアンケート	136
資料5 国際交流科目 授業アンケート（質問票）	140
資料6 国際交流科目 授業アンケート（結果）	142

I. 本年度のトピックス

1. 日本語・グローバル理解演習（仮称）の開設に向けて

大阪大学では現在、共通教育・教養教育の改革に向けた準備が進められている。改革の方向性については、学問の神髄を極める専門性の獲得に加え、次の3点を三大資質として涵養することを目指している。

- (a) 幅広い見識に基づく確かな社会的判断力としての「教養」
- (b) 異なる文化的背景を持つ人と対話できる「国際性」
- (c) 自由なイマジネーションと横断的なネットワークを構想する「デザイン力」

そして、国際性を涵養するための教育の中核として、これまでの外国語教育を発展させた新たな外国語教育を構想している。この教育には以下の2つの柱が設定されている。

- (1) グローバル化する社会に対応し国際的に活躍できる英語力を有する人材の育成
- (2) 多言語・多文化への深い理解にもとづく国際的視野をもった人材の育成

新たな外国語教育においては、外国語科目ではなくグローバルコミュニケーション科目という枠組みの下に各種の科目が提供される。

2016年度年報で既報のように、こうした共通教育・教養教育の改革と歩を合わせて、国際教育交流センターでは日本語・グローバル理解演習科目（仮称）の開設を準備している。日本語・グローバル理解演習科目の趣旨と、考え方や内容等は以下の「日本語・グローバル理解演習（仮称）ガイドライン案」（国際教育交流センター内資料）の通りである。

日本語教育研究チーム
国際教育交流センター
大阪大学

日本語・グローバル理解演習（仮称）ガイドライン案

1. 趣旨

日本の大学における正規学生や交換留学生に対する日本語教育は、日本語教育でありながら、グローバル時代の21世紀の大学における教育の一部である。外国出身の学生に対する日本語教育に携わる者は今こそ、言語教育の側面と21世紀の大学教育にふさわしい教育的な価値の両方を備えた新たな日本語教育のあり方を検討しなければならない。

日本語教育の現状に目を向けると、「日本語のみを教える日本語教育」は、少なくとも上級段階については、第二言語習得の原理の観点から教育の企画として一定の限界があると見られる。その一方で、現在ですでに、多かれ少なかれ内容を伴った形での日本語教育の企画と実践が比較的広く行われている。しかし現状では、コミュニケーション活動を促進し活性化するという側面にむしろ重点が置かれ、内容についてはそうしたコミュ

ニケーション活動のための素材の域を出ていない。

現在、大阪大学では、平成 31 年度（2019 年度）実施予定で共通教育・教養教育改革の準備が進行中で、その中で国際性涵養教育の理念の下に外国語教育改革の準備も進められている。全学の留学生（インターナショナルカレッジ学生を中心とする正規学生と特別聴講学生）に対する日本語教育も、そうした外国語教育改革と理念や方向を一にしながら進めるのが適当である。そのような趣旨で、本学の教養教育改革の外国語教育改革の一環として、上に述べたような考え方で上級段階の日本語教育の改革をめざす。

2. 日本語・グローバル理解演習（仮称）

新たに開設する科目を日本語・グローバル理解演習（仮称）と呼ぶ。日本語・グローバル理解演習は、現在進行中の外国語教育改革の案の中の、多言語教育領域のグローバル理解（1 コマ 2 単位）の科目の一つとなる。日本語・グローバル理解演習の考え方や内容の概略は以下の通りである。

(1) 考え方

大阪大学における広い意味での教養教育は、狭義の教養教育と国際性涵養教育の 2 種類となる。国際性とは、「共通教育・教養教育改革の方向性についてのまとめ」では、「異なる文化的背景を持つ人と対話できる」力と定義されている。外国出身者である留学生等に対する日本語教育としては、「異なる文化的背景を持つ人」というのは一般的には「日本人」とされる。しかし、「日本人」や「日本文化」はそれ自体の中に豊かな多様性を内包しており、それらを本質主義的に捉えるのは適当ではないだろう。

アニメやマンガや J ポップや「カワイイ」などは、日本発でありながら、広くポップカルチャーとして世界の人々に受容されている。また、自動車、バイク、カメラ、家電、寿司、和食なども「メイドインジャパン」でありながら、世界の人々の生活に身近なものとなっている。さらには、日本の古典文学や近代文学、村上春樹などの現代文学、和歌や俳句なども広く世界の人々に親しまれている。一方で、サッカーや野球やフィギュアスケートやオリンピックなどは言うまでもなくすでに日本の文化として定着している。

他方、環境やエネルギーや人権などの人類全体にかかわる課題やテーマも、日本におけるマスコミや言論において広く扱われるテーマとなっている。また、人類や文明の歴史や、文化や言語等への関心は現代のグローバルな教養人として身につけておくべき重要なテーマとなっている。

以上のような認識から、一定の実用的な日本語力を習得した後の日本語教育は、国際性を涵養するグローバル時代の日本語教育として、日本の文化の中のさまざまな事象やテーマを主題的に採りあげたり、人類全体の歴史のあるいは現代的諸問題を扱ったりしながら、それを体系的にそしてグローバルな視点で理解するということを日本語で行うことを通して、内容と言語の共促進を図る教育を行う。そのような教育を通して、日本のさまざまな側面や人類全体の諸問題について本質主義に陥ることなくグローバルな視点を踏まえて語り合える外国出身の教養ある日本語ユーザーを育成する。

(2) 内容

日本語・グローバル理解演習は、教員が自身の専門や関心に基づいて企画し実践する科目である。以下に、その内容として取り上げるテーマの例を示す。

a. 人間学的なテーマ — 人間のあり方を探究するテーマ

人類文化の多様性や歴史のダイナミクスや農業革命・技術革命などの歴史の一側面を採りあげ、人間学・人類学的な観点からそれを考察して、現代社会において人間として生きることを深く省察する。現代社会における言語や文化の多様性への視点からスタートしながらも、それらを表現型の相違として捉え、本質主義に陥らないで言語と文化等の多様性を理解するとともに、多様性を内包した個人の多様性と人間としての普

遍性を省察する

b. 現代的なテーマ — 現代社会が共通的に抱えるテーマ

現在の人類全体が抱える「環境」、「災害」、「エネルギー」、「生命倫理」、「少子高齢化」、「人権と差別」などの現代的なテーマ」（「共通教育・教養教育改革の方向性のまとめ」（大阪大学）より）を扱い、異なる文化的背景を持つ人と対話できるよう、国際的視野と幅広い見識に基づく確かな社会的判断力を養いつつ、課題解決に向けた「デザイン力」を養成する。

c. 特定テーマ

アニメ、落語、和歌や俳句、京都、自動車産業、ロボティクス、伝説的な創業者など、特定のテーマに基づいて内容と言語を学習する。そうした学習を通して、そのテーマについての言語活動に主体的に従事できるようになる。

d. 二言語複合型

テーマ内容についての英語による講義と、内容と日本語を統合した授業の複合。

現在、国際教育交流センターでは、このようなガイドラインに沿った日本語・グローバル理解演習科目を開発中で、2019 年秋冬学期での開設を予定している。

2. 短期プログラムの「将来像」

本テーマについてはかなり大きな「お題」になるが、定員管理の厳格化と留学生受入に関する数値目標が求められる相反する状況で、当面の短期間については「短期プログラムは数を稼ぐ」という目的意識を持って運営するしかないであろう。実質のある教育機会の開発と提供という観点で短期プログラム等については、本来的にはダブルディグリーや「3 + 1」など部局主導で解決されるべき課題であり、本センターの短期留学研究開発チーム（以下、短プロチームと略す）としては；

- ① 汎用性のある教育企画
- ② 幅広い留学生にアピールする教育企画
- ③ 大阪ならではの特色を活かす教育企画
- ④ 海外の有力校などから「求められる」教育企画

といったあたりについて注力をしていくべきだと考えている。

短プロチームとしては②や③に主力を移したい気持ちはやまやまであるが、幅広い学生にアピールをしてもビジネス的に見合うだけの学生数を集めるだけの「販売戦略」や「営業部隊」を欠くため、基本的には数を求める上では④、そして本学ならではの特色を出すためには①②③といったあたりに気をつけながら企画を立てている。

例えば④に関する本学事例ではUCEAPとの協力関係をベースにした夏のJ-ShIPが代表的である。UCEAPにとってはUC学生のサマープログラムを多様化することが出来る一方、本学としてはUCEAPのサマープログラムの認定を受けることで、学生リクルートの手間を大幅に削減した上に、一定数の優秀な留学生を受け入れるゲートウェイができる。特にUCの夏学生が多数来る夏のJ-ShIPでは、マーケットが一番大きい筈の「日本語ゼロスタート学生」に焦点を当てている。今後とも海外の学生のニーズがどこにあるかを察知しつつ、様々な試みを実現させたい。

具体的には海外からの短期留学生を短期インターンシップさせ、本学から国際交流科目で単位を発給する仕組みづくりや、海外の大学から日本への「Faculty Led」でのプログラムを受入、本学の学生との交流なども期しながら、本学の受入プログラムとしてカウントしていくというような仕組みづくりである。

平成30年についてはそのような企画がいくつかあり、それぞれのプログラムをどのように経済的に自立させるかもふくめ、学外諸機関や海外大学のニーズをマッチングさせていくコーディネート業務に注力をして行く予定である。

3. 国連ユースボランティア

本プログラムに関しては、国際交流委員会・グローバルイニシアティブセンター主導でワーキンググループが立ち上げられ、短期プログラムチームから複数の教員が参画した。私学を中心に非常に熱心に取り組んでいる大学が多い中、国立大学法人が横から「割り込む」形だったが、当時の副学長以下の「肝煎り」のプログラムと言うこともあり、それなりに注力をしてきている。初年度であった平成 28 年度は複数の応募者に対して合格者（採用者）無しという結果に終わったが、平成 29 年度については阪大生二名がインドネシアとフィジーの国連事務所に派遣されることになった。本センター教員がワーキングにおいて協力をおこなったのは以下の様な事項である。

- ① 学生募集要項の作成
- ② 単位化する際の国際交流科目作成
- ③ 本学からの候補学生の選考・面接
- ④ 候補学生に対するアドバイス
- ⑤ 選択されたあとのケア
- ⑥ 派遣中の学生との通信やアドバイス

特に本プログラムでは本人によるアピール（ビデオ収録）や国際電話によるインタビューなどを経てボランティアを選抜するため、学生達にとって精神的な負担も高く、④に関連してメンター的な個人サポートを行っている。

また実際に派遣された学生のケアのため、法学研究科の教員がインドネシアの事務所を訪問しており、そのような情報を集約しながら、次年次以降の運営について協議をしてきている。

4. 国際教育交流センタースピーチコンテスト

今年度も吹田キャンパスにおいて国際教育交流センタースピーチコンテストを開催した。「留学からわたしが得たもの」という共通のテーマのもとで、大阪大学で学ぶ外国人留学生と留学帰国者がともにスピーチを披露し、成果を競い合った。審査の結果、言語文化研究科所属の Semenova Anastasia さんが最優秀賞に輝いた。

【2017 年度 大阪大学国際教育交流センター スピーチコンテスト 受賞者】

最優秀賞	Semenova Anastasia	言語文化研究科	「私は誰ですか？」
優 秀 賞	李 童一心	外国語学部	「やればできるんだ！」
優 秀 賞	Murungi Elizabeth Mwebesa	工学研究科	「新しい価値観」
特 別 賞	李 俊俐	文学研究科	「世界が広がっていく」
特 別 賞	徳富 太郎	文学部	「あくなき好奇心——ドイツ文学の外側へ——」
特 別 賞	Pedro Henrique Costa Cruz	医学系研究科	「自由の本当の意味」
特 別 賞	長谷部 佳穂	外国語学部	「基礎となる姿勢」

【出場者と審査員】



【プログラム】

2017 年度 大阪大学国際教育交流センター スピーチコンテスト プログラム

主 催：大阪大学国際教育交流センター
協 賛：国際ロータリー 2660 地区千里ロータリークラブ
日 時：2017 年 12 月 1 日（金） 16：30～18：40
場 所：吹田キャンパス IC ホール 2 階講義室 5 & 6

司会	国際教育交流センター	講師	岡 本 紗 知
1. 開会の挨拶			
	国際教育交流センター	副センター長 教授	村 岡 貴 子
2. 来賓紹介			
	千里ロータリークラブ	会長	古 城 紀 雄
	千里ロータリークラブ	青少年奉仕委員長	金 子 薫
3. 審査員紹介			
	千里ロータリークラブ	会長	古 城 紀 雄
	薬学研究科	准教授	吉 田 卓 也
	国際教育交流センター	特任講師	勝 田 順 子
	国際教育交流センター	特任助教	中 野 遼 子
4. スピーチコンテストの流れおよび審査方法の説明			
	国際教育交流センター	特任助教	中 野 遼 子
5. 出場者スピーチ			
1. 「生活とは何か」の新理解		左 華芸（短期留学特別プログラム）	
2. 自己認識		Motina Anastasia Sergeevna（工学研究科）	
3. 世界が広がっていく		李 俊俐（文学研究科）	
4. ロシアで学んだ大切なこと		易本 麻里（外国語学部）	
5. やればできるんだ！		李 童一心（短期留学特別プログラム）	
6. あくなき好奇心ードイツ文学の外側へー		徳富 太郎（文学部）	
7. 新しい価値観		Murungi Elizabeth Mwebesa（工学研究科）	
8. 忍者修行		顔 嫚言（工学研究科）	
9. 未知の世界に思い切って飛び込む力		趙 宇杰（人間科学研究科）	
10. 自由の本当の意味		Pedro Henrique Costa Cruz（医学研究科）	
11. 寒さに冷めない心		王 孝哲（経済学部）	
12. 私は誰ですか？		Semenova Anastasia（言語文化研究科）	
13. 心の物語		Robson Kenji Sato（工学研究科）	
14. 世界の人々と繋がる能力		Ping-Kuan CHEN（理学研究科）	
15. 基礎となる姿勢		長谷部 佳穂（外国語学部）	
16. 地方創生につながるふるさとの絆		陳 柔嘉（法学部）	
6. 表彰式			
	国際教育交流センター	センター長 教授	有 川 友 子
7. 審査総評			
	国際教育交流センター	特任講師	勝 田 順 子
8. 受賞者挨拶			
9. 閉会の挨拶			
	国際教育交流センター	センター長 教授	有 川 友 子
10. ティーパーティー（IC ホール 2 階 IRIS）			

【募集要項】

平成 29 年度 大阪大学国際教育交流センター
スピーチコンテスト発表者募集要項

1. 日 時	2017 年 12 月 1 日 (金) 午後 16:30 ~ 18:30 (予定) (選考・表彰式・写真撮影を含む)
2. 場 所	吹田キャンパス IC ホール Room 5 and 6
3. 題 目	「留学から私が得たもの」※内容に合わせて副題をつけてください。
4. 主 催	大阪大学国際教育交流センター
5. 協 賛	国際ロータリー 2660 地区千里ロータリークラブ
6. 応募資格	① 本学に在籍する日本語を母語としない留学生 ② 留学等で海外に滞在した経験を持つ学生 (学部生院生・国籍を問わない) で大阪大学に在籍している者
7. 応募方法	国際教育交流センターのホームページにある応募用紙 (概要 400 字程度) と学生証コピーをメールに添付して送付してください。または、国際教育交流センター IRIS・豊中分室・箕面分室へ提出してください。(手書き不可)
8. 応募用紙	Word ファイル (Office2003 以上) を以下からダウンロードしてください。【2017 年度留学生スピーチコンテスト応募用紙】 URL: http://www.ciee.osaka-u.ac.jp/
9. 応募締切	2017 年 11 月 13 日 (月)
10. 書類審査と発表者の決定	応募者の中から書類選考を通過し、実際のスピーチコンテストにて発表して頂く学生へ 11 月 20 日 (月) (予定) までに当選者に直接メールで連絡します。また、国際教育交流センター IRIS・豊中分室・箕面分室にて掲示を予定しています。
11. スピーチ要領	① 日本語で 6 分以内の発表 ② 計 6 分の発表 (最初に留学先で使用した言語を使い 3 分以内のスピーチをし、続いて日本語で同じ内容の 3 分以内のスピーチを行うこと) ※パワーポイント使用可。
12. 審査基準	スピーチの内容や構成、メッセージのアピール力や表現能力などを総合的に評価します。言語運用能力は評価項目の一つです。留学生の場合は、日本語学習歴、滞在期間を考慮して審査を行います。
13. 表彰・副賞	スピーチコンテストの後に、表彰式を行います。 ・最優秀賞：賞状・2 万円分 Amazon ギフト券 (1 名) ・優 秀 賞：賞状・1 万円分 Amazon ギフト券 (2 名) ・特 別 賞：賞状・5 千円分 Amazon ギフト券 (4 名) ※出場者全員に参加賞があります。
14. 応募先・問い合わせ先	国際教育交流センター IRIS・豊中分室・箕面分室 E-mail: iris@ciee.osaka-u.ac.jp (件名に「スピーチコンテスト応募」と明記してください。)
15. その他	・表彰式終了後、IRISにてティーパーティーを予定しています。 ・受賞者の方々には、海外留学オリエンテーション等において体験談発表の依頼をする場合があります。

5. CIEE 協議会シリーズ ― 多文化交流の最前線 ―

例年と同様、平成 30 年 2 月に 3 つの研究協議会を主催した。以下、それぞれの概要とプログラムについて報告する。

2 月 2 日（金）：国立大学法人留学生指導研究協議会

本協議会では文部科学省高等教育局学生・留学生課課長補佐の成相圭二氏から「学生の双方向交流の推進に関する予算案と政策」についてのご説明の後、「持病を持つ留学生に対する支援体制 ― 健康支援相談書の導入を中心に」を神戸大学国際連携機構推進機構国際教育総合センター准教授の黒田千晴氏、「地域と連携した多言語による防災訓練について」を東北大学高度教養教育・学生支援機構グローバルラーニングセンター准教授の渡部留美氏の両氏が、各テーマについての事例を紹介し、その後 3 つの分科会にわかれてディスカッションを実施した。

分科会での討議、全体討論を通して、留学生受け入れの意義について改めて検討した。

<出席者：87 名（学内 18 名・学外 69 名）>



2 月 15 日（木）：第 26 回大阪大学・地域団体ボランティア留学生支援連絡協議会

第 26 回となる本協議会では、「大阪大学各留学生会の活動と各国の文化について学ぼう Part II」というテーマで、在日タイ留学生会（TSAJ）と大阪大学バングラデシュ留学生会（OUSAB）の留学生による国や活動の紹介と大学生活についての発表があり、その後質疑応答が行われた。本協議会ではホストファミリー、家主など、地域にて様々な形で留学生支援に関わるボランティアや国際交流団体関係者等と大阪大学関係者が一堂に会し、留学生支援に関わる本学と地域とのネットワークを更に充実させている。

<出席者：142 名（学内 29 名・学外 113 名）>



2 月 16 日（金）：第 11 回大阪大学専門日本語教育研究協議会

本協議会では「学習者オートノミーを育む言語学習とその支援」というテーマのもと、「学習者オートノミーを育てる教育実践 ― これまでの蓄積と新たな展開」（本学大学院文学研究科・青木直子氏）および「神田外語大学セルフアクセスセンターのこれまでの活動と今後の展望 ― 生涯にわたり学び続ける力」（神田外語大学セルフアクセスラーニングセンター・ワトキンス 聡子氏）の 2 つのご講演をいただくとともに、本センターからも、義永美央子教授がオンライン自律学習支援サイト「OU 日本語ひろば」の構想について報告を行った。全体討論では、様々な立場の参加者から質疑が交わされ、活発な議論が展開された。<出席者：81 名（学内 36 名・学外 45 名）>



平成 29 年度第 2 回国立大学法人留学生指導研究協議会
兼 第 48 回大阪大学留学生教育・支援協議会

主 題：「留学生が関係する緊急時における関係組織や関係者等との連携の工夫」

日 時：平成 30 年 2 月 2 日（金）13：30～19：00（懇談会を含む）

場 所：大阪大学吹田キャンパス 銀杏会館 3 階阪急電鉄・三和銀行ホール

次 第（敬称略）

〔総合司会 大阪大学国際教育交流センター 有川 友子〕
挨 拶（13：30-13：40） 大阪大学理事・副学長 河原 源太

I. 留学生受入れに関する施策

1. 説 明（13：40-14：10）

「学生の双方向交流の推進に関する予算案と政策について」

文部科学省高等教育局学生・留学生課 課長補佐 成相 圭二

2. 質疑応答（14：10-14：20）

II. & III. & IV. コーディネーター：

名古屋大学国際機構 国際教育交流センター 教授 田中 京子

II. 事例紹介（14：30-15：30）

1. 「持病を持つ留学生に対する支援体制ー健康支援相談書の導入を中心に」

神戸大学国際連携推進機構 国際教育総合センター 准教授 黒田 千晴

2. 「地域と連携した多言語による防災訓練について」

東北大学高度教養教育・学生支援機構 グローバルラーニングセンター 准教授 渡部 留美

休憩・移動（15：30-15：45）

III. 分科会「留学生が関係する緊急時における関係組織や関係者等との連携の工夫」（15：45-16：45）

A：「健康問題」

ファシリテーター：宇都宮大学大学院 工学研究科 講師 堀尾 佳以
北海道大学国際連携機構 国際教育研究センター 准教授 青木麻衣子

B：「事件・事故」

ファシリテーター：京都大学大学院人間・環境学研究科 講師 藤田 糸子
金沢大学理工研究域 准教授 岸田 由美

C：「災害」

ファシリテーター：鹿児島大学グローバルセンター 講師 市島佑起子
三重大学教育学部 講師 服部 明子

IV. 各分科会からの報告と全体討論（16：50-17：20）

閉会の挨拶（17：20-17：30） 大阪大学国際教育交流センター長 有川 友子

懇談会（17：40-19：00）

以 上

「第 26 回大阪大学・地域団体ボランティア留学生支援連絡協議会」

日時：平成 30 年 2 月 15 日(木) 13:30-16:30

場所：大阪大学 吹田キャンパス

銀杏会館 3 階 阪急電鉄・三和銀行ホール

銀杏会館 3 階 大会議室（懇談会）

主催：大阪大学国際教育交流センター

＜プログラム＞

(敬称略)

13:30-13:40 挨拶 理事・副学長 河原 源太

13:40-15:35 大阪大学各留学生会の活動と各国の文化について学ぼう Part II

在日タイ留学生協会 (TSAJ)

Ta-inta Phuwat ターインタ プーワット (言語文化研究科)

Sodkhomkhum Rapheepraew ソッドコンカム ラピプラウ (理学研究科)

大阪大学バン格拉デシュ留学生会 (OUSAB)

Fatemi Nawrose ファテミ ナウローズ (工学研究科)

Nisa Tania Tabassum ニイサ タニア タバスム (歯学研究科)

15:35-15:40 挨拶 国際教育交流センター長 有川 友子

15:45-16:30 懇談会

懇談会では大阪大学未来基金「IRIS（留学生交流情報室）活動支援事業」より軽食をご用意しております。

第 11 回大阪大学専門日本語教育研究協議会
— 学習者オートノミーを育む言語学習とその支援 —

日 時：2018 年 2 月 16 日(金) 13:00 ～ 17:00 (受付 12:40 ～)

場 所：大阪大学吹田キャンパス IC ホール 2 階 講義室 5 & 6

主 催：大阪大学国際教育交流センター

プログラム

総合司会 国際教育交流センター 特任准教授 金 孝卿

13:00 ～ 13:10 開会の挨拶 国際教育交流センター センター長 有川 友子

13:10 ～ 14:10 講演 1: 学習者オートノミーを育てる教育実践: これまでの蓄積と新たな展開
大阪大学大学院文学研究科 教授 青木 直子

14:10 ～ 14:20 休憩

14:20 ～ 15:05 講演 2: 神田外語大学セルフアクセスセンターのこれまでの活動と今後の展望: 生涯にわたり学び続ける力
神田外語大学セルフアクセスラーニングセンター
主任ラーニングアドバイザー ワトキンス 聡子

15:05 ～ 15:20 休憩

15:20 ～ 16:00 報告: オンライン自律学習支援サイト「OU 日本語ひろば」の構想について
大阪大学国際教育交流センター日本語教育研究チーム 教授 義永美央子

16:00 ～ 16:10 休憩

16:10 ～ 16:55 全体討論: 大学における言語学習と学習者オートノミーを考える
司会 国際教育交流センター 准教授 難波 康治

16:55 ～ 17:00 閉会の挨拶 国際教育交流センター 副センター長 村岡 貴子

6. 講習会・研修会等の開催

国際教育交流センターでは、留学生の安全な暮らしを支援するために、「留学生のための交通安全講習会」、「防犯防災研修会」、「交通安全防災研修会」などを実施している。それに加え、本年度は、留学生のための防災体験学習フィールドトリップを企画し実施した。また、ハラスメント問題に対する意識向上を図るために、教職員を対象とした「ハラスメント問題研修会」を開催している。本年度の実際内容は以下の通りである。

(1) 留学生のための交通安全講習会

国際教育交流センターは、留学生の安全な日常生活を支援するため、吹田警察と安全衛生管理部との共催で「留学生のための交通安全講習会」を4月に開催した。参加者は34名であった。

Important information for all international students
留学生の皆さんへ大事なお知らせ

Learn about ①traffic safety (rules and manners for riding a bicycle)
②crime prevention to protect yourselves
交通安全、自転車運転のルールとマナー、そして犯罪にあわないための知識について学ぼう！

Workshop about traffic safety and crime prevention by Suita Police
吹田警察署による交通安全と防犯講習会



[Registration not required] [申込不要]
※逐次通訳あり(English interpretation provided)

4:30 p.m.-5:30p.m., Mon., April 10, 2017
平成29年4月10日(月) 16:30~17:30

Ichō Kaikan, 3rd Floor, Suita Campus, Osaka University
大阪大学 吹田キャンパス 銀杏会館3階 阪急電車・三和銀行ホール



吹田警察署/国際教育交流センター/安全衛生管理部/国際学生交流課



講習会の様子(2017.4.10)

(2) 留学生のための防犯防災講習会

国際教育交流センターでは、留学生の日々の安心安全な生活のため、7月5日に豊中キャンパスの全学教育機構サイエンスコモンズ・サイエンススタジオA（11名参加）で、10月18日に豊中キャンパスの全学教育機構ステューデントコモンズ・セミナー室B（14名参加）で、安全衛生管理部の山本仁教授を講師に招いて「異国の地で身を守るために：For surviving in the foreign country」と題して講演会を開催した。

留学生対象防犯防災交通安全講習会
防犯、防災の知識、交通安全、自転車運転のルールとマナーについて学ぼう！
「異国の地で身を守るために」
[申込不要]
平成29年7月5日（水）4:30-6:00 p.m.
豊中キャンパス
サイエンスコモンズ1階 サイエンススタジオA
使用言語：英語（日本語資料あり）
日本人学生も参加OK
国際教育交流センター／安全衛生管理部／国際学生交流課

Workshop on safety tips about disaster & crime prevention
Join us to learn about crime and disaster prevention to protect yourselves in Japan!
For surviving in the foreign country
「異国の地で身を守るために」
[Registration not required]
1:00-2:30 p.m., Wed., October 18
※Language: English (Japanese handouts provided)
Seminar Room B, 2nd Floor,
Student Commons, Toyonaka Campus
日本人学生も参加OK
国際教育交流センター／安全衛生管理部／国際学生交流課



(3) 留学生のための交通安全防犯講習会

10月には、交通安全講習と防犯講習を合わせた内容で吹田警察と安全衛生管理部との共催で「留学生のための交通安全防犯講習会」を吹田で開催した。参加者は29名であった。

Important information for all international students
留学生の皆さんへ大事なお知らせ
Learn about ①traffic safety (rules and manners for riding a bicycle)
②crime prevention to protect yourselves
交通安全、自転車運転のルールとマナー、そして犯罪にあわないための知識について学ぼう！
Workshop about traffic safety and crime prevention by Suita Police
吹田警察署による交通安全と防犯講習会
[Registration not required] [申込不要]
※逐次通訳あり(English interpretation provided)
4:30 p.m.-5:30p.m., Mon., October 16, 2017
平成29年10月16日（月） 16:30～17:30
Icho Kaikan, 3rd Floor, Suita Campus, Osaka University
大阪大学 吹田キャンパス 銀杏会館 3階 阪急電車・三和銀行ホール
吹田警察署／国際教育交流センター／安全衛生管理部／国際学生交流課

(4) 留学生のための防災体験学習フィールドトリップ

東日本大震災をはじめ、熊本・大分地震災害や各地での集中豪雨や土砂崩れなど自然災害から身を守るための防災知識や救急救命処置の方法などの学習ニーズが高まるなか11月2日に大阪市立阿倍野防災センターで留学生向け防災体験学習フィールドトリップ（バスツアー）を初めて開催した。留学生・日本人学生ら26名が参加。



大阪大学
OSAKA UNIVERSITY

Imagine WE MANAGE

free! FIELD TRIP FOR THE DISASTER MANAGEMENT 11 NOV. 2nd

Many programs as below...

Virtual earthquake experience, Fire fighting experience, First-aid treatment, and more!

meet 10:30 Toyonaka campus

meet 11:00 Suita campus

leave at 15:00pm

Program starts at 13:00pm
Abeno Life Safety Learning Center, Osaka City

Apply to CIEE [due date: Oct. 20th (Fri)]

The first 30 int'l students will be accepted.

Application should be followed as below:

mail to: iris@ciee.osaka-u.ac.jp

title: "CIEE 2017 Autumn field trip application"

We need your personal info below for insurance:

①Name(also in katakana), ②Affiliation at OU,
③Nationality, ④Gender, ⑤Age(DOB)

Questions? Please call to 06-6879-7076(0855)

NOTICE Please bring your own lunch.

CIEE Center for International Educational Exchange

大阪大学国際教育交流センター

(5) ハラスメント問題研修会

国際教育交流センターでは、ハラスメント問題に対する教職員の意識向上を図るため、ハラスメント相談室の濱田綾助教（専門相談員）を講師としてお招きし、「ハラスメント防止研修会」を平成30年2月23日に実施した。午前10時30分から12時までの1時間半にわたり、さまざまなハラスメントの問題について講演および質疑応答が行われた。参加者は25名であった。

7. CIEE ミーティング

国際教育交流センターでは、2018年1月よりCIEE ミーティングが始まった。ミーティングの目的は、所属の部署やチームを超えて教職員がネットワークづくりのできる場所を提供することであり、月に2度、ランチタイムや夕方に1時間程度、共創イノベーション棟1Fの男女協同コラボレーティブ・スペースで開催されている。CIEE教職員や国際部職員を中心に、関心のある教職員は誰でも参加することができ、時間内は自由に出入りができる。

近年、大阪大学の留学生数が激増する中で、国際教育交流センターが教育交流支援等において関わる学生数は大幅に増えており、これに伴い学生の多様化がこれまで以上に進んでいる。また、大学の業務が複雑化する一方で、教職員の入れ替わりが以前より頻繁に見られ、その結果、複数の部署やチームによる運営が必要な業務や、今までとは異なる新しい業務に携わる機会が増えつつある。このような状況の中で円滑に業務を遂行するには、教職員間のコミュニケーションが不可欠であり、そのためには、その背後に所属部署やチームを超えた良好な人間関係がなくてはならない。CIEE ミーティングは、このように関係者が互いに相談できる人間関係を築いたり、あらかじめ協力し合える体制を整えたりするための場のひとつとしての位置づけである。

平成30年度も引き続き、第3金曜 12:00～13:00（ランチ各自持参）および第4金曜日 16:00～17:00（お茶・お菓子）にCIEE ミーティングを実施する予定である。和やかな雰囲気の中での交流や意見交換の機会として、初めての人でも積極的にご参加いただければ幸いである。

8. 派遣プログラム運営のアウトソース化

学生を持たない、いわば「大学中央」である本センターとしては、専門性の高いプログラムよりも、休暇中の短期派遣の「次のステップ」、つまり将来の交換留学参加などにつながる語学資格取得などを目的とするプログラム運営を心がけてきた。専門性の高いプログラムは各部局のイニシアティブにお任せするとして、主として低年次生などを対象として、学部横断的で汎用性が高いプログラムの開発運営が本センターのミッションだと信じているからである。「汎用性が高い」とは、どのようなものを指すのかについては様々な考え方があると思われるが；

- ① 外国語
- ② 異文化体験
- ③ 国際交流
- ④ インターンシップ

などについて、学生達に刺激を与えるプログラムが考えられる。

そのような中、特に①に関するプログラム運営の外部委託について、外部のエージェントから打診を受ける機会もあり、国際部国際学生交流課と短プロチームとの間で種々の交渉、検討そして情報収集を行った。その結果CIEE日本代表部（国際教育交換協議会日本代表部）と提携し、本センターにとっては「プログラム空白区」であったニュージーランドのオタゴ大学での語学研修プログラムの研修を委託することになった。具体的には主として学生への広報は国際部、運営はCIEEが担当し、授業化や単位付与などについて本センター教員が汗をかくという構造である。ちなみに単位化については外部機関に運営を委託し、学生評価に繋がるデータ収集を任せるという特殊性に鑑みて、五段階評価ではなく「パス・フェイル」の二段階の評価を取り入れる方向である。

12人以上20人以下の規模での開催を目指してプログラムの多様化を図る方向であり、主として「海外初体験」の学生に手厚いケアを与えつつ留学への動機付けをして貰おうという意図である。

Ⅱ. 現 況

1. 運営形態

国際教育交流センターは、平成6年に設置された留学生センターが平成22年4月に発展的に改組してできた学内共同教育研究施設である。国際教育交流センターはその最高意思決定機関として国際教育交流センター教授会を置いている。国際教育交流センター教授会は、国際教育交流センター長（本センター教授）、国際教育交流センター専任教員9名、及び各研究科から選ばれた教授または准教授15名、計25名の本学教員で構成されている。本教授会において国際教育交流センターの業務と運営に関する重要事項が審議される。本年度も、例年同様、毎月1回（8月を除く）定例教授会が開かれた。

国際教育交流センター教授会の下には、総合計画委員会、評価委員会、財務委員会、教務委員会、広報出版委員会の5つの委員会が設置され、教授会構成員が委員となって、役割を果たしている。また、国際教育交流センターの具体的な運営に関する細目を検討したり連絡調整等を行ったりするために、国際教育交流センター教員連絡調整会議が毎月1回（8月を除く）開催されている。同会議は、センター長を含む国際教育交流センター教員15名全員（専任教員10名、特任准教授3名、特任講師1名、特任助教1名）及び国際教育共通事務室の室長と室長補佐と係員が構成員となっている。この会議を通して、センターの運営や各種業務や行事の運営が円滑に行われ、また部門間の協力や連絡調整が有効に行われている。

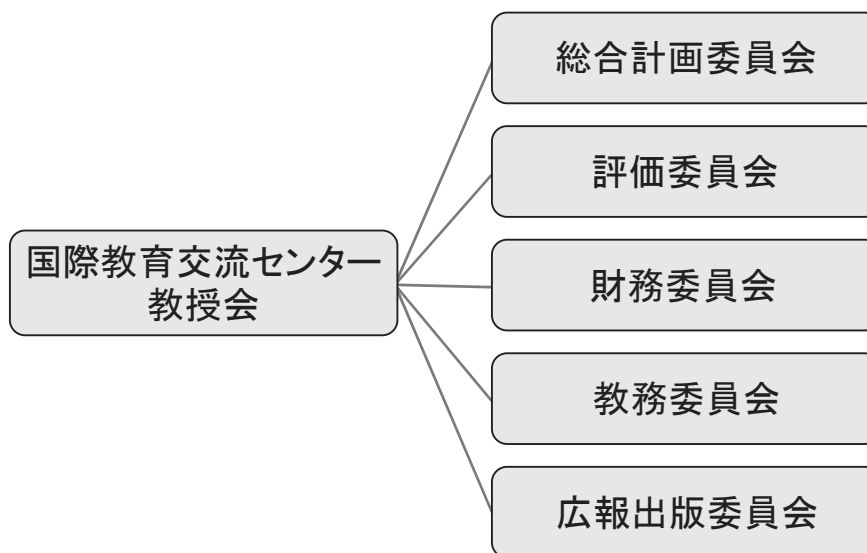


図1 国際教育交流センター教授会と各種委員会

2. 組 織

国際教育交流センターは、交流アドバイジング研究チーム（教授 1、講師 1、特任准教授 1）、短期プログラム開発研究チーム（教授 1、准教授 2、特任助教 1）、日本語教育研究チーム（教授 3、准教授 3、特任准教授 1、特任講師 1）の 3 つのチームとサポートオフィスで構成されている。そして、教員を中心として、特任事務職員（交流アドバイジング研究チーム 2、短期プログラム開発研究チーム 3、日本語教育研究チーム 1、サポートオフィス 2）も参画して、実際の業務にあたっている。

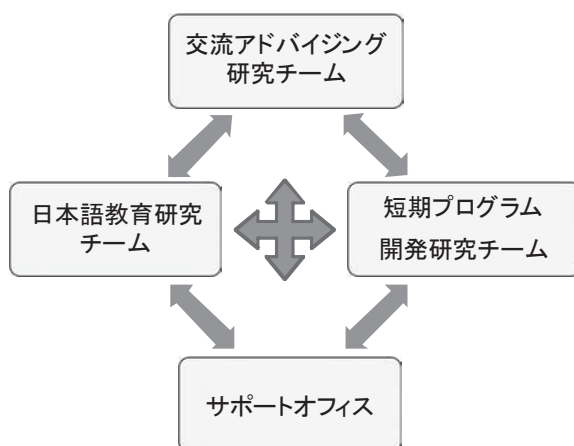


図2 国際教育交流センターのチームとサポートオフィス

また、各チームは必要に応じて相互支援・協力をしながら各種の業務に当たっている。センターが行っている主な業務は以下の通り。

教育	留学生受け入れ支援	海外留学派遣支援	地域・社会貢献	サポートオフィス
- 日本語研修コース - 留学生日本語プログラム - 国際交流科目 - 全学共通教育（日本語と多文化コミュニケーション） - 全学共通教育基礎セミナー - 大学院教育 - 大学院高度副プログラム、大学院高度プログラム - 超域イノベーション博士課程プログラム、未来共生イノベーター博士課程プログラム - 学部英語プログラムにおける日本語科目と教養科目 - 各種の超短期プログラム	- OUSSEP 運営 - 超短期プログラムの開発と運営 - 留学生オリエンテーション - 留学生を対象としたカウンセリング - 受け入れ・派遣に関わるコーディネーション - 大阪大学留学生会（OUISA）との連携・支援 - Brothers and Sisters Program (BSP) の支援 - 留学生日本語スピーチコンテストの企画・運営 - 留学生のキャリア支援	- 短期派遣留学プログラムの開発と運営 - 海外留学相談・アドバイス - 海外留学・研修等危機管理オリエンテーション - 海外留学帰国学生と派遣内定者との交流会 - 海外留学帰国者スピーチコンテストの企画・運営	- 留学生交流情報室（IRIS） - 留学生支援ボランティア協議会 - いちよう日本語プログラム - ホストファミリープログラム - 公立学校教員初任者研修 - 国際理解教育への協力 - にほんごテーブル運営のボランティアグループの支援	- 新規来日留学生・外国人研究者等への情報提供 - ビザ取得手続き等各種手続きのサポート - 宿舍手配の支援 - 新規来日者オリエンテーション - 各種ハンドブックやホームページの作成・更新
研究活動				
- 日本語教育のカリキュラム・教材開発と日本語学習・教育支援システムの開発 - 多文化社会と留学生交流研究会の開催 - 留学生指導研究協議会等各種の研究会や研究協議会の開催 - 日本語教育に関する研究・開発、留学生教育、留学生交流に関する研究				

図3 国際教育交流センターの業務の概要

3. 教員、非常勤講師、特任事務職員等

※ 2017 年 4 月現在を基本とする。

センター長		有川 友子
交流アドバイジング 研究チーム	教授	有川 友子 (Ph.D、Education)
	講師	岡本 紗知 (Ph.D、Microbiology)
	准教授	魚崎 典子 (特任、博士 (工学))
	准教授	後藤 厳寛 (特任、修士 (学術))
短期プログラム開発 研究チーム	教授	近藤佐知彦 (Ph.D、Social Science)
	准教授	宮原 啓造 (Ph.D、Mechanical Engineering)
	助教	中野 遼子 (特任、博士 (言語文化学))
日本語教育研究 チーム	教授・副センター長	村岡 貴子 (博士 (言語文化学))
	教授	西口 光一 (博士 (言語文化学))
	教授	義永美央子 (博士 (言語文化学))
	准教授	大谷 晋也 (修士 (言語文化学))
		難波 康治 (教育学修士)
		西村 謙一 (法学修士)
		金 孝卿 (特任、博士 (応用言語学))
その他 兼任教員	講師	勝田 順子 (特任、博士 (学術))
	教授	佐藤 治子 (特任)
	留学生受入れ	鄭 聖汝 (講師、文学研究科)
	専門教育教員	安元 佐織 (講師、人間科学研究科)
		EL BALTI BELIGH (准教授、法学研究科)
		勝又壮太郎 (准教授、経済学研究科)
		卓 妍秀 (講師、理学研究科)
		藤田 清士 (教授、工学研究科)
		寺井 智之 (講師、工学研究科)
		金子 聖子 (助教、工学研究科)
		中橋 真穂 (助教、工学研究科)
		鎌谷 研吾 (講師、基礎工学研究科)
特任講師 (短期)		脊尾 泰子 (2017 年 6 月 16 日－8 月 15 日)
		後藤 多恵 (2017 年 6 月 16 日－8 月 15 日)
非常勤講師		岡崎 洋三、畑中 香乃、山崎 深雪、福良 直子、藤澤 好恵、 小原 俊彦、岡田亜矢子、梅本 仁美、伊藤 創、滝井 未来、 菅 摂子、浦木 貴和、野々口ちとせ、蔭山 拓、上仲 淳、 新庄あいみ、竹内 茜、矢部 正人、花井 理香、木村 康代、 乾 逸子、半田佳奈子、佐川 祥予
日本語 TA		植田 志穂、王 一瓊、王 健、張 若晨、 グエン ティ フェン チャン、トルコト・マリア、野瀬由季子、

	パンクラートワ・スネジャーナ、松田 佳子、横川 未奈、吉川 夏渚子、 柳 善美
特任事務職員	村田いずみ（留学生交流情報室）、段家 恭子（留学生交流情報室） 川上 圭子（短期チーム）、山村 賛美（短期チーム）、遠藤 美紀（短期チーム） 黒川 愛実（サポートオフィス）、三輪久美子（サポートオフィス）、
事務補佐員	福井めぐみ（短期チーム）、奥 奈津子（短期チーム、2017 年 5 月 31 日まで） 若林 沙希（短期チーム、2017 年 6 月 1 日から） 中村 香菜（サポートオフィス） 五十嵐美香（日本語教育チーム） 齊藤 千穂（日本語教育チーム）
留学生交流情報室 スタッフ	塩見知佐子、岩根 由依、山岸 美穂、山下 景子

4. 今年度の動き

宮原啓造准教授は、2018 年 3 月末をもって転出し、大阪大学工学研究科コマツみらい建機研究所に移った。金孝卿特任准教授は 2018 年 3 月末をもって転出し、同年 4 月 1 日から早稲田大学日本語教育研究センター准教授（任期付き）に着任した。また、本年度は、夏の J-ShIP プログラムにおいて、同期間中の特任講師として脊尾泰子氏（本務校はマギール大学、講師）と後藤多恵氏を任用した。両氏とも、コーディネータとしてまた授業担当教員として十二分な役割を果たしてくれた。

Ⅲ. 留学生対象日本語プログラム

国際教育交流センターでは、下記表に見るとおり、全学の留学生を対象に各種日本語プログラムを実施／提供している。学生の多様な日本語学習ニーズに応じ、総合的な日本語科目および専門日本語科目を中心に提供するプログラム内容となっている。未習者を対象とした入門レベル（100 レベル）から、日本語能力試験 N1 相当以上の超上級レベル（700 レベル）まで7段階のレベルを設定している。

* 単位あり正規科目

対象留学生		プログラム名	レベル
大学院生・研究生 (研究留学生)	国費大使館推薦	1. 留学生日本語集中コース	100 ～ 300
	全学	2. 留学生日本語選択コース	100 ～ 700
	全学	3. 学際融合教育科目*	600 ～ 700
学部留学生	一般正規生	4. 全学共通教育：第2外国語/国際教養*	700
	学部英語コース	4'. : 第1外国語*	100 ～ 600
短期留学生		5. 国際交流科目（日本語）*	100 ～ 600
日韓共同理工系留学生プログラム生		6. 日韓共同理工系留学生プログラム	400・500

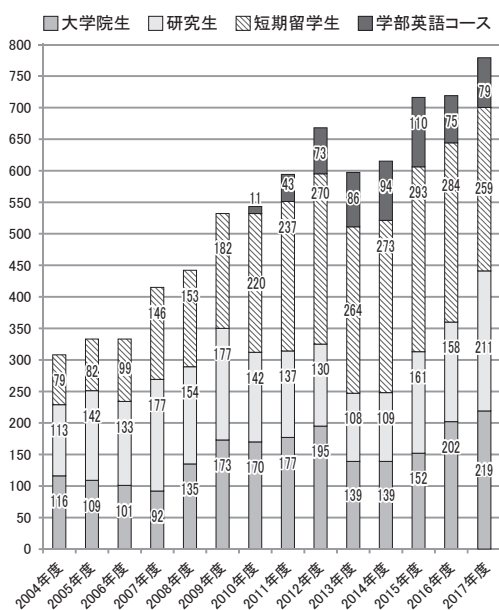


図1 年度ごと身分別履修者数の推移
(学部一般正規生（上表の4）は含まない）

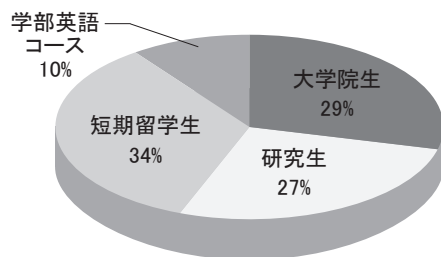


図2 2017年度履修者身分別分布

2017年度の春夏学期・秋冬学期の履修者数合計は768名で、過去最高を更新している（図1）。身分別分布（図2）にみると、短期留学生が34%と最大の割合を占める。また、研究生の受講者数の増加傾向も近年の特徴である。

2004年度以降の推移（図1）から、総履修者数がこの12年で約2倍以上に増加していることがわかるが、短期留学生増およびG30学部英語コース新設が日本語履修者数急増の要因となっている。G30による留学生増の方針を実現するために開始された学部英語コースや短期留学生の積極的受け入れといった大学の国際化戦略を反映した結果である。

また、2017（平成29）年度から大学全体の学事暦が変更され、4学期制が導入された。本センターの日本語プログラムでは、選択コースの1科目（ビジネスコミュニケーションのためのケース学習）が冬学期のターム科目として開講された以外は、全ての科目をセメスター科目（春夏学期および秋冬学期開講）として開講した。

上記1～6の各プログラムの時間割、および、選択コースの履修登録状況は、巻末記載の資料1、資料2に示している。

1. 日本語集中コース

日本語集中コースは、主として本学の大学院への進学を希望する留学生を対象とした15週間の集中的な日本語予備教育コースである。日本語研修生の大部分は文部科学省の国費留学生（大使館推薦研究留学生および教員研修生）が占めるが、定員に余裕がある場合には、所定の選考手続きを経た上で、学内のその他の留学生（研究生、大学院生等）も受け入れている。

日本語研修生（以下、学生）は、プレースメントテストおよび面接の結果により日本語レベルが判断され、以下の通り、IJ100, IJ200, IJ300の3クラス（春夏学期はIJ150も含む4クラス）に分かれて日本語を学ぶ。本コースの目標は、日本語能力の差異にかかわらず、日本語により専門分野のトピックについてパワーポイント等の視覚資料を活用しながら短いプレゼンテーションが行えるようになることである。学期末には修了発表会を実施し、各自専門分野のトピックについてプレゼンテーションを行う。この修了発表会には研修生の研究指導教員を招待する他、発表準備の過程を随時指導教員に報告し、日本語研修と研究活動との接続に配慮している。また、大学での研究活動を行うにふさわしい日本語教育を提供するために、学生のニーズや学習目的を考慮した上で大学での言語生活もトピックとした教材開発を行い、それらを授業で活用し、さらに改善を重ねている。

(1) IJ100/150 クラス

① 概要

100クラスは、コース開始時に日本語の学習経験が全く、もしくはほとんどない学生を対象として、初歩から日本語を学習する。例年受講生が多い春夏学期には、より学生のレベルに応じたきめ細かい教育を実施するため、100/150/200/300の4クラス体制をとっている。100クラスは日本語学習経験が全くない学生、150クラスはカタカナやひらがながかろうじて読め、挨拶程度の日本語が使えるレベルの学生を対象とする。授業時間数は1週間当たり14ないし15コマである。うち2ないし4コマを漢字と語彙のクラスにあてている。

100/150クラスの学生の多くは、まったく言葉の通じない異文化の中で初めての生活を経験することになる。そのため、精神的なケアに特段の注意を払いつつ日本語の教育を行う必要がある。学習は「自己表現のための日本語」を習得することを中心に進められ、最終的には、教師のサポートを受けつつ自分の専門分野について簡単なプレゼンテーションをすることを目標としている。

② 時間割

第46期・第47期 日本語集中コースIJ100, IJ150 クラス時間割（平成29年度）

第46期

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
2時間目 10:30～12:00	講義 IJ100, 150	チュートリアル1 IJ100, 150	講義 IJ100, 150	チュートリアル2 IJ100	チュートリアル2 IJ150
12:00～13:00 昼休み					
3時間目 13:00～14:30	コミュニケーション 行動 IJ100, IJ150	コミュニケーション 行動 IJ100, IJ150	プレゼンテーション IJ100, IJ150	コミュニケーション 行動 IJ100, IJ150	コミュニケーション 行動 IJ100, IJ150
4時間目 14:40～16:10	コミュニケーション 行動 IJ100, IJ150	コミュニケーション 行動 IJ100, IJ150	プレゼンテーション IJ100, IJ150	コミュニケーション 行動 IJ100, IJ150	コミュニケーション 行動 IJ100, IJ150

第 47 期

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
2 時間目 10:30~12:00	チュートリアル 1 IJ100	チュートリアル 2 IJ100		チュートリアル 3 IJ100	チュートリアル 4 IJ100
12:00~13:00 昼休み					
3 時間目 13:00~14:30	コミュニケーション 行動 IJ100	コミュニケーション 行動 IJ100	プレゼンテーション IJ100	コミュニケーション 行動 IJ100	コミュニケーション 行動 IJ100
4 時間目 14:40~16:10	コミュニケーション 行動 IJ100	コミュニケーション 行動 IJ100	プレゼンテーション IJ100	コミュニケーション 行動 IJ100	コミュニケーション 行動 IJ100
5 時間目 16:20~17:50			講義 IJ100		

(2) IJ200 クラス

① 概要

200 クラスは、初級修了者を対象としているが、来日前に母国で独習に近い方法で日本語を学んだ者も含まれ、特に口頭表現能力のレベルはかなり幅が広いクラスである。授業時間数は 1 週間当たり 12 コマで、10 コマの 200 クラス専用授業とチュートリアル 1 コマおよび選択必修の漢字・語彙クラスで構成されている。なお、「漢字・語彙クラス」は漢字系か非漢字系かに分かれて受講する（下記の時間割参照）。「コミュニケーション行動（IJ200）」は、日本社会への適応と大学の研究室での研究活動を支えるための社会文化能力を獲得することを目的とし、基本的にトピックシラバスによりカリキュラムを編成している。また、修了発表の準備に向けた「プレゼンテーション基礎」、研究生活をトピックにした「読解」クラスを設けている。

② 時間割

第 46 期・第 47 期日本語集中コース IJ200 クラス時間割（平成 29 年度）

第 46 期

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 時間目 8:50~10:20			漢字と語彙 漢字系 JK202		
2 時間目 10:30~12:00	漢字と語彙 非漢字系 JK201	コミュニケーション 行動 IJ200	チュートリアル IJ200	読解 IJ200	
12:00~13:00 昼休み					
3 時間目 13:00~14:30	コミュニケーション 行動 IJ200	コミュニケーション 行動 IJ200	読解 IJ200	コミュニケーション 行動 IJ200	プレゼンテーション 基礎 IJ200
4 時間目 14:40~16:10	コミュニケーション 行動 IJ200			コミュニケーション 行動 IJ200	プレゼンテーション 基礎 IJ200

第 47 期

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 時間目 8:50~10:20			漢字と語彙 漢字系 JK202		
2 時間目 10:30~12:00	漢字と語彙 非漢字系 JK201	コミュニケーション 行動 IJ200	チュートリアル IJ200	読解 IJ200	
12:00~13:00 昼休み					
3 時間目 13:00~14:30	コミュニケーション 行動 IJ200	コミュニケーション 行動 IJ200	読解 IJ200	コミュニケーション 行動 IJ200	プレゼンテーション 基礎 IJ200
4 時間目 14:40~16:10	コミュニケーション 行動 IJ200			コミュニケーション 行動 IJ200	プレゼンテーション 基礎 IJ200

※漢字と語彙：JK201 は、母国で漢字を使用しない学生のための授業。JK202 は、母国で漢字を使用する学生のための授業。

(3) IJ300 クラス

① 概要

300 クラスは、日本語を 1～2 年、約 200～300 時間程度学習した経験を持つ学生を対象としている。授業時間数は 1 週間当たり 9 コマで、「コミュニケーション行動」4 コマ、「文法・読解」2 コマ、「漢字と語彙」および「ライティング」1 コマ、そして個別学習指導（「チュートリアル」）1 コマで構成されている。「コミュニケーション行動」はトピックベースの授業で、政府資料等の生教材を使用して読解、聴解、ディスカッション、ライティングを行い、これとは別に、研究活動で用いる文章作成のための基礎力養成を目的とした「ライティング」のクラスを設置している。「漢字と語彙」および「文法・読解」で語彙や文法を学習する。

② 時間割

春夏学期、秋冬学期とも、同一のトピック・ユニットで学習した。扱ったトピックは、気候・地理、食べる、家族、住む、大阪、男性と女性、若者・教育、環境問題、文化の歴史、社会の歴史である。

第 46 期・第 47 期 日本語集中コース IJ300 クラス時間割（平成 29 年度）

第 46 期

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 時間目 8:50~10:20			漢字と語彙 漢字系 JK302	漢字と語彙 非漢字系 JK301	
2 時間目 10:30~12:00		文法・読解 IJ300	コミュニケーション 行動 IJ300	コミュニケーション 行動 IJ300	
12:00~13:00 昼休み					
3 時間目 13:00~14:30	ライティング IJ300	文法・読解 IJ300	コミュニケーション 行動 IJ300	コミュニケーション 行動 IJ300	チュートリアル IJ300

第 47 期

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 時間目 8:50~10:20			漢字と語彙 漢字系/非漢字系 JK301/JK302		
2 時間目 10:30~12:00		文法・読解 IJ300	コミュニケーション 行動 IJ300	コミュニケーション 行動 IJ300	
12:00~13:00 昼休み					
3 時間目 13:00~14:30	ライティング IJ300	文法・読解 IJ300	コミュニケーション 行動 IJ300	コミュニケーション 行動 IJ300	チュートリアル IJ300

※漢字と語彙：JK301 は、母国で漢字を使用しない学生のための授業。JK302 は、母国で漢字を使用する学生のための授業。

○コーディネータ

村岡貴子（全体・IJ200 クラス）、西村謙一（IJ300 クラス）、金孝卿（IJ150 クラス）、
西口光一（IJ100 クラス）

○学生数と身分別内訳（IJ150 は春夏学期（第 46 期）のみ開講のため秋冬学期（第 47 期）は“—”と記す）

クラス別人数

	IJ100	IJ150	IJ200	IJ300	計
第 46 期	9	8	8	7	32
第 47 期	12	—	10	11	33
合計	21	8	18	18	65

身分別人数

	大使館推薦※1	教員研修※2	学内応募※3	計
第 46 期	28	—	4	32
第 47 期	6	8	19	33
合計	34	12	23	65

※1 大使館推薦クラス別内訳

	IJ100	IJ150	IJ200	IJ300	計
第 46 期	9	8	7	4	28
第 47 期	3	—	2	1	6
合計	12	8	9	5	34

※2 教員研修クラス別内訳

	IJ100	IJ150	IJ200	IJ300	計
第 46 期	—	—	—	—	—
第 47 期	3	—	2	3	8
合計	3	0	2	3	8

※3 学内応募クラス別内訳

	IJ100	IJ150	IJ200	IJ300	計
第 46 期	0	0	1	3	4
第 47 期	6	—	6	7	19
合計	6	0	7	10	23

教員研修生を除く、大使館推薦の配置（進学）先別内訳

	IJ100		IJ150		IJ200		IJ300		計
	学内	学外	学内	学外	学内	学外	学内	学外	
第 46 期	6	4	4	1	4	1	6	1	27
第 47 期	2	0	—	—	1	0	0	0	3
合計	8	4	4	1	5	1	6	1	30

○学生の出身国と配置(進学) 先一覧

学生の出身国

国名	第 46 期	第 47 期
アイルランド	1	0
イラン・イスラム共和国	1	0
インド	0	2
インドネシア共和国	0	6
エジプト・アラブ共和国	0	1
エチオピア連邦民主共和国	1	0
オーストラリア連邦	0	1
ガンビア共和国	1	0
カンボジア王国	1	0
ケニア共和国	2	1
コートジボワール共和国	0	1
コロンビア共和国	0	1
シリア・アラブ共和国	1	1
ジンバブエ共和国	1	0
スイス連邦	1	0
スーダン共和国	0	2
スペイン王国	0	1
スロバキア共和国	1	0
大韓民国	0	3
タイ王国	0	3
中華人民共和国	3	3
ネパール連邦民主共和国	1	0
ハイチ共和国	1	0
パナマ共和国	1	0
バングラデシュ人民共和国	1	1
フィリピン共和国	2	3
ブラジル連邦共和国	3	0
ベトナム社会主義共和国	4	1
南アフリカ共和国	1	0
ミャンマー連邦共和国	1	0
メキシコ合衆国	0	1
モーリタニア・イスラム共和国	1	0
モザンビーク	2	0
モロッコ王国	0	1
合計	32	33

配置(進学) 先一覧

配置(進学) 先	第 46 期	第 47 期
医学系研究科	2	4
医学系研究科保健学専攻	1	0
基礎工学研究科	1	0
経済学研究科	2	1
工学研究科	7	7
国際公共政策研究科	2	0
歯学研究科	1	2
情報科学研究科	4	3
微生物病研究所	1	4
免疫学フロンティア研究センター	1	0
薬学研究科	1	0
理学研究科	1	0
生命機能研究科	1	0
文学研究科	1	0
工学部	0	1
レーザー科学研究所	0	1
産業化学研究所	0	2
大阪教育大学	0	8
大阪市立大学	1	0
奈良先端科学技術大学院大学	5	0
総計	32	33

2. 留学生日本語選択コース

選択コースの主要な履修対象留学生は、全学の大学院生および大学院入学を希望する研究生である。これらの留学生の中には、研究活動の遂行に必要となるアカデミックな日本語能力の養成を必要とする者もいれば、研究活動や大学院入試は英語で行われるが、研究室等での日常的なコミュニケーションに日本語を必要とする者もいる。そのため、日本語を用いて論文の執筆やプレゼンテーション、口頭コミュニケーションなどの研究活動をするための「専門日本語」科目に力点を置くとともに、その基礎となる「一般日本語」科目として総合日本語科目や漢字と語彙科目を開講し、学内の留学生の幅広い日本語学習ニーズに対応している。受講希望者は本センターが開発した日本語レベルチェックをウェブ上で受け、各自の日本語学習ニーズと日本語学習に充当可能な時間等を勘案し、該当日本語レベル（入門 100 レベルから超上級 700 レベルまでの 7 レベル）の科目群の中から、必要な科目を週当たり 1 ～数科目選択できるように設定されている。

○開講科目

100 から 300 までの入門～中級前半レベルでは、総合日本語・漢字と語彙・文法講義で構成される一般日本語科目を提供している。一方、400 以上の中級～超上級レベルでは、専門をより深く学ぶための日本語をスキル（リーディング・ライティング・コミュニケーション・プレゼンテーション）ごとに学ぶ専門日本語科目や、キャリア形成を視野に入れたビジネス日本語科目を提供している。

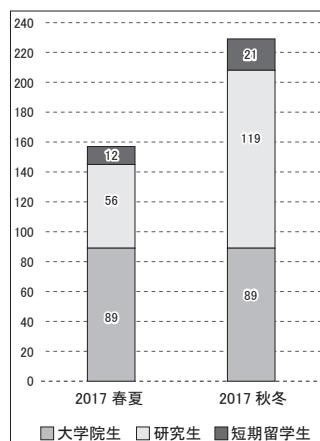
開講科目一覧

	一般日本語科目			専門日本語科目					
	総合日本語 (JB)	漢字と語彙 (JK)	文法講義 (JG)	アカデミックリーディング (JR)	アカデミックライティング (JW)	アカデミックコミュニケーション (JC)	アカデミックプレゼンテーション (JP)	ビジネス日本語コミュニケーション (BJ)	ビジネスコミュニケーションのためのケース学習 (CBL-BJ)
100 (入門)	JB100 ^{*1}								
200 (初級)	JB200 ^{*1}	JK ^{*2} 201	JK ^{*3} 202/302						
300 (初中級)	JB300 ^{*1}	JK ^{*2} 301	JG ^{*4} 300/400						
400 (中級)					JW 400/500	JC 400/500			
500 (中上級)									
600 (上級)				JR 600/700	JW 600/700	JC 600/700	JP ^{*4} 600/700	BJ ^{*5} 500/600/700	CBL-BJ ^{*6} 500/600/700
700 (超上級)									

^{*1} JA 受講者は受講できません。^{*2} 母語で漢字を使わない人のためのクラスです。^{*3} 母語で漢字を使う人のためのクラスです。^{*4} 春夏学期のみ開講。^{*5} 秋冬学期のみ開講。^{*6} 冬学期のみ開講。

○履修登録者数

実数で春夏学期 157 名、秋冬学期は 229 名の計 386 名が選択コースを履修した。身分別内訳では、特に秋冬学期は研究生の割合が高く、研究生の日本語学習ニーズの高さが窺える。部局別では、工学研究科を筆頭に、14 研究科／学部および 5 研究所 3 センター（巻末に一覧）と、学内の日本語学習ニーズに広く応えていることがわかる。



学期・身分別受講者数



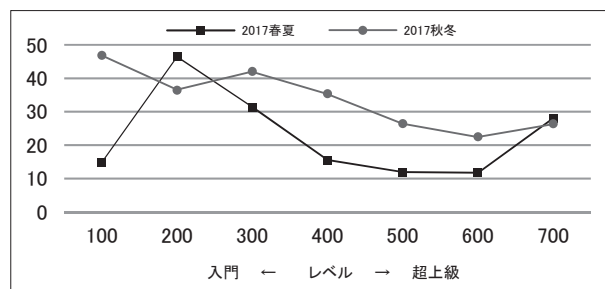
秋冬学期広報用ポスター

○履修者のレベル分布

入門（レベル 100）～初中級（レベル 300）程度の履修者が多く、その傾向は秋冬学期においていっそう顕著である。

○履修者の出身国・地域

春夏学期は 37 カ国・地域、秋冬学期は 46 カ国・地域に及ぶ。



履修者のレベル分布

3. 全学共通教育

全学共通教育における日本語関係科目は、他の外国語科目と同様、「第2外国語」と「国際教養2」の科目として開講されている。学部留学生の多様なバックグラウンドやニーズを勘案した結果、科目構成は「総合日本語」「専門日本語」「多文化コミュニケーション（日本語）」の三本立てとし、前二者を「第2外国語」として、後者を「国際教養2」として履修する位置づけとしている（ただし、インターナショナルカレッジの学生は「第1外国語」と「国際教養2」の科目として履修している）。「総合日本語」では大学生活全般に役立つ日本語能力を総合的に身につけることを目指し、「専門日本語」ではより専門的な日本語能力を養成することを目指す。また、「多文化コミュニケーション（日本語）」は、留学生と一般学生が協働してプロジェクトワークに取り組むことによって、多文化間における実践的なコミュニケーション能力を養成することを目的としている。科目の設定にあたっては、各科目の性格を明確にし、学生が自分のレベルやニーズに応じて履修する科目を組み合わせることのできる柔軟性を持たせることに意を用いた。

2009年度に2コマ増設した「多文化コミュニケーション（日本語）」および1コマ増設した「専門日本語」（吹田キャンパスで開講）、2011年度に2コマ増設した「専門日本語」に加え、2014年度は、さらに受講者のニーズに配慮して授業を展開するため、「総合日本語」と「多文化コミュニケーション（日本語）」をそれぞれ2コマずつ増設するとともに、後期からは緩やかな定員制を導入し、語学教育／多文化教育として適切なクラスサイズが実現できるようにした。2016年度には、それまで増やしてきたコマを整理し直し、学生の受講機会の維持に配慮しつつ、受講者の少なかった2コマを削減した。2017年度は増減なしで実施した。

以上の留学生向け科目以外に、一般学生が受講する「基礎セミナー」（「多文化コミュニケーション（日本語）」と合同開講）を加え、計27コマ（実質18コマ）を提供した。

また、2名が全学教育推進機構兼任教員として共通教育の実施運営に携わった。

○全学教育推進機構兼任教員

- ・村岡 貴子 教授：企画開発部言語教育部門
- ・大谷 晋也 准教授：実施調整部言語教育部会

○提供科目とコマ数

(1) 第2外国語

- ・総合日本語（1単位：前期2コマ・後期2コマ計4コマ提供）

大学生活全般に役立つ総合的な日本語能力の養成を目的とする。

- ・専門日本語（1単位：前期2コマ・後期3コマ計5コマ提供）

各自の専門を学習・研究する際に役立つ日本語能力の養成を目的とする。

(2) 国際教養2

- ・多文化コミュニケーション（日本語）（2単位：前期5コマ・後期4コマ計9コマ提供）

下記(3)の基礎セミナーを受講する一般学生と、本科目を受講する留学生とが、協働してプロジェクトワークを実践する活動を通じ、多文化社会でのコミュニケーション能力の向上を目指す。

(3) 基礎セミナー

- ・多文化コミュニケーションセミナー（2単位：前期5コマ・後期4コマ計9コマ提供）

上記(2)の「多文化コミュニケーション（日本語）」と合同で開講。

○共通教育提供科目・担当者一覧

前 期

(1) 第2外国語

授業科目名	担当者
総合日本語	大谷 晋也
総合日本語	勝田 順子
専門日本語	義永美央子
専門日本語	村岡 貴子

後 期

授業科目名	担当者
総合日本語	勝田 順子
総合日本語	畑中 香乃
専門日本語	義永美央子
専門日本語	大谷 晋也
専門日本語	村岡 貴子

(2) 国際教養2

授業科目名	担当者
多文化コミュニケーション(日本語)	岡本 紗知
多文化コミュニケーション(日本語)	宮原 啓造
多文化コミュニケーション(日本語)	大谷 晋也
多文化コミュニケーション(日本語)	西村 謙一
多文化コミュニケーション(日本語)	有川 友子

授業科目名	担当者
多文化コミュニケーション(日本語)	岡本 紗知
多文化コミュニケーション(日本語)	西村 謙一
多文化コミュニケーション(日本語)	大谷 晋也
多文化コミュニケーション(日本語)	後藤 厳寛

(3) 基礎セミナー

授業科目名	担当者
多文化コミュニケーションセミナー	岡本 紗知
多文化コミュニケーションセミナー	宮原 啓造
多文化コミュニケーションセミナー	大谷 晋也
多文化コミュニケーションセミナー	西村 謙一
多文化コミュニケーションセミナー	有川 友子

授業科目名	担当者
多文化コミュニケーションセミナー	岡本 紗知
多文化コミュニケーションセミナー	西村 謙一
多文化コミュニケーションセミナー	大谷 晋也
多文化コミュニケーションセミナー	後藤 厳寛

4. 国際交流科目

本学では、英語もしくはその他の外国語で実施する正規科目として国際交流科目を提供している。国際教育交流センターでは、同科目の枠組みで、短期留学生を主な対象として日本語科目（JA）を提供している。また、本科目は、学部英語コースの学生も第一外国語科目として履修している。各JAクラスでは、90分の授業が週に3コマ提供され、話す・聞く・読む・書くの各技能が総合的に習得できるようにカリキュラムが編成されている。本年度は、入門（JA100）から上級（JA600）まで、6レベルで各2トラックを開講した。また秋冬学期には人間科学部で開講されたFrontier Human Sciences Programに日本語の科目を提供するため、JA100が4トラックでの開講となった。トラック1は主として学部英語コース学生とiExPO、Frontier-Lab@OsakaUの短期留学生、トラック2は主としてOUSSEP学生が受講している。専任教員が担当する講義（lecture）は2トラック合同で開講し、トラック間の交流を図るとともに、限られた人員・予算内での学生数の増加に対応している。

○提供科目と担当者一覧

平成29年度 春夏学期

授業科目名	担当者
JA100 トラック1	難波 康治・岡田亜矢子・乾 逸子
JA100 トラック2	難波 康治・花井 理香
JA200 トラック1	義永美央子・上仲 淳・滝井 未来
JA200 トラック2	義永美央子・半田佳奈子
JA300 トラック1	西口 光一・畑中 香乃・矢部 正人
JA300 トラック2	西口 光一・岡崎 洋三
JA400 トラック1	勝田 順子・新庄あいみ
JA400 トラック2	勝田 順子・矢部 正人・蔭山 拓
JA500 トラック1	難波 康治・菅 摂子・藤澤 好恵
JA500 トラック2	難波 康治・滝井 未来
JA600 トラック1	大谷 晋也・岡崎 洋三・小原 俊彦
JA600 トラック2	大谷 晋也・佐川 祥予・伊藤 創

平成29年度 秋冬学期

授業科目名	担当者
JA100 トラック1	難波 康治・岡田亜矢子・乾 逸子
JA100 トラック2	難波 康治・花井 理香
JA100 トラック3	難波 康治・畑中 香乃・佐川 祥予
JA100 トラック4	難波 康治・新庄あいみ
JA200 トラック1	義永美央子・上仲 淳・滝井 未来
JA200 トラック2	義永美央子・半田佳奈子
JA300 トラック1	西口 光一・畑中 香乃・矢部 正人
JA300 トラック2	西口 光一・岡崎 洋三
JA400 トラック1	矢部 正人・新庄あいみ
JA400 トラック2	矢部 正人・蔭山 拓
JA500 トラック1	難波 康治・菅 摂子・藤澤 好恵
JA500 トラック2	難波 康治・滝井 未来
JA600 トラック1	大谷 晋也・岡崎 洋三・小原 俊彦
JA600 トラック2	大谷 晋也・佐川 祥予・伊藤 創

5. 学際融合教育科目

本学の大学院教育では、研究科等の枠にとらわれない、複眼的視野を養うための教育の充実を目指す学際融合教育科目が提供されている。大学院に在籍する留学生の増加に伴い、研究活動の遂行のために必要なアカデミックな日本語能力の必要性が高まっているが、本センターではこのようなニーズに対応するため、「上級専門日本語・アカデミックリーディング」「上級専門日本語・アカデミックライティング」「上級専門日本語・アカデミックプレゼンテーション」「上級専門日本語・アカデミックコミュニケーション」の4科目を学際融合教育科目（いずれもセメスター科目、「上級専門日本語・アカデミックプレゼンテーション」は春夏学期のみ開講）として提供している。また春夏学期には、日本または日系企業での就職を希望する学生対象の科目として、「キャリアデザインとビジネス・コミュニケーション」を開講した。各科目を履修し、所定の評価を得た受講生は1科目あたり2単位を取得することができる。これらの科目では、理系・文系を問わず、さまざまな国・地域からの留学生が集まる環境を生かし、言語・文化や専門分野を超えた対話や学びの場を提供するように努めている。学期ごとの開講科目名および担当者は下記の通りである。

○学際融合教育科目・担当者一覧

前 期		後 期	
授業科目名	担当者	授業科目名	担当者
上級専門日本語 (アカデミック・リーディング) A	西村 謙一	上級専門日本語 (アカデミック・リーディング) B	西村 謙一
上級専門日本語 (アカデミック・ライティング) A	村岡 貴子	上級専門日本語 (アカデミック・ライティング) B	村岡 貴子
上級専門日本語 (アカデミック・プレゼンテーション) A	難波 康治	上級専門日本語 (アカデミック・コミュニケーション) B	義永美央子
上級専門日本語 (アカデミック・コミュニケーション) A	義永美央子		
キャリアデザインとビジネス・ コミュニケーション	魚崎 典子 金 孝卿		

IV. 日韓共同理工系学部留学生プログラム

日韓共同理工系学部留学生プログラム（以下、KOSMOSプログラム）とは、日本の国立大学の理工系学部に韓国人留学生を受け入れる留学生事業であり、大阪大学では、プログラム初年度の平成12年度より受入を開始した。本プログラムでは、学部入学前に1年間の予備教育を行っており、前半を韓国で、後半を大阪大学で実施している。

全学的な受け入れ体制のもとで実施されているKOSMOSプログラムは、日本語教育と専門教科教育の2つの教育課程から構成されている。数学、物理、化学、英語といった専門教科は受け入れ学部の専門教育教員が担当し、日本語科目については、国際教育交流センター教員がコーディネーターとなり、授業の計画および実施に携わっている。

週7コマ開講されている日本語科目では、日常生活において日本語で円滑にコミュニケーションを行い、かつ大学生活で必要とされる総合的な日本語を運用する能力を養成することを目標とし、多様な科目を配置している。さらに、大学では自ら問題を発見し、分析し、その結果を発信する能力が求められることから、発表やディスカッション、レポート作成といった活動も重視している。

また、国際教育交流センターの日本語教育研究チームの教員が「ホームルーム」の時間を活用して生活面でのアドバイスをおこなっている。さらに、交流アドバイジング研究チームとも連携して、課外活動として地域の学校における国際理解教育プログラムへの参加も促している。

1. 時 間 割

第2次第8期日韓共同理工系学部留学生対象予備教育時間割（平成29年度）2017.10－2018.2

	月曜日 (吹田)	火曜日 (豊中)	水曜日 (吹田)	木曜日 (豊中)	金曜日 (吹田)
1時間目 8:50－10:20		共通教育 数学聴講 解析学	理系 日本語① (村上) Room 4		
2時間目 10:30－12:00	専門基礎 日本語① (蔭山) Room 4	専門教科 化学(1) (立光) C-S4	理系 日本語② (村上) Room 4	日本事情・ 異文化適応 (蔭山) C204	
昼休み			ホームルーム		
3時間目 13:00－14:30	専門教科 物理(Ⅱ) (李) Room 4	専門教科 化学(2) (立光) C-S4	専門教科 英語 (スミス) Room 4	専門教科 数学(2) (韓) C-S4	専門基礎 日本語③ (上仲) Room 4
4時間目 14:40－16:10	専門教科 物理(Ⅰ) (寺井) Room 4	専門教科 数学(1) (宮田) C-S4		専門基礎 日本語② (上仲) C-S4	専門基礎 日本語④ (上仲) Room 4

※月曜日・水曜日・金曜日は吹田で授業（国際教育交流センターICホール）

※時間割は次の順で記載……授業名、()内：講師名、下段：講義室名

※C-S4は全学教育推進機構C棟4階S4教室、C204は全学教育推進機構C棟2階204教室。

2. 学生数と進学先

平成 29 年度は、7 名の学生を受け入れた。進学先は、工学部 4 名、基礎工学部 2 名、理学部 1 名である。

3. 平成 29 年度日韓共同理工系学部留学生事業協議会

6 月 23 日に名古屋大学が当番校となって日韓共同理工系学部留学生事業協議会が開催され、本センターおよび国際学生交流課からは村岡貴子・本センター教授、西村謙一・同准教授、岡本雄一・国際学生交流課係長、松林慶・同事務職員の 4 名が参加した。同協議会は、日本の文部科学省と韓国国立国際教育院、日本側受入大学と韓国側の予備教育担当大学である慶熙大学の関係者が一同に会し、予備教育を含めた本事業の現状とその問題点等について認識の共有を図り、より効果的な事業実施に向けて検討を行うことを目的としている。

(1) 日 程 : 2017 年 6 月 23 日(金)

(2) 場 所 : 名古屋大学

(3) 講 演

(1) 「日本の留学生施策について」(文部科学省高等教育局学生・留学生課 松田 慎仁氏)

＊日韓共同理工系学部留学生事業関連のみ抜粋

- ・面接評価(8 分間)を点数化し、内申成績・筆記試験結果に加え、最終評価を行う。
- ・1 年に 1 度ではなく春夏学期(前期)終了後も成績調査を実施することを検討中。

(2) 「韓日共同理工系学部留学生派遣事業の支援方策について」

(大韓民国国立国際教育院 教育研究士 安性 垠氏)

- ・留年が確実となった学生については、奨学金の給付の中止が徹底される。
- ・留年の可能性のある学生については、韓国の国際教育院や保護者との情報共有を一層強化したい。
- ・第 3 次事業については、日韓両国間の相互交流に期待する。

(3) 「2017 年第 2 次第 8 期生韓国予備教育課程の現状報告」

(慶熙大学校国際教育院院長 趙 顕龍氏)

- ・韓国予備教育開始前に日本語予備教育を行った。来日時には N2 レベルを確保するよう教育している。
- ・専門科目の時間数を増やし、物理と化学を必修とした。
- ・教養科目では、韓国事情の科目を設けた。

(4) 全体会議

テーマ：日韓プログラムにおける予備教育の取り組みと今後の課題について

— 専門教育との関わりを中心に

(1) 「予備教育における数学・物理の授業について — 何をどのように教えるか」

(名古屋大学 富田 幸博 留学生予備教育教師)

授業の狙いとして①数学・物理で使用される「日本語」を学ぶこと、②日本の高校教育新課程に沿った内容を教えること等が示された。

(2) 「日本語教育における専門教育への橋渡しの取り組み ― 説明活動を取り入れた講義理解支援実践」
(名古屋大学 近藤行人・西坂祥平 留学生予備教育教師)

①大学における講義理解支援の必要性を認識し、②概念や事実を覚えるのではなく、概念を整理し自らの言葉で語りなおせる能力開発を支援する授業の実践が紹介された。

(3) 「卒業生による講演」

1) 「日韓プログラム生を対象とした予備教育に関するアンケート結果」

ファンボ・ドギョン (第1次第9期生)

日韓プログラム生を対象とした予備教育に関するアンケート結果の報告があった。予備教育生は、①予備教育が入学前のバッファーとして機能していることを評価していること、②聴講対策とコミュニケーション能力の養成をニーズとして指摘していることが示された。

2) 「予備教育に対する感想」 チン・ヒョンテ (第2次第1期生)

予備教育は、①日本語、日本文化への理解促進、専門科目の習得において有用であること、②知識を蓄え、かつ、学内外での活動をスムーズに行うための準備期間として意義があること、③今後の課題として、学部入学後により多様な経験ができるための変化が必要であることが指摘された。

V. 国際教養・専門複合型プログラム

国際教養・専門複合型プログラム（英語名 OUSSEP）は、大阪大学短期留学特別プログラムとして運用を開始された 1996 年以来、国際交流委員会が管掌する本学の交換留学プログラムの中核として平成 29 年度は春夏学期に 70 名、秋冬学期には 72 名の交換留学生を受け入れた。G30 によって非正規生を含めた留学生受入に数値目標を設定する動きの中で、Junior Year Abroad タイプの留学生の受け皿として、学内におけるその役割はますます重くなっている。同時に、日本人学生と留学生が英語で専門科目（国際交流科目）を共に学ぶ状況を学内に作るための戦略プログラムとしての性格も色濃くなってきた。なお国際交流科目の一部は「G30 英語コース」の履修科目としても指定されており、様々な背景を持つ学生が一堂に集うカリキュラムを充実させている。

平成 29 年度も奨学金受給者を主対象として UR 都市機構と連携した宿舎を用意した。職制上変則的ではあるものの、プログラムコーディネータが管理会社の協力の下に運営しており、かつては 8 住戸 16 人を住まわせていた宿舎を、本年度は 5 住戸 15 人の三人シェア体制へ変更するなど、留学生受入スキームのインフラ整備など、全学プログラムの運営課制下合理化に向けての先導的な役割を引き続いて果たしている。

なお平成 20 年度以来、留学生センター所属のコーディネータおよびサブコーディネータの二人体制（教員 1、職員 1）で運用されているが、平成 21 年度には G30 選定に伴い、サブコーディネータが G30 特任職員となった。教員 3（教授、准教授、特任助教）、職員 3（うち特任職員 1 はスーパーグローバル創成支援事業によって増員）並びに事務補佐員 2 名から構成される「短期留学開発研究チーム」によって運営されている一プログラムという位置づけになっている。また OUSSEP 向け英語授業担当者を対象とした FD 研修会を各学期授業前に開催し、英語授業の質の向上やノウハウの継承に努めている。

平成 28 年 9 月 24 日には第二期の OUSSEP（1997-1998）の総勢 22 名の参加者のうち 9 名もの元 OUSSEP 学生が大阪大学吹田キャンパスを再訪、ささやかな同窓会イベントを持つことが出来た。今では社会人としてそれぞれに責任のあるポジションに就いた元 OUSSEP 学生達であるが、当時のコーディネータ教員や留学生支援員の方とともに、18 年前の学生時代に戻って交歓の時をもつことができた。なかでも、全員が若い時期の日本留学経験のインパクトについて、感謝の念を持って語っていたのが印象的だった。

1. 行 事

OUSSEPおよび国際交流科目関係の行事（2017年4月から2018年3月まで）

月	日	曜日	行 事 等
4	1	土	4月受け入れ学生 大阪到着 市役所手続き等（～4/4（火））
	5	水	交換留学生オリエンテーション（OUSSEP, FrontierLab, iExPO）
			豊中キャンパスツアー
			OUSSEPオリエンテーション
			自主研究指導教員面談（豊中キャンパス）
	6	木	UR学生オリエンテーション
			吹田キャンパスツアー
			ホストファミリーとの出会いの会
			自主研究指導教員面談（吹田キャンパス）
	10	月	国際交流科目（平成29年度 春夏学期）開始
	10～13		学生定期健康診断（豊中キャンパス）
	14	金	国際交流科目（平成29年度 春夏学期）履修届提出締め切り
	19～26		学生定期健康診断（吹田キャンパス）
5	24	月	自主研究 Registration & Study Plan Form提出締め切り
	29	土	いちょう祭準備
	30	日	いちょう祭
6	1	月	いちょう祭 祭日
	2	火	いちょう祭片付け
	29	月	日本食文化調理体験（高野豆腐）
7	17	土	見学旅行（高野山）
	18	日	
8	10	月	日本食文化調理体験（わらび餅）
	27	木	平成29年 春夏学期 フェアウェルパーティ
9	7	月	国際交流科目（平成29年度 春夏学期）終了
	8	火	夏季休業開始 終了学生随時帰国
10	15	金	9月受入れ学生大阪到着（～9/20（水）） 市役所手続き等（～9/26（火））
	27	水	豊中オリエンテーション（交換留学生オリエンテーション、OUSSEPオリエンテーション） （豊中キャンパスツアー、自主研究指導教員面談）
	28	木	吹田オリエンテーション（UR学生オリエンテーション、ホストファミリーとの出会いの会、） （自主研究指導教員面談、吹田キャンパスツアー）
11	2	月	国際交流科目（平成29年度 秋冬学期）授業開始
	11	水	国際交流科目（平成29年度 秋冬学期）履修届提出締め切り
	20	金	自主研究 Registration & Study Plan Form提出締め切り
12	2	木	大学祭準備 授業なし
	3	金	まちかね祭大学祭（～11/5（日））
	6	月	My Country & My University発表会（吹田キャンパスサイバーメディアコモンズ） 大学祭片付け 授業なし
	11	土	見学旅行（宮島・広島）
	12	日	
	27	月	日本食文化調理体験（お好み焼VS広島焼き）
1	27	水	冬期休業（～1/3（水））
2	12	金	大学入試センター準備のため休講
	30	火	平成29年度 秋冬学期 フェアウェルパーティ
3	9	金	国際交流科目（平成29年度 秋冬学期）終了
	10	土	春季休業開始 終了学生随時帰国

2. 2017 年度春夏学期：OUSSEP 学生名簿と国際交流科目開講リスト

2017 年度 春夏学期 OUSSEP 学生名簿 (1/2)

	国 籍	所 属 大 学	性別	配属部局
1	アメリカ合衆国	ジョージア大学	男	基礎工学部
2	アメリカ合衆国	テキサス A&M 大学	男	外国語学部
3	アメリカ合衆国	テキサス A&M 大学	男	文学部
4	アメリカ合衆国	テキサス A&M 大学	女	文学部
5	アメリカ合衆国	テキサス A&M 大学	男	外国語学部
6	イギリス	リーズ大学	男	人間科学部
7	イギリス	リーズ大学	女	理学部
8	イギリス	リーズ大学	女	理学部
9	イギリス	リーズ大学	男	文学部
10	インドネシア	インドネシア大学	女	文学部
11	オーストラリア	アデレード大学	女	文学部
12	オーストラリア	モナシュ大学	女	文学部
13	オーストラリア	モナシュ大学	男	外国語学部
14	オランダ	デルフト工科大学	男	経済学研究科
15	カナダ	トロント大学	女	外国語学部
16	カナダ	トロント大学	男	人間科学部
17	カナダ	ブリティッシュコロンビア大学	女	文学部
18	カナダ	ブリティッシュコロンビア大学	女	外国語学部
19	カナダ	ブリティッシュコロンビア大学	女	外国語学部
20	カナダ	マックマスター大学	女	法学部
21	カナダ	マックマスター大学	男	工学部
22	カナダ	マックマスター大学	男	理学部
23	カナダ	マックマスター大学	女	理学部
24	スウェーデン	スウェーデン王立工科大学	男	基礎工学研究科
25	スペイン	ビーレフェルト大学	女	外国語学部
26	タイ	パデュー大学	男	工学部
27	ドイツ	アーヘン工科大学	男	理学研究科
28	ドイツ	アーヘン工科大学	女	工学研究科
29	ドイツ	アーヘン工科大学	男	基礎工学研究科
30	ドイツ	アーヘン工科大学	男	経済学研究科
31	ドイツ	エアランゲン・ニュルンベルク・フリードリヒ・アレクサンダー大学	女	工学部
32	ドイツ	グルノーブル大学連合	男	基礎工学研究科
33	ドイツ	ゲーテ大学フランクフルト	女	人間科学部
34	ドイツ	ビーレフェルト大学	女	基礎工学部
35	ドイツ	ミュンヘン工科大学	女	経済学研究科

2017 年度 春夏学期 OUSSEP 学生名簿 (2/2)

	国 籍	所 属 大 学	性別	配属部局
36	ドイツ	ルール大学ボーフム	女	人間科学部
37	フィリピン	アテネオ・デ・マニラ大学	男	人間科学部
38	フィリピン	デ・ラ・サール大学	女	文学部
39	フィリピン	フィリピン国立大学	女	外国語学部
40	フィンランド	オーボアカデミー大学	男	経済学研究科
41	フィンランド	オーボアカデミー大学	女	人間科学研究科
42	フィンランド	ユヴァスキュラ大学	女	理学部
43	フィンランド	ユヴァスキュラ大学	女	理学研究科
44	フランス	グルノーブル大学連合	男	工学研究科
45	フランス	グルノーブル大学連合	女	外国語学部
46	フランス	グルノーブル大学連合	男	経済学部
47	フランス	ボルドー大学	女	理学部
48	フランス	リール政治学院	女	外国語学部
49	フランス	リール政治学院	女	外国語学部
50	ベトナム	ハノイ国家大学	女	外国語学部
51	ミャンマー	ヤンゴン大学	女	人間科学部
52	ロシア	サンクト・ペテルブルク大学	女	外国語学部
53	ロシア	サンクト・ペテルブルク大学	女	外国語学部
54	ロシア	サンクト・ペテルブルク大学	女	外国語学部
55	ロシア	サンクト・ペテルブルク大学	女	文学部
56	ロシア	サンクト・ペテルブルク大学	女	人間科学研究科
57	ロシア	サンクト・ペテルブルク大学	男	経済学部
58	ロシア	サンクト・ペテルブルク大学	女	人間科学部
59	台湾	国立台湾大学	女	経済学研究科
60	台湾	国立台湾大学	女	経済学部
61	大韓民国	釜山大学校	女	文学部
62	大韓民国	釜山大学校	女	文学部
63	中華人民共和国	グローニンゲン大学	女	人間科学部
64	中華人民共和国	香港中文大学	女	経済学部
65	中華人民共和国	南京大学	女	文学部
66	中華人民共和国	南京大学	女	法学部
67	中華人民共和国	北京師範大学	女	文学部
68	中華人民共和国	北京師範大学	女	文学部
69	中華人民共和国	浙江大学	男	経済学部
70	日本	ミュンヘン工科大学	女	基礎工学部

2017 年度 春夏学期 国際交流科目開講リスト

No.	科目名 (和文)	科目名 (英文)	科目提供部局	主担当教員名
1	哲学的思考と日本の伝統	Philosophical Thinking and Japanese Traditions	文学研究科	榎本 文雄
2	文化人類学入門	Introduction to Cultural Anthropology	人間科学研究科	MOHACSI Gergely
3	比較社会学	Comparative Sociology	人間科学研究科	Scott NORTH
4	多文化共生論	Seminar in Studies of Multicultural Societies	人間科学研究科	Viktoriya KIM
5	政治学入門	Introduction to Politics	人間科学研究科	Philip Streich
6	社会の中の自己	Self, Identity and Society	人間科学研究科	Don BYSOUTH
7	日本の社会階層	Social Stratification in Japanese Society	人間科学研究科	Paola CAVALIERE
8	基本的人権論	Human Rights	人間科学研究科	Christie LAM
9	家族と結婚の社会学入門	Introduction to Sociology of Marriage and Family	人間科学研究科	Viktoriya KIM
10	知覚と認知の心理学	Psychology of Perception and Cognition	人間科学研究科	森川 和則
11	ジェンダー論	Gender Studies	人間科学研究科	Paola Cavaliere
12	日本法の諸問題	Topics in Japanese Law	法学研究科	Elbalti Beligh
13	比較法の諸問題	Topics in Comparative Law	法学研究科	Elbalti Beligh
14	バイオエシックスとヘルス・ロー	Bioethics and Health Law: Legal Issues Concerning Biotechnology, Medicine and Health Care System	法学研究科	瀬戸山晃一
15	身の回りの化学	Chemistry and Human Life	理学研究科	石川 直人
16	我が国の保健サービスと医療ケア	Health Service and Medical Care in Japan	医学研究科	磯 博康
17	地球総合工学入門	Introduction to Global Architecture: Role of Global Architecture in Sustainable Development	工学研究科	大倉 一郎
18	近代日本文学における大阪	Osaka in Modern Japanese Literature	言語文化研究科	村上スミス・アンドリュース
19	国際貿易と投資	International Trade and Investment	国際公共政策研究科	利 博友
20	異文化理解演習	Seminar Course for Intercultural Understanding	外国語学部	堀川 智也
21	イノベーションの管理と変遷	Managing Innovation and Change	インターナショナルカレッジ	三森八重子
22	総合日本語 JA100-トラック 1	Japanese JA100-Track 1	国際教育交流センター	難波 康治
23	総合日本語 JA100-トラック 2	Japanese JA100-Track 2		
24	総合日本語 JA200-トラック 1	Japanese JA200-Track 1	国際教育交流センター	義永美央子
25	総合日本語 JA200-トラック 2	Japanese JA200-Track 2		
26	総合日本語 JA300-トラック 1	Japanese JA300-Track 1	国際教育交流センター	西口 光一
27	総合日本語 JA300-トラック 2	Japanese JA300-Track 2		
28	総合日本語 JA400-トラック 1	Japanese JA400-Track 1	国際教育交流センター	勝田 順子
29	総合日本語 JA400-トラック 2	Japanese JA400-Track 2		
30	総合日本語 JA500-トラック 1	Japanese JA500-Track 1	国際教育交流センター	難波 康治
31	総合日本語 JA500-トラック 2	Japanese JA500-Track 2		
32	総合日本語 JA600-トラック 1	Japanese JA600-Track 1	国際教育交流センター	大谷 晋也
33	総合日本語 JA600-トラック 2	Japanese JA600-Track 2		
34	オンライン・リソースを活用した L2 学習	Second Language Learning with Online Resources	国際教育交流センター	魚崎 典子
35	日本の社会とイデオロギー	Japan: Society and Ideology	国際教育交流センター	近藤佐知彦
36	数学とその工学応用 (I)	Topics in Mathematics and its Engineering Applications (I)	国際教育交流センター	宮原 啓造
37	科学英語入門	Introduction to Scientific English	国際教育交流センター	岡本 紗知
38	異文化コミュニケーションとパフォーマンス	Intercultural Communication and Performance	国際教育交流センター	中野 遼子
39	自主研究 II-A 自主研究 II-B 自主研究 II-C	Independent Study II-A Independent Study II-B Independent Study II-C		各自主研究担当教員

3. 2017 年度秋冬学期：OUSSEP 学生名簿と国際交流科目開講リスト

2017 年度 秋冬学期 OUSSEP 学生名簿 (1/2)

	国 籍	所 属 大 学	性別	配属部局
1	アメリカ合衆国	ジョージア大学	男	理学部
2	アメリカ合衆国	ジョージア大学	女	人間科学部
3	イギリス	リーズ大学	女	文学部
4	イギリス	リーズ大学	女	人間科学部
5	オーストラリア	モナシュ大学	女	外国語学部
6	オーストラリア	モナシュ大学	女	文学部
7	オーストラリア	モナシュ大学	男	外国語学部
8	オーストラリア	アデレード大学	女	文学部
9	オーストリア	ウィーン大学	男	外国語学部
10	オーストリア	ウィーン大学	男	人間科学部
11	オランダ	デルフト工科大学	男	工学研究科
12	オランダ	グローニンゲン大学	女	人間科学部
13	オランダ	デルフト工科大学	男	工学部
14	カナダ	マックマスター大学	女	外国語学部
15	カナダ	ブリティッシュコロンビア大学	男	人間科学部
16	カナダ	グローニンゲン大学	女	人間科学部
17	カナダ	ブリティッシュコロンビア大学	女	人間科学部
18	スウェーデン	スウェーデン王立工科大学	男	基礎工学研究科
19	スペイン	ミュンヘンルートヴィヒ・マクシミリアン大学	男	理学部
20	スペイン	ビーレフェルト大学	女	外国語学部
21	セルビア	ウィーン大学	男	人間科学部
22	デンマーク	コペンハーゲン大学	男	外国語学部
23	デンマーク	コペンハーゲン大学	男	文学部
24	デンマーク	コペンハーゲン大学	男	人間科学部
25	ドイツ	ビーレフェルト大学	男	基礎工学部
26	ドイツ	ヨハン・ヴォルフガング・ゲーテ大学フランクフルト・アム・マイン	男	人間科学部
27	ドイツ	アウクスブルク大学	男	基礎工学部
28	ドイツ	ミュンヘン工科大学	男	工学部
29	ドイツ	アーヘン工科大学	男	情報科学研究科
30	ドイツ	ベルリン工科大学	男	基礎工学部
31	ドイツ	アーヘン工科大学	女	経済学研究科
32	ドイツ	エアランゲン・ニュルンベルク・フリードリヒ・アレクサンダー大学	女	経済学部
33	ドイツ	グローニンゲン大学	女	文学部
34	ドイツ	ミュンヘンルートヴィヒ・マクシミリアン大学	女	外国語学部
35	ドイツ	アウクスブルク大学	女	外国語学部

2017 年度 秋冬学期 OUSSEP 学生名簿 (2/2)

	国 籍	所 属 大 学	性別	配属部局
36	ドイツ	アウクスブルク大学	女	基礎工学部
37	ドイツ	アーヘン工科大学	男	理学研究科
38	ドイツ	アウクスブルク大学	女	経済学部
39	ドイツ	ミュンヘン工科大学	男	情報科学研究科
40	ドイツ	ヨハン・ヴォルフガング・ゲーテ大学フランクフルト・アム・マイン	女	人間科学部
41	ハンガリー	カーロリ・ガーシュパール カルバン派大学	女	外国語学部
42	フィリピン	デ・ラ・サール大学	女	文学部
43	フィンランド	オーボアカデミー大学	女	人間科学部
44	フィンランド	ヘルシンキ大学	女	法学部
45	フィンランド	ユヴァスキュラ大学 (数学科学部)	男	理学研究科
46	フィンランド	オーボアカデミー大学	男	理学研究科
47	フィンランド	ユヴァスキュラ大学 (数学科学部)	女	理学部
48	フィンランド	ヘルシンキ大学	女	法学部
49	フランス	グルノーブル大学連合	女	経済学研究科
50	フランス	グルノーブル大学連合	男	基礎工学研究科
51	フランス	グルノーブル大学連合	女	外国語学部
52	フランス	グルノーブル大学連合	男	基礎工学研究科
53	フランス	ストラスブール大学	男	人間科学部
54	メキシコ	メキシコ国立自治大学	男	工学部
55	メキシコ	メキシコ国立自治大学	男	理学部
56	ロシア	サンクトペテルブルク大学	女	文学部
57	ロシア	サンクトペテルブルク大学	女	人間科学研究科
58	香港	香港科技大学 (理学部)	男	基礎工学部
59	香港	香港科技大学 (理学部)	男	基礎工学部
60	台湾	国立台湾大学 (工学研究科/電気情報研究科)	男	工学部
61	台湾	国立台湾大学	女	人間科学部
62	台湾	国立台湾大学	女	人間科学部
63	大韓民国	釜山大学校	女	経済学部
64	大韓民国	釜山大学校	女	文学部
65	大韓民国	釜山大学校	女	外国語学部
66	中華人民共和国	北京大学	女	法学研究科
67	中華人民共和国	南京大学	男	文学部
68	中華人民共和国	復旦大学	女	人間科学部
69	中華人民共和国	武漢大学	女	経済学研究科
70	中華人民共和国	北京師範大学	女	工学部
71	中華人民共和国	北京大学	女	法学研究科
72	日本	ハイデルベルグ大学	女	人間科学研究科

2017 年度 秋冬学期 国際交流科目開講リスト

No.	科目名 (和文)	科目名 (英文)	科目提供部局	主担当教員名
1	日本における文化と言語の多様性	Cultural and Linguistic Diversity in Japan	文学研究科	渋谷 勝己
2	多変量統計科学	Multivariate Data Science	人間科学研究科	足立 浩平
3	日本のサル学	Primateology in Japan	人間科学研究科	中道 正之
4	社会学入門	Introduction to Sociology	人間科学研究科	Viktoriya KIM
5	文化人類学理論と論文の書き方	Cultural Anthropological Theory and Writing	人間科学研究科	Christie Lam
6	グローバル化と大学教育	Global Issues in Education	人間科学研究科	Kim Mawer
7	日本の神話と伝説	Japanese Myths and Legends	人間科学研究科	Irina Holca
8	社会学	Sociological Theory	人間科学研究科	Viktoriya KIM
9	市民社会運動	Introduction to Civil Society Movements	人間科学研究科	Christie Lam
10	比較思想史	Contemporary Japanese Thought	人間科学研究科	Wolfgang Schwentker
11	メディア社会学	Media Sociology	人間科学研究科	Viktoriya Kim
12	移動の社会学	Sociology of Migration	人間科学研究科	Viktoriya Kim
13	特別講義 (比較契約法・不法行為法の諸問題)	Special lecture (Topics in Comparative Contract and Torts Law)	法学研究科	Leonardo Ciano
14	比較法の諸問題	Topics in Comparative Law	法学研究科	Elbalti Beligh
15	日本法の諸問題	Topics in Japanese Law	法学研究科	Elbalti Beligh
16	ミクロ経済学入門	Principles of Economics (Microeconomics)	経済学研究科	恩地 一樹
17	現代の物理学の最前線	Current Topics in Modern Physics	理学研究科	久野 良孝
18	分子科学入門—化学と社会—	Introduction to Molecular Science – Chemistry and Society	工学研究科	安田 誠
19	情報システム工学基礎論	Introduction to Information Systems Engineering	工学研究科	鬼塚 真
20	持続可能な社会に向けた環境とエネルギー問題	Energy and Environment: A multidisciplinary approach towards world's energy crisis	工学研究科	田中 敏宏
21	国際理解入門	Introduction to International Understanding	工学研究科	藤田 清士
22	機械科学への招待	Introduction to Mechanical Science	基礎工学研究科	杉山 和靖
23	近代・現代日本文学	Japanese Literature, Modern and Contemporary	言語文化研究科	村上スミス・アンドリュース
24	ソーシャルイノベーションとソーシャルデザイン	Social Innovation and Social Design	インターナショナルカレッジ	三森八重子
25	異文化理解演習	Seminar Course for Intercultural Understanding	外国語学部	堀川 智也
26	文化：その理解へのアプローチ	Approaches to Understanding Cultures	国際教育交流センター	有川 友子
27	言語心理学と日本語の習得	Psychology of Language and Japanese Language Acquisition	国際教育交流センター	西口 光一
28	数学とその工学応用 (II)	Topics in Mathematics and its Engineering Applications (II)	国際教育交流センター	宮原 啓造
29	コンピュータを活用した語学学習	Computers in Language Learning	国際教育交流センター	魚崎 典子
30	日本のメディアとコミュニケーション	Media and Communications in Japan	国際教育交流センター	近藤佐知彦
31	総合日本語 JA100-トラック 1	Japanese JA100-Track 1	国際教育交流センター	難波 康治
32	総合日本語 JA100-トラック 2	Japanese JA100-Track 2		
33	総合日本語 JA100-トラック 3	Japanese JA100-Track 3		
34	総合日本語 JA200-トラック 1	Japanese JA200-Track 1	国際教育交流センター	義永美央子
35	総合日本語 JA200-トラック 2	Japanese JA200-Track 2		
36	総合日本語 JA300-トラック 1	Japanese JA300-Track 1	国際教育交流センター	西口 光一
37	総合日本語 JA300-トラック 2	Japanese JA300-Track 2		
38	総合日本語 JA400-トラック 1	Japanese JA400-Track 1	国際教育交流センター	西口 光一
39	総合日本語 JA400-トラック 2	Japanese JA400-Track 2		
40	総合日本語 JA500-トラック 1	Japanese JA500-Track 1	国際教育交流センター	難波 康治
41	総合日本語 JA500-トラック 2	Japanese JA500-Track 2		
42	総合日本語 JA600-トラック 1	Japanese JA600-Track 1	国際教育交流センター	大谷 晋也
43	総合日本語 JA600-トラック 2	Japanese JA600-Track 2		
44	社会起業	Social Entrepreneurship	未来戦略機構	伊藤ゆかり
45	科学と社会	Science and Society	国際教育交流センター	岡本 紗知
46	近現代日本の諸事情	Modern Japanese Circumstances	国際教育交流センター	後藤 厳寛
47	異文化コミュニケーションと言語	Intercultural Communication and Language	国際教育交流センター	中野 遼子
48	アジアのなかの近代日本	Modern Japan in Asia	国際教育交流センター	佐藤 治子
49	自主研究 I-A 自主研究 I-B 自主研究 I-C	Independent Study I-A Independent Study I-B Independent Study I-C		各自主研究担当教員

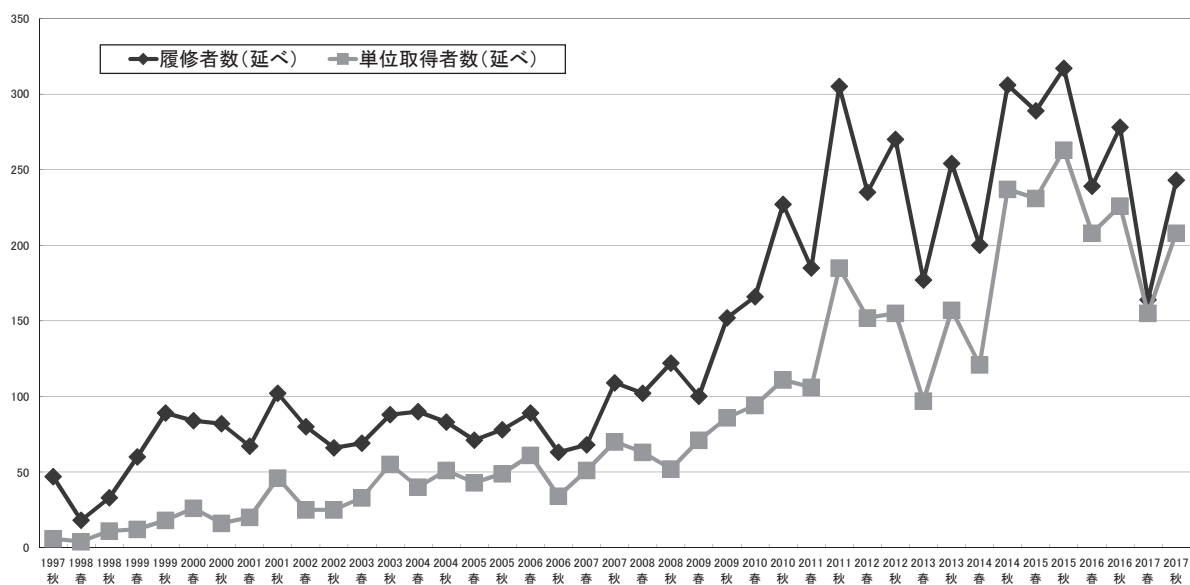
4. OUSSEP 学生以外の国際交流科目履修者数と単位取得者数

部局別：OUSSEP 学生以外の国際交流科目履修者数と単位取得者数

学部	文		人科		外		法		経済		理		医		歯	
2017 春	9	(8)	4	(3)	7	(4)	14	(14)	8	(8)	10	(10)	0	(0)	0	(0)
2017 秋	13	(10)	17	(15)	13	(9)	27	(23)	8	(5)	25	(23)	0	(0)	0	(0)
2017 春・秋合計	22	(18)	21	(18)	20	(13)	41	(37)	16	(13)	35	(33)	0	(0)	0	(0)
1996 春から2017 秋の合計	486	(317)	476	(225)	980	(555)	655	(394)	557	(368)	424	(269)	133	(62)	9	(4)

学部	薬		工		基工		言語		国公		情報		生命		高司		計	G/R
2017 春	0	(0)	10	(9)	9	(6)	2	(2)	2	(2)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	75	0.88
2017 秋	1	(1)	28	(21)	16	(10)	0	(0)	2	(1)	2	(1)	0	(0)	0	(0)	152	0.78
2017 春・秋合計	1	(1)	38	(30)	25	(16)	2	(2)	4	(3)	2	(1)	0	(0)	0	(0)	227	0.81
1996 春から2017 秋の合計	56	(32)	835	(470)	559	(349)	23	(14)	52	(34)	23	(15)	29	(13)	3	(1)	5300	0.59

いずれも延べ数。() 内の数字は単位取得者数を表す。G/Rは、履修者数に対する単位取得者数の割合を示す。



OUSSEP 学生以外の国際交流科目受講状況および単位取得状況の推移

5. 国際交流科目における授業の質保証の取り組み

近年の教育の国際化にともない英語での授業科目が増えている。国際交流科目は、本学の日本人学生や正規留学生などの一般学生と協定校からの交換留学生がともに英語でさまざまな授業を受講する科目であり、その数は年々増え、平成28年度も、国際教育交流センターを含む全学のさまざまな部局から多様な授業が提供された。国際教育交流センターではカリキュラムの時間割調整や授業コーディネートをを行っている。

(1) FDオリエンテーション

英語による専門科目授業の質保証のため、当センターでは学期毎に授業担当教員およびTA（ティーチングアシスタント）を対象にFDオリエンテーションを豊中と吹田の両キャンパスで実施している。

平成29年度 春夏学期 国際交流科目 担当教員・TA対象 FDオリエンテーション

●平成29年4月7日(金) 吹田キャンパス ICホール2階 講義室5・6 13:30～

<プログラム>

I. オリエンテーション

国際交流科目でご配慮いただきたいこと

授業アンケート結果報告（前学期分）と実施のお願い

近藤 佐知彦（国際教育交流センター 教授）

II. FD

「日本人・留学生に英語で教える方法」

講師：Gerry Yokota 先生（言語文化研究科 教授）

＊ご講演は日本語で行われます。

III. 質疑応答・全体での意見交換



FDオリエンテーションの様子

平成 29 度 秋冬学期 国際交流科目 担当教員・TA 対象
FDオリエンテーション

●平成 29 年 9 月 29 日(金) 豊中キャンパス CELAS 2 階 セミナールーム A 13:30 ~

<プログラム>

I. オリエンテーション

国際交流科目でご配慮いただきたいこと

授業アンケート結果報告（前学期分）と実施のお願い

近藤 佐知彦（国際教育交流センター 教授）

II. FD

「授業にグループ学習を導入する方法」

講師：大山 牧子先生（全学教育推進機構 教育学習支援部 助教）

III. 質疑応答・全体での意見交換



FDオリエンテーションにおけるグループディスカッションの様子

(2) 授業評価アンケートの実施とフィードバック

授業の質保証の取り組みとして、毎学期数回の授業が行われた時点で、授業の最後に時間をとって受講生アンケートを実施している。アンケートは指定した受講生に回収させ、コピーをとり担当教員に学内便にて返送するとともに、集計して個別の授業の結果及び全体の集計結果を返送し、その学期の後半の授業にアンケートでの受講生の声をフィードバックいただきながら、授業を組み立てていただくよう担当教員の方々にお願いしている。詳しくは巻末資料編の資料5のアンケートのサンプルを参照いただきたい。

また、学期の原則最終授業に同様のアンケートをとり、指定した学生に回収させ、そのコピーと集計結果は、成績評価の締め切り後に担当教員に返送している。

平成 30 年 1 月 9 日

平成 29 年度秋冬学期国際交流科目担当教員 殿

国際教育交流センター長
有川 友子

「国際教養・専門複合型プログラム (OUSSEP)」に係る 国際交流科目の受講学生を対象とした「授業アンケート」の実施について (依頼)

標記「国際交流科目」につきまして、平素から御理解と御協力を賜り誠にありがとうございます。先生方にご開講頂いている国際交流科目は「大学の国際化」という大きな目標の中で、海外協定校へ留学する学生にとって重要な準備過程の一環であり、また同時に（その交換留学派遣のために不可欠である）海外協定校からの交換留学生の受入に大きく貢献している講義群であることから、その質の確保と共に本学の学生に対する効果検証が強く求められています。

このような趣旨に基づき、毎学期に2回（中間および期末）受講学生を対象とした「授業アンケート」を実施しています。今回も貴重な授業時間を割いて頂くこととなり誠に恐縮ですが何とぞご高配賜りますようお願い申し上げます。具体的なアンケート実施方法の詳細につきましては、添付の「実施要項」をご参照くだされば幸いです。公平性担保のために、特に「回収方法」につきましてご注意くださいようお願い申し上げます。

なお本アンケートの結果は各科目（主）担当の先生へお送り申し上げます。授業の成果検証および授業設計の資料等としてご活用頂ければ幸いです。また同結果は国際交流科目担当教員FDの企画等の参考ともさせて頂きたく併せてよろしくお願い申し上げます。もちろん集計データ等から個々の科目や受講学生が特定されることの無いよう情報の取扱いにつきましては十分注意させていただきます。

ご多忙のところ恐れ入ります。何卒よろしくお願い申し上げます。

なおこの件に関し、ご質問のある方は以下までご連絡のほどよろしくお願い申し上げます。

国際教育交流センタースタッフ 若林 沙希
wakabayashi-s@office.osaka-u.ac.jp
Tel : 06-6879-7128 (内線 7128)

平成 29 年 6 月 30 日

平成 29 年度春夏学期国際交流科目担当教員 殿

国際教育交流センター長
有川 友子

「国際教養・専門複合型プログラム (OUSSEP)」に係る
国際交流科目の受講学生を対象とした「授業アンケート」の実施について (依頼)

標記「国際交流科目」につきまして、平素から御理解と御協力を賜り誠にありがとうございます。先生方にご開講頂いている国際交流科目は「大学の国際化」という大きな目標の中で、海外協定校等へ留学する学生にとって重要な準備過程の一環であり、また同時に（その交換留学派遣のために不可欠である）海外協定校からの交換留学生の受入れに大きく貢献している講義群であることから、その質の確保と共に本学の学生に対する効果検証が強く求められています。

このような趣旨に基づき、毎学期に 2 回（中間および期末）受講学生を対象とした「授業アンケート」を実施しています。今回も貴重な授業時間を割いて頂くこととなり誠に恐縮ですが何とぞご高配賜りますようお願い申し上げます。具体的なアンケート実施方法の詳細につきましては、添付の「実施要項」をご参照くだされば幸いです。公平性担保のために、特に「回収方法」につきましてご注意くださいようお願い申し上げます。

なお本アンケートの結果は各科目（主）担当の先生へお送り申し上げます。授業の成果検証および授業設計の資料等としてご活用頂ければ幸いです。また同結果は国際交流科目担当教員 FD の企画等の参考ともさせて頂きたく併せてよろしくお願い申し上げます。もちろん集計データ等から個々の科目や受講学生が特定されることの無いよう情報の取扱いにつきましては十分注意させて頂きます。

ご多忙のところ恐れ入ります。何卒よろしくお願い申し上げます。

なおこの件に関し、ご質問のある方は以下までご連絡のほどよろしくお願い申し上げます。

国際教育交流センタースタッフ 若林 沙希

wakabayashi-s@office.osaka-u.ac.jp

Tel : 06-6879-7128（内線 7128）

Ⅵ. 授業料徴収型『超短期』プログラム

1. 『超短期』プログラム

平成 20 年度以来、当センターでは、いわゆる「超短期」と呼ばれるプログラムを運用してきている。平成 21 年度には「ナノテクノロジーコース」と「日本語日本文化コース」の二つのプログラムを「Spring Intensive Program 2010」のタイトルの下で「超短期」プログラムとして並行開催した。これは平成 20 年度大学改革推進等補助金で「21 世紀型『超短期』受入プログラム開発」で試行したパイロットプロジェクトであり、全国の Short-Stay プログラム普及への先鞭をつけた。

日本学生支援機構（JASSO）によって Short-Stay 奨学金が創設された平成 23 年度には、東日本大震災の悲劇を受け「日本語日本文化プログラム」に止まらない「ショートステイ日本語・防災プログラム」として再設計、阪神淡路大震災の経験など「防災・減災」の取り組みについても紹介するプログラムとして運用することとした。平成 23 年度夏においては、前年度のタイ王国での洪水被害に伴い夏休みのスケジュールが変わったため同国の協定校から例年通りの参加は難しい由の相談を受けた。そこでプログラムの「防災」の主旨にも鑑み、通常の 8 月プログラムに加えて 9 月プログラムを開催して、日本語に親しみつつ、日本の防災実践に触れる機会を提供している。

平成 24 年度以降、協定校等からの要請などで概ね春と夏に「超短期」を開催する方向で運用されている。平成 29 年度についてはタイの協定校の担当者交代に伴い、夏のプログラムがキャンセルされており、韓国協定校を対象とした冬プログラムのみを開催している。

【春超短期参加者リスト】

2017 年度 春超短期プログラム（2018.2.1 - 2018.2.22 実施）

	性 別	在 籍 校	国 籍	生年	専 攻
1	女	釜山大学校	韓国	1995	English Language and Literature
2	女	釜山大学校	韓国	1997	Western painting
3	女	釜山大学校	韓国	1998	Fiber and metal craft
4	女	釜山大学校	韓国	1993	Clothing and Textile
5	女	釜山大学校	韓国	1995	Global Studies
6	男	釜山大学校	韓国	1998	Electronics Engineering
7	男	釜山大学校	韓国	1994	Materials Science and Engineering
8	男	釜山大学校	韓国	1998	Medicine
9	男	釜山大学校	韓国	1997	Chemistry
10	女	釜山大学校	韓国	1995	Library, Information Archives and Studies
11	男	釜山大学校	韓国	1997	Medicine
12	男	釜山大学校	韓国	1993	Computer Science and Engineering
13	女	釜山大学校	韓国	1995	Clothing and Textile
14	男	釜山大学校	韓国	1995	Mechanical Engineering
15	男	釜山大学校	韓国	1998	BS/KMD

2. 『ショートステイ学期内日本語専修プログラム』 J-ShIP

J-ShIPは平成23年度夏に新たに創設された。

設立に至る経緯や、プログラムのねらいについては近藤（2012）等に譲るが、日本語をキラーコンテンツとし、平成23年度に新設されたShort-Stayプログラム奨学金を最大限獲得する設計であった。かなりの突貫工事であったが、日本語教育開発研究チームの全面的な協力を得て急遽運営にこぎ着けることができた。立ち上げ当初には10月から12月中旬までの2ユニット、および12月中旬から1月末までの1ユニットとして運用された。

平成24年度には、新たに「夏プログラム」も増設し、カリフォルニア大学（UC）を中心とした米国の協定校の「夏休み」期間にあわせた開講プランを作り、数多くのアメリカ人学生に対して、日本語に親しみ、また日本語単位を在籍校において互換しうる機会を提供してきている。

特に平成25年6月にはUCの日本進出50周年のイベントが東京で行われたが、同時にUC関係者多数を招いて大阪でもサブイベントを開催し、その際にもJ-ShIPが本学とUCとが連携をする際のフラッグシッププログラムとして紹介された。その後秋プログラムは閉講し、豪州向け冬プログラムとともに、協定校等の長期期間中に開講される「サマープログラム」へと性格を変えた。

平成26年度以降は米国向け90コマ8週間のサマーインスティテュート（6-8月）、および豪州向け45コマ5週間のサマーインスティテュート（12-1月）の2サイクルを運営することになった。それぞれに多数の学生が来学し、特に夏プログラムについては、UCなどから予想外に多くの学生が殺到し、教室を「時間差」でやりくりをしながらプログラムの運営を行うことになった。また平成26年度からは宿舎のオプションとして新たに「ホームステイ」を導入した。日本学生支援機構からの奨学金支援を受けている。平成27年度28年度には、協定校側からの強い要望を受けて中上級クラスである「Mid-Summer」プログラムを追加し、受入れ体制をさらに拡充して運営するなど、引き続いて受入態勢を強化してきた。ハード面では箕面に教室および職員室を増設して3教室体制を整備した。また非常勤講師のボランティアに頼っていた「オフィスアワー」を制度化し、参加学生の旺盛な学習ニーズに応えている。平成29年度の夏には海外などで活躍する日本語教師の先生方を期間中に特任教員として雇用し、J-ShIPの一部の運営をお任せするなど、実験的なプログラムとしても先進的に運用を続けている。

近藤佐知彦（2012）SSプログラムJ-ShIPの1年目；新コンセプトの超短期日本語プログラムへの挑戦 大阪大学国際教育交流センター研究論集 多文化社会と留学生交流 16 97-106

【夏J-ShIP参加者リスト】

2017年度 夏J-ShIPプログラム（2017.6.19 - 2017.8.10実施）

	性別	在 籍 校	国 籍	生年	専 攻
1	女	カリフォルニア大学 ロサンゼルス校	アメリカ	1996	Dance and psychology
2	女	カリフォルニア大学 サンディエゴ校	アメリカ	1995	Bioengineering biosystem
3	女	カリフォルニア大学 バークレー校	アメリカ	1996	English
4	男	カリフォルニア大学 バークレー校	中国	1996	Economic
5	女	カリフォルニア大学 サンタクルーズ校	アメリカ	1997	Business management economics
6	男	カリフォルニア大学 ロサンゼルス校	アメリカ	1997	Psychology

7	女	カリフォルニア大学 ロサンゼルス校	アメリカ	1996	World arts and cultures
8	女	カリフォルニア大学 サンディエゴ校	中国	1998	Maths and computer science
9	女	カリフォルニア大学 サンタバーバラ校	アメリカ	1995	Sociology
10	男	カリフォルニア大学 アーバイン校	アメリカ	1998	Business economics
11	男	カリフォルニア大学 リバーサイド校	アメリカ	1998	Pre-business
12	男	カリフォルニア大学 リバーサイド校	中国	1998	Economics
13	男	カリフォルニア大学 バークレー校	アメリカ	1997	Computer science and statistics
14	男	カリフォルニア大学 サンディエゴ校	アメリカ	1996	computer science
15	女	カリフォルニア大学 ロサンゼルス校	アメリカ	1997	Applied mathematics
16	男	カリフォルニア大学 サンタクルーズ校	台湾	1995	Art
17	女	カリフォルニア大学 サンディエゴ校	アメリカ	1998	Environmental engineer
18	男	カリフォルニア大学 ロサンゼルス校	アメリカ	1995	History
19	男	カリフォルニア大学 ロサンゼルス校	アメリカ	1997	Biology
20	男	カリフォルニア大学 サンタバーバラ校	アメリカ	1996	Electrical engineering
21	女	カリフォルニア大学 サンディエゴ校	アメリカ	1997	Bioengineering biosystems
22	男	カリフォルニア大学 サンタクルーズ校	アメリカ	1997	Accounting
23	女	カリフォルニア大学 アーバイン校	中国	1998	Mathematics
24	女	カリフォルニア大学 サンタバーバラ校	アメリカ	1997	Electrical engineering
25	男	カリフォルニア大学 デイビス校	アメリカ	1995	Japanese
26	男	カリフォルニア大学 アーバイン校	アメリカ	1992	Psychology
27	女	カリフォルニア大学 バークレー校	アメリカ	1995	Social welfare
28	女	カリフォルニア大学 ロサンゼルス校	アメリカ	1997	Biochemistry
29	男	カリフォルニア大学 アーバイン校	中国	1995	Mechanical engineering
30	男	カリフォルニア大学 ロサンゼルス校	アメリカ	1990	Sociology
31	女	カリフォルニア大学 サンタバーバラ校	アメリカ	1992	Feminist studies
32	女	カリフォルニア大学 デイビス校	アメリカ	1996	Psychology
33	女	カリフォルニア大学 アーバイン校	アメリカ	1996	Public health policy
34	女	カリフォルニア大学 サンタバーバラ校	アメリカ	1997	Film and media studies
35	男	カリフォルニア大学 リバーサイド校	中国	1998	Economic
36	女	カリフォルニア大学 デイビス校	中国	1998	Undeclared
37	男	カリフォルニア大学 リバーサイド校	中国	1997	Business informatic
38	男	カリフォルニア大学 バークレー校	アメリカ	1994	Cognitive science
39	女	カリフォルニア大学 バークレー校	アメリカ	1995	Molecular cell biology
40	女	カリフォルニア大学 リバーサイド校	アメリカ	1996	Creative writing
41	女	カリフォルニア大学 デイビス校	中国	1998	Landscape architecture
42	男	カリフォルニア大学 バークレー校	アメリカ	1992	Media studies
43	男	カリフォルニア大学 ロサンゼルス校	アメリカ	1998	Electrical engineering
44	女	ケンタッキー大学	アメリカ	1997	Neuroscience and psychology
45	男	ケンタッキー大学	アメリカ	1986	Japanese
46	女	ケンタッキー大学	アメリカ	1998	Psychology
47	女	イリノイ工科大学	中国	1997	Computer science
48	女	ニューヨーク大学上海校	中国	1998	Undecided
49	女	ESCE International Business School	フランス	1995	International marketing

【冬J-ShIP参加者リスト】

2017 年度 冬J－ShIP プログラム（2018.1.5－2018.2.9 実施）

	性 別	在 籍 校	国 籍	生年	専 攻
1	男	中国鉱業大学	中国	1995	Architecture
2	男	アデレード大学	オーストラリア	1996	Psychological science
3	女	ソウル神学大学校	韓国	1997	Japanese
4	女	ソウル神学大学校	韓国	1998	Japanese
5	女	モナシュ大学	オーストラリア	1997	Sociology
6	女	モナシュ大学	オーストラリア	1999	n/a
7	男	モナシュ大学	オーストラリア	1998	Computer security and networks
8	女	モナシュ大学	オーストラリア	1997	Japanese
9	男	モナシュ大学	オーストラリア	1997	Japanese
10	男	モナシュ大学	マレーシア	1995	Finance and cultural literacies
11	女	モナシュ大学	中国	1997	Business information systems
12	女	モナシュ大学	オーストラリア	1997	Japanese
13	女	モナシュ大学	中国	1996	Communications
14	女	モナシュ大学	中国	1998	Games development
15	女	モナシュ大学	中国	1996	Japanese
16	女	モナシュ大学	中国	1996	Japanese
17	女	モナシュ大学	韓国	1994	International relations
18	女	モナシュ大学	オーストラリア	1996	International studies
19	女	オーストラリア国立大学	オーストラリア	1998	Japanese studies
20	女	オーストラリア国立大学	中国	1995	Finance
21	女	オーストラリア国立大学	オーストラリア	1999	Psychology
22	女	オーストラリア国立大学	オーストラリア	1998	Japanese
23	女	オーストラリア国立大学	中国	1997	Northeast asian studies
24	女	オーストラリア国立大学	中国	1996	Math
25	女	オーストラリア国立大学	オーストラリア	1999	Japanese
26	女	オーストラリア国立大学	中国	1997	International relations
27	女	オーストラリア国立大学	中国	1996	Earth science
28	女	オーストラリア国立大学	オーストラリア	1999	Japanese
29	男	オーストラリア国立大学	オーストラリア	1994	Japanese
30	男	オーストラリア国立大学	オーストラリア	1999	Japanese
31	女	オーストラリア国立大学	中国	1997	Accounting and Japanese
32	女	オーストラリア国立大学	中国	1997	Asian studies
33	男	オーストラリア国立大学	中国	1995	International relations
34	女	オーストラリア国立大学	中国	1998	Northeast asian studies

Ⅶ. 留学生支援

国際教育交流センター交流アドバイジング研究チームは、吹田キャンパスは留学生交流情報室（IRIS: Information Room for International Students）、豊中キャンパスは国際教育交流センター豊中分室に、箕面キャンパスは国際教育交流センター箕面分室に生活相談に対応するスタッフを配置し、アドバイジング担当教員との密接な連携のもと、留学生支援を継続的に行っている。留学生が気軽に出入りできるスペースを提供するとともに、相談しやすい雰囲気を作り、関係部局とも連携しながら、迅速に対応している。定期的に発行するIRISレター等のメールによる情報提供も行っている。このほか、学生間の交流の促進の観点から、大阪大学留学生会（OUIA: Osaka University International Student Association）やB.S.P.（Brothers and Sisters Program）の支援も継続して行っている。更に、地域の国際交流団体やボランティアグループとの連携、地域の学校の国際理解教育プログラムへの協力も継続して行っている。このほか、短期プログラム開発研究チームの一般学生の海外留学支援にも協力している。

1. 生活・就学支援

(1) 国際教育交流センターにおける相談対応

留学生とその家族が日本で生活する上で、生活習慣や文化に円滑に適応できるようにアドバイスにあたるとともに、さまざまな留学生関連プログラムなどの紹介と情報提供をしている。また、国際交流活動等についての相談にも応じるなど、留学生に対する総合的な支援をしている。

こうした相談や情報提供は、吹田地区ではセンター内の留学生交流情報室（IRIS（あいりす）はInformation Room for International Studentsの略。以下IRISと記す。）にて平日8時半～18時の間、豊中地区では学生会館2階の豊中分室で平日10時半～17時の間、箕面分室は原則として平日10時半～17時の間、原則として休業日を除く学期期間中、行っている。表1にIRIS、表2に豊中分室、表3に箕面分室への対応件数を記す。各種情報提供のほか、相談内容により担当教員との連携および、関係部局との連携をしながら留学生の相談対応を実施した。

(2) 新規来日留学生への支援

国際教育交流センター所属及び新規来日留学生に対して、来日前の情報提供やホストファミリープログラムの案内及び申込受付などを含め、来日前からコンタクトを取っている。来日当初の約一週間のオリエンテーションプログラムを、国際学生交流課や国際教育交流センター日本語教育研究チーム、短期プログラム開発研究チーム等と連携して実施し、学生の円滑な留学がスタートできるように支援した。

国際教育交流センターは、留学生および地域社会がお互いの文化・習慣を正しく認識し、相互理解を深めることを目的として、大阪大学留学生ホストファミリープログラム（略称OHP）を実施している。大阪大学で学ぶ留学生と大阪大学近郊の市民ボランティアが、宿泊ではない、家族ぐるみで気軽な交流活動を行っている。来日前にホストファミリープログラムに申し込んだ学生とホストファミリーのマッチングについては、近隣のボランティア団体や国際交流団体と連携して調整し、来日当初のオリエンテーション期間中に出会いの会を設けて、留学生とホストファミリーが来日初期の段階に出会う機会を設定している。また、来日当初に留学生が指導教員と面談できるように、オリエンテーションプログラムの中に研究室訪

間の日程を組み、留学生来日前に指導教員と連絡をとり、研究室訪問の日程調整をあらかじめ行った上で実施した。学生間の交流や支援の観点から、B.S.P.の学生によるキャンパスツアー、大阪大学留学生会（OUIA）の活動の紹介を学生達と連携して行った。

表1 大阪大学国際教育交流センター留学生交流情報室「IRIS」の相談状況及び来室・利用状況

平成29年度相談対応延べ状況

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
交流	207	313	301	294	201	209	453	335	144	219	78	67	2821
日本語	27	33	24	32	12	5	71	26	10	21	14	14	289
奨学金	8	9	0	0	2	3	7	2	0	2	0	1	34
保証人	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3
住居保証人	3	0	6	1	0	0	2	0	0	0	0	0	12
医療	38	12	18	25	3	5	12	12	9	8	1	1	144
入管関係	14	7	4	0	6	1	9	2	4	3	0	2	52
家族について	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
就職	18	36	17	4	6	10	80	70	24	26	14	40	345
住居	5	15	16	25	2	24	14	8	13	15	6	5	148
各種情報提供	262	162	156	100	50	69	317	157	70	59	62	40	1504
生活用品	62	61	51	58	12	17	92	27	86	44	23	21	554
学習・研究	12	5	5	4	2	2	8	2	23	0	3	5	71
事故・トラブル	1	1	0	0	0	2	1	0	2	2	1	2	12
引越	0	0	2	4	1	0	1	0	1	0	3	0	12
アルバイト	1	1	3	4	3	0	5	0	2	3	4	1	27
ホストファミリー	153	34	32	134	167	29	23	10	2	37	90	35	746
ホームステイ	1	0	16	7	2	0	1	1	2	0	0	0	30
海外留学相談	5	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	1	9
問合わせ等（学外）	46	60	58	44	50	46	50	55	52	43	40	25	569
その他	3	2	3	1	0	1	0	0	0	0	2	0	12
計	866	754	717	738	519	423	1146	707	444	482	342	260	7398

相談対応件数推移

年度	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
件数	2877	3496	3461	4125	4246	5163	5280	5366	5405	5124	5087	4675	4880	4489	4413	5112	4517	5553	6114	8106	7106	7398

*ここでいう「相談対応」は項目に関する相談受付及びその対応回数の延べ（電話・メールも含む）を示す。

来室者推移

年度	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
件数	16450	17848	17996	18025	18077	19255	19356	19934	19532	19574	20909	20107	20176	19170	19252

留学生交流情報室「IRIS」の利用延べ状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
留学生	2484	2115	1996	1666	314	426	1992	1788	1391	1374	702	286	16534
日本人学生	218	80	181	126	3	45	143	103	78	51	19	22	1069
その他・一般	67	135	201	163	109	132	159	121	105	76	172	109	1649
合計	2869	2330	2378	1955	426	603	2294	2012	1574	1501	893	417	19252

*ここでいう「利用」は留学生交流情報室「IRIS」に来室した延べ人数（イベント等含む）を示す。

*その他・一般はホストファミリー、国際理解教育関連（小・中・高校の教師）、ボランティアなどである。

表2 大阪大学国際教育交流センター豊中分室の相談状況及び来室・利用状況

平成29年度相談対応延べ状況

項目 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
交流	83	42	41	24	15	13	55	79	26	19	17	11	425
日本語	25	20	9	7	0	6	23	7	3	2	1	0	103
奨学金	15	3	9	1	3	2	5	6	3	4	6	22	79
保証人	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
住居保証人	5	0	0	4	1	4	0	0	0	0	0	2	16
医療	5	8	11	4	2	2	11	9	6	5	3	3	69
入管関係	9	5	2	0	1	1	7	2	4	1	2	3	37
家族について	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2
就職	0	5	16	2	2	3	5	10	3	4	0	6	56
住居	6	1	2	1	3	1	2	1	0	3	1	2	23
各種情報提供	177	78	95	70	22	58	167	61	52	57	35	31	903
生活用品	5	8	4	8	4	5	6	0	1	4	0	3	48
学習・研究	32	31	39	29	16	5	28	30	24	16	12	4	266
事故・トラブル	1	1	2	1	0	0	5	1	4	0	1	0	16
引越	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	2
アルバイト	11	15	10	6	4	1	14	20	2	1	2	5	91
ホストファミリー	44	5	2	0	2	3	41	9	0	0	0	0	106
ホームステイ	0	1	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22
海外留学相談	59	52	40	33	14	14	25	17	19	13	14	5	305
問合わせ等（学外）	7	9	4	7	7	5	2	4	5	10	1	2	63
その他		12	16	7	5	6	12	8	9	6	7	0	88
計	484	296	324	205	101	129	409	264	162	145	102	100	2721

相談対応件数推移

年度	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
件数	2843	2294	1352	1164	1139	805	916	1253	1271	993	906	1302	2192	2721

*ここでのいう「相談対応」は項目に関する相談受付及びその対応回数の延べ（電話・メールも含む）を示す。

来室者数推移

年度	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
件数	8320	7524	5183	5324	7508	5212	6029	9065	11230	10563	9580	9612	12806	13406

豊中分室の利用延べ状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
留学生	1394	1205	1329	1076	250	344	1214	934	750	658	252	206	9612
日本人学生	343	351	353	276	106	60	377	312	270	241	96	58	2843
その他・一般	109	102	96	72	40	63	106	96	86	87	55	39	951
合計	1846	1658	1778	1424	396	467	1697	1342	1106	986	403	303	13406

*ここでのいう「利用」は国際教育交流センター豊中分室に来室した延べ人数（イベント等含む）を示す。

*その他・一般はホストファミリー、国際理解教育関連（小・中・高校の教師）、ボランティアなどである。

表 3 大阪大学国際教育交流センター箕面分室の相談状況及び来室・利用状況

平成 29 年度相談対応延べ状況

項目 \ 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
交流	25	4	28	12	1	16	34	13	14	43	1	6	197
日本語	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
奨学金	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
保証人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
住居保証人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
医療	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
入管関係	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
家族について	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
就職	2	3	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	8
住居	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
各種情報提供	13	3	10	7	12	12	30	8	3	11	5	8	122
生活用品	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	4
学習・研究	7	9	12	14	5	10	8	23	10	24	4	2	128
事故・トラブル	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
引越	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アルバイト	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2
ホストファミリー	3	0	0	0	0	0	7	4	0	0	0	0	14
ホームステイ	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
海外留学相談	36	21	32	19	5	7	20	16	7	18	0	1	182
問い合わせ等（学外）	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
その他	0	0	13	11	5	0	0	0	0	5	0	0	34
計	88	40	101	63	29	47	100	65	34	101	10	21	699

相談対応件数推移

年度	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
件数	1488	966	840	661	831	797	731	854	788	699

*ここでいう「相談対応」は項目に関する相談受付及びその対応回数の延べ（電話・メールも含む）を示す。

来室者推移

年度	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
件数	2893	3517	4477	5249	5703	5024	4570	4525	3907	4867

箕面分室の利用延べ状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
留学生	155	92	378	278	52	167	238	192	152	270	71	15	2060
日本人学生	303	230	372	367	58	31	305	226	224	260	66	13	2455
その他・一般	20	26	59	49	17	33	30	23	20	44	14	17	352
合計	478	348	809	694	127	231	573	441	396	574	151	45	4867

*ここでいう「利用」は留学生交流情報室「IRIS」に来室した延べ人数（イベント等含む）を示す。

*その他・一般はホストファミリー、国際理解教育関連（小・中・高校の教師）、ボランティアなどである。

(3) 学生交流支援

学生支援については、B.S.P.と大阪大学留学生会（OUIA）の活動の支援を行った。表4にB.S.P.の活動、表5に大阪大学留学生会（OUIA）の活動を記す。今年度も年間を通して学生主体の活動を積極的に支援した。

表4 平成29年度B.S.P.の活動内容

月	日		内 容	共 催 団 体
4	5	豊中	豊中キャンパスツアー 新留学生オリエンテーションでBSPの紹介	大阪大学留学生会（OUIA）
	6	吹田	吹田キャンパスツアー 新留学生オリエンテーションでBSPの紹介	大阪大学留学生会（OUIA）
	7	豊中	豊中キャンパスツアー 新留学生オリエンテーションでBSPの紹介	大阪大学留学生会（OUIA）
			ティーパーティー	
	12	箕面	箕面キャンパスツアー 新留学生オリエンテーションでBSPの紹介	大阪大学留学生会（OUIA）
	13	豊中	スナックパーティー	
	21	吹田	Welcome Party	大阪大学留学生会（OUIA）
	24	箕面	Welcome Party	大阪大学留学生会（OUIA）
	26	豊中	W.W.W. Party	大阪大学留学生会（OUIA）
5	15	豊中	日本語カフェ（7/27まで毎週月・木）	
	18	吹田	和菓子Party	大阪大学留学生会（OUIA）
	26	箕面	お菓子パーティー	
6	2～	箕面	日本語カフェ（毎週金曜日）	
	9～	吹田	日本語カフェ（毎週金曜日）	
	10	豊中	遠足（大阪くらしの今昔館、天神橋筋商店街⇄大阪天満宮、扇町公園）	
	11	箕面	バーベキューパーティー	
	20	箕面	箕面キャンパスツアー（Summer J-ShIP）	
	23	箕面	そば・そうめんパーティー	
	30	吹田	たこ焼きパーティー	
		豊中	韓国キンパブパーティー	
7	3～7	豊中	七夕ウィーク （笹飾り作り、笹取り、短冊作り、和菓子パーティー）	
		箕面	かき氷パーティー	
	10	吹田	流しそうめんパーティー	大阪大学留学生会（OUIA）
	21	箕面	駄菓子パーティー	
	31	豊中	THE INTERNATIONAL GOURMET （サウジアラビア、インド、スリランカ料理）	
8	8	豊中	フェアウェルパーティー	
9	25	豊中	白玉フルーツポンチパーティー	
	27	豊中	豊中キャンパスツアー 新留学生オリエンテーションでBSPの紹介	大阪大学留学生会（OUIA）
	28	吹田	吹田キャンパスツアー	大阪大学留学生会（OUIA）
	29	箕面	箕面キャンパスツアー 新留学生オリエンテーションでBSPの紹介	大阪大学留学生会（OUIA）
10	4	豊中	スナックパーティー	
	5	吹田	吹田キャンパスツアー 新留学生オリエンテーションでBSPの紹介	大阪大学留学生会（OUIA）

10	6	箕面	Welcome Party	大阪大学留学生会 (OUISA)
	17	豊中	スナックパーティー	
	19	豊中	Welcome Party	大阪大学留学生会 (OUISA)
	27	吹田	Welcome Party	大阪大学留学生会 (OUISA)
	30	豊中	日本語カフェ (1/22 まで毎週月・水)	
11	11	箕面	嵐山遠足	
	14	豊中	たこ焼きパーティー	
	20	豊中	ティーパーティー	
	27	豊中	ティーパーティー	
12	4	豊中	ティーパーティー	
	13	吹田	たこ焼きパーティー	大阪大学留学生会 (OUISA)
		豊中	ぜんざいパーティー	
	22	吹田	年末大掃除	大阪大学留学生会 (OUISA)
		豊中	International Food Party (ケニア、モザンビーク料理)	
		箕面	年越しそば・うどんパーティー	大阪大学留学生会 (OUISA)
	28	豊中	年末大掃除・年越しそばパーティー	
1	9	箕面	箕面キャンパスツアー (Winter J-ShIP)	
	10	吹田	書き初めパーティー	大阪大学留学生会 (OUISA)
	15	箕面	ボードゲーム教室	
	16	豊中	お雑煮パーティー	
	16	箕面	ぜんざいパーティー	
	17	箕面	書き初めパーティー	
	18	箕面	和菓子パーティー	
	19	箕面	茶道体験	
2	16	豊中	お疲れ様パーティー	
	17	吹田	お雑煮パーティー	大阪大学留学生会 (OUISA)
3	6	豊中	フランス料理パーティー	
	20	豊中	タイ料理パーティー	

表 5 平成 29 年度大阪大学留学生会 (OUISA) の活動内容

月	日	内 容	場 所	共催団体、内容他
4	5	新規留学生オリエンテーション・キャンパスツアー	豊中キャンパス	短期留学生対象/B.S.P.共催
	6	新規留学生オリエンテーション・キャンパスツアー	吹田キャンパス	短期・日本語研修留学生対象/B.S.P.共催
	7	新規留学生キャンパスツアー	豊中キャンパス	学部留学生対象/B.S.P.共催
	12	新規留学生オリエンテーション・キャンパスツアー	箕面キャンパス	Uコース対象/B.S.P.共催
		OUISA オリエンテーション	吹田:ICホール 講義室 5,6	新規留学生対象
	19	役員会(1)	吹田:ICホール IRIS	
	21	OUISA 総会 & Welcome Party	吹田:ICホール	B.S.P.共催
	24	Welcome Party	箕面:福利会館 2F	B.S.P.共催
	26	W.W.W.Party	豊中キャンパス:大学会館	B.S.P.共催
5	21-22	OUISA Camp	三田市野外センター	B.S.P.共催
	23	役員会(2)	吹田:ICホール IRIS	
	23	アカデミックライフワークショップ	吹田:ICホール 講義室 5,6	ハラスメント相談室、CIEE 共催
6	19	OUISA HOUR (メキシコ)	吹田:ICホール IRIS	
	22	役員会(3)	豊中:CIEE 豊中分室	
	15	Beach Party	淡路島	
	15	Beach Party	淡路島	
7	25	役員会(4)	吹田:ICホール IRIS	
8	12	Fun Run	吹田キャンパス	

9	27	役員会(5)	吹田：IC ホール IRIS	
		新規留学生オリエンテーション・キャンパスツアー	豊中キャンパス	短期留学生対象/B.S.P.共催
	28	新規留学生キャンパスツアー	吹田キャンパス	短期留学生対象/B.S.P.共催
	29	新規留学生オリエンテーション・キャンパスツアー	箕面キャンパス	Maple, 日研生対象/B.S.P.共催
10	5	新規留学生オリエンテーション・キャンパスツアー	吹田キャンパス	日本語研修コース・KOSMOS/B.S.P.共催
	6	Welcome Party	箕面：福利会館 2F	B.S.P.共催
	13	OUISA オリエンテーション	吹田：IC ホール 講義室 5,6	新規留学生対象
	19	Welcome Party	豊中キャンパス：大学会館	B.S.P.共催
	20	役員会(6)	豊中：CIEE 豊中分室	
	27	Welcome Party	吹田：IC ホール	B.S.P.共催
11	4,5	待兼祭出店	豊中キャンパス	B.S.P.共催
	21	役員会(7)	吹田：IC ホール IRIS	
	25,26	大阪大学留学生会スポーツ大会	吹田キャンパス	協力：B.S.P.
12	8	OUISA HOUR (マレーシア)	豊中：CIEE 豊中分室	
	14	OUISA HOUR (ブラジル)	吹田：IC ホール IRIS	
	18	役員会(8)	吹田：IC ホール IRIS	
	19	パネトーネパーティー	吹田：IC ホール IRIS	
	22	年末大掃除	吹田：IC ホール IRIS	B.S.P.共催
1	5	OUISA HOUR (台湾)	豊中：CIEE 豊中分室	
	11	OUISA HOUR (エジプト)	吹田：CIA	
	24	アカデミックライフワークショップ	吹田：IC ホール 講義室 5,6	
2	7	役員会(10)	豊中：CIEE 豊中分室	
	9	OUISA HOUR (東ティモール)	吹田：IC ホール IRIS	
3	26	OUISA Farewell Party	吹田：IC ホール IRIS	

(4) 学内連携

国際教育交流センターは、学内の各部局の留学生関係者との連携の強化も継続して実施している。各部局の留学生相談室フロントスタッフと連携した組織「大阪大学留学生支援フロントスタッフネットワーク」ミーティングを定例で4回実施し、それ以外にも必要に応じて電話やメール等で連絡や意見交換を行った。国際教育交流センター主催の連絡・交換会は平成29年7月27日に開催した。

2. 地域との連携

(1) 留学生支援ボランティアとの連携

地域との連携も引き続き積極的に行っている。ホストファミリープログラムについては、大阪大学留学生ホストファミリープログラム連絡協議会を年2回開催し、留学生の来日時期に合わせて、ホストファミリーの組み合わせの連絡調整や、ホストファミリープログラム等に関する意見交換を行った。ホストファミリーや地域のボランティアや関係者との連絡を緊密に取っている。表6は平成29年度までの団体別のホストファミリーと留学生の組み合わせ数である。

第26回大阪大学・地域団体ボランティア留学生支援連絡協議会を平成30年2月15日に開催した。今回の協議会では、在日タイ留学生協会、大阪大学バングラデシュ留学生会の活動や各国の文化についての発表の後、各国の民族音楽等のパフォーマンスが行われた。当日は学内29名、学外113名、あわせて142名の参加があった。

表6 大阪大学留学生ホストファミリープログラム組合せ団体別数推移

	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	計
ホストファミリーグループ アミーゴ	4	7	8	8	7	15	8	16	8	12	11	11	9	15	10	13	14	12	16	13	11	10	7	9	254
茨木市国際親善都市協会	4	13	12	8	11	18	8	7	8	11	7	12	11	15	13	10	9	6	8	7	10	7	10	16	241
(公財)とよなか国際交 流協会	0	18	15	7	17	20	19	14	19	27	16	14	29	42	85	80	73	68	80	73	63	62	65	79	985
(公財)箕面市国際交 流協会	0	10	6	11	12	10	6	11	15	16	13	10	9	22	36	23	28	36	35	32	42	50	39	24	496
池田ホームステイ友の会→ 池田市国際交流協議会*6	0	12	11	7	9	10	7	9	11	9	15	10	15	14	13	12	8	8	4	8	8	7	9	6	27
(公財)吹田市国際交 流協会	0	1	18	7	23	19	12	14	20	14	9	16	15	16	30	28	24	29	32	39	41	47	62	61	577
国際交流の会とよなか (TIFA)	0	1	6	9	9	9	10	9	13	11	25	20	18	14	12	14	15	15	13	19	18	11	14	13	298
川西市国際交流協会*1									11	13	14	9	9	19	16	12	11	9	6	15	14	15	10	7	190
留学生さとおやの会*2												5	8	7	6	7	6	6	7	10	8	11	9	10	100
海外協力グループ クスクス*3															7	12	11	13	6	4	6	10	9	11	89
国際交流グループ チャターボックス*4																11	12	9	8	12	10	11	13	8	94
三井ボランティアネット ワーク事業団*7																							3	3	3
OHP/IRISに直接登録*5*8	3	3	6	5	8	17	20	17	20	2	5	6	4	6	19	17	20	15	25	27	24	32	29	35	365
計	11	65	82	62	96	118	90	97	125	115	115	113	127	170	247	239	231	226	240	259	255	273	279	282	3917

- *1 川西市国際交流協会のメンバーと留学生とのホストファミリー組合せは平成14年10月開始
 *2 留学生さとおやの会のメンバーと留学生とのホストファミリー組合せは平成17年4月開始
 *3 海外協力グループクスクスのメンバーと留学生とのホストファミリー組合せは平成20年9月開始
 *4 チャターボックスのメンバーと留学生とのホストファミリー組合せは平成21年4月開始
 *5 ホストファミリーの学内公募平成19年8月開始
 *6 池田ホームステイ友の会は平成24年3月で終了、平成24年9月より池田市国際交流協議会として参加
 *7 三井ボランティアネットワーク事業団のメンバーと留学生とのホストファミリー組合せは平成28年10月開始
 *8 近隣居住の阪大生家庭にホストファミリー学内公募 平成29年8月開始

(2) 国際理解教育への協力

地域の学校における国際理解教育プログラムへの協力も引き続き実施した。表7は、平成29年度に国際理解教育プログラムにおいて協力した学校名、派遣した留学生数である。

大阪大学・地域「国際理解教育」推進連絡協議会において近隣の市町の教育委員会とも連携しながら、地域の小中高等学校へ留学生を派遣した。留学生の派遣は、地域の学校からの依頼に対して、学校交流ボランティアに登録している留学生にメール等で案内を出して希望者を募り、学校側と留学生との事前打ち合わせを行い、実施後、留学生には報告書の提出、というプロセスで実施している。

表7 平成29年度「国際理解教育」実施状況

*「/」は二重国籍

月	日	府／市	学校／プログラム名	派遣人数	派遣学生国籍
6	12		かんらんこども園	4	ベトナム・ロシア・フィリピン・ウクライナ
6	23	吹田市	山田東中学校	5	ロシア・チュニジア・エルサルバドル・インドネシア・ミャンマー
6	30	茨木市	白川小学校	8	東ティモール・エルサルバドル・チュニジア・インドネシア・インド・ロシア・ウクライナ・スウェーデン/チリ
7	5	能勢町	能勢中学校	6	バングラデシュ・オマーン・マレーシア・スーダン・東ティモール・中国
7	7	茨木市	豊川中学校	7	フィリピン・ブラジル・インド・韓国・タイ・香港・台湾
7	18		清教学園高等学校	11	ブルガリア・ギニア・アメリカ・ロシア・ペルー・中国・チュニジア・フランス・バングラデシュ・インドネシア・ベトナム
8	29		清教学中学校	12	ミャンマー・ロシア・中国・インド・東ティモール・台湾・ブルガリア・パナマ・オーストラリア・ブラジル・シリア・
9	10		帝塚山学院 泉ヶ丘高等学校	10	台湾・マレーシア・タイ・ベトナム・カンボジア・インド・インドネシア・バングラデシュ
9	16	名張市	南中学校	8	チュニジア・東ティモール・韓国・ブラジル・台湾・マレーシア・ベトナム
9	26-28		報徳学園中学校	18	イラン・中国・韓国・タイ・ポーランド・東ティモール・インドネシア・マレーシア・ペルー・パナマ・アンゴラ・ギニア・バングラデシュ・ケニア
10	3	摂津市	鳥飼小学校	3	チュニジア・東ティモール・ギニア
10	6	大阪府	刀根山支援学校	1	スーダン
10	10		川西北陵高等学校	8	ブルガリア・チュニジア・ロシア・東ティモール・ブラジル・マレーシア・インド・インドネシア
10	26	茨木市	穂積小学校	6	インドネシア・ロシア・ウガンダ・ブラジル・マレーシア・中国
11	8	川西市	明峰中学校	3	ポーランド・ロシア・マレーシア
11	14	豊中市	第九中学校	7	ロシア・インドネシア・イギリス・韓国・インド・マレーシア
11	15	茨木市	南中学校	6	ロシア・ポーランド・マレーシア・パナマ・イギリス
11	16		関西大倉高等学校	14	インド・インドネシア・中国・ドイツ・イギリス・タイ・マレーシア・ブラジル・フランス・ロシア・オランダ
11	17	能勢町	能勢中学校	7	ロシア・ドイツ・韓国・タイ・ブラジル・ケニア・パナマ・ドイツ
11	20	豊能町	東能勢中学校	6	ポーランド・インドネシア・ドイツ・韓国・エルサルバドル
12	1	吹田市	佐井寺中学校	6	イラン・ロシア・ポーランド・イエメン・韓国・ブラジル
12	2		大阪府立 茨木高等学校	57	インドネシア・チュニジア・イギリス・インド・中国・韓国・ペルー・バングラデシュ・ドイツ・シリア・タイ・スーダン・東ティモール・ブラジル・イエメン・フィリピン・スペイン・コートジボアール・メキシコ・台湾・オーストラリア・ルーマニア・コロンビア・フランス・カナダ/台湾・ロシア・デンマーク・ヨルダン
12	7	吹田市	第三中学校	7	タイ・ウガンダ・イギリス・ドイツ・ブラジル・マレーシア・タイ
12	12	能勢町	能勢中学校	14	ロシア・ドイツ・マレーシア・インドネシア・イギリス・ブラジル・ケニア・台湾・インド・ギニア・エジプト・オランダ
12	14	摂津市	第三中学校	8	タイ・ドイツ・ブラジル・中国・インドネシア・マレーシア・台湾・台湾/カナダ
12	19	豊中市	第十三中学校	6	ロシア・韓国・インドネシア・ブラジル・中国・イギリス
1	12		大阪府立 豊中高等学校	49	バングラデシュ・ウガンダ・ロシア・インド・韓国・タイ・ポーランド・イギリス・マレーシア・イエメン・インド・中国・フィリピン・ベトナム・ブラジル・インドネシア・エルサルバドル・ドイツ・フランス・コロンビア・スーダン・ハンガリー・ケニア・オランダ・ギニア・オーストラリア
1	30	茨木市	太田小学校	8	ウガンダ・イギリス・ドイツ・インド・バングラデシュ・東ティモール・ベトナム・エジプト
2	5	大阪市	堀江小学校	10	中国・ドイツ・イラン・ミャンマー・南アフリカ・東ティモール・スーダン・インドネシア
2	6	大阪市	堀江小学校	10	イギリス・インド・イラン・コロンビア・インドネシア・中国・東ティモール・台湾
2	8	大阪市	堀江小学校	10	インド・イラン・ドイツ・ブラジル・ミャンマー・タイ・中国・スーダン・インドネシア・トルコ
2	23	豊中市	豊中支援学校	3	インド・ポーランド・ウガンダ
3	2-4		大阪府立 大手前高等学校	12	ドイツ・ブラジル・ポーランド・パナマ・シリア・東ティモール・スーダン・インドネシア・インド

計： 33件/ 350名

3. 留学生に対するキャリア支援

日本での就職を希望している外国人留学生を支援する目的で、平成 29 年度、国際教育交流センターでは、「留学生のための就職対策講座」を全 8 回開催した。また個々の相談に対応するため就職相談コーナーを開室した。

(1) 平成 29 年度の留学生のための就職対策講座

2017 年 10 月より 2018 年 1 月にかけて「留学生のための就職対策講座」を開催した。講座は外部講師、学内のキャリアカウンセラー、元留学生 OB・OG、内定者の留学生の協力のもと全 8 回のシリーズとして開催され、参加者数は述べ 202 名であった。(cf. 図 1)。

Job Search Strategy Course for International Students 2017 平成29年度 留学生のための就職対策講座 CIEE			
月日 Date	場所 Place	講義題目 Subject	
※ 10月12日(木)	【豊中】全学教育推進機構 大講義室	留学生のための就職活動セミナー(学生・キャリア支援課主催)	
1 Oct. 23(Mon)	【Toyonaka】Seminar Room B, 2F Student Commons	Introduction to job search for international students (English)	
2 11月1日(水)	【吹田】 ICホール2F R5 & 6	情報収集及び企業・業界研究	
3 11月9日(木)	【豊中】ステューデント commons 2F セミナー室A	自己分析/キャリアデザイン	
4 11月17日(金)	【吹田】 ICホール2F R5 & 6	OB・OGによる体験談	
5 11月22日(水)	【吹田】 同上	内定者による体験談	
6 11月29日(水)	【豊中】ステューデント commons 2F セミナー室B	エントリーシートの書き方/合同企業説明会等対策	
7 1月11日(木)	【吹田】 ICホール2F R5 & 6	面接対策(1)(日本企業の面接ルール、説得力あるアピール方法)	
8 1月18日(木)	【豊中】ステューデント commons 2F セミナー室A	面接対策(2)(模擬面接)	
時間帯/Time:17:30-19:00 (10月12日のみ16:30-17:50) Language: English on Oct. 23rd. Other seminars are in Japanese.			
申込み Registration career@cjee.osaka-u.ac.jp			
1. 氏名 2. 学部 3. 学年 4. 国籍を書いて申し込んでください。件名に「就職対策講座申し込み」と書いてください。Email us with 1. your full name, 2. faculty, 3. year, and 4. nationality. Put "Job search strategy course registration" in the subject line.			
※全講座申し込みは10月22日まで。Registration for the full course until October 22nd.			
※単発申し込みは各セミナー開催日の前日まで。Registration for a single seminar until one day before the date.			
主催 大阪大学国際教育交流センター 共催 教職・学生支援部 学生・キャリア支援課 協力 工学研究科国際交流推進センター			

図 1 就職対策講座ポスター

(i) アンケート調査結果

就職対策講座では毎回アンケートを実施した。各回の参加者数は図 2 に示されている通りである。全 8 回のうち、第 2 回「情報収集及び企業・業界研究」の参加者が最も多く 36 名、次に第 7 回「面接対策 (1)」の 35 名が続いた。参加者の出身国では中国が最も多く 100 名で、全体の 49% を占めた (cf. 表 8)。所属別では工学系が最も多く 53 名であった (cf. 図 3)。学年別では博士課程前期 1 年次が最も多く 88 名で全体の 44% を占めた (cf. 図 4)。

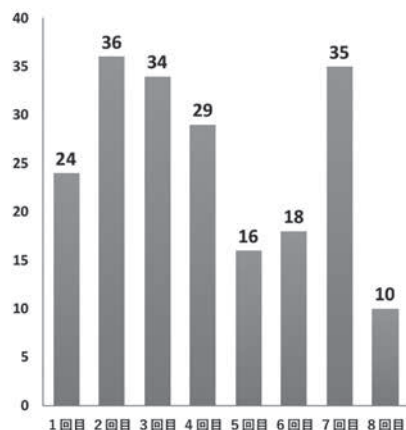


図 2 各回の参加人数

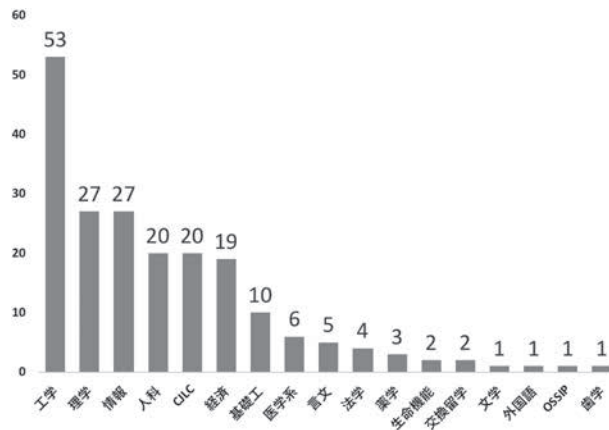


図 3 参加者の所属

表8 参加者の出身国

出身国	人数	出身国	人数
中国	100	スウェーデン	1
台湾	19	パキスタン	1
ドイツ	9	メキシコ	1
ベトナム	8	イラン	1
インド	12	トルコ	1
韓国	7	カナダ	1
ミャンマー	6	モザンビーク	1
オランダ	5	ペルー	1
マレーシア	4	シリア	1
イタリア	7	パナマ	1
インドネシア	6	エルサルバドル	1
ウガンダ	2	スロバキア	1
エジプト	2	不明	1
ロシア	2		

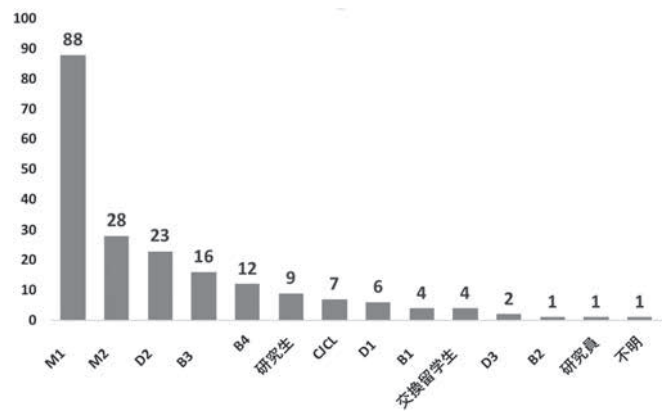


図4 参加者の学年

セミナーを知った手段はKOANが最も多く 32 名であった (cf. 図5)。また就活に対する不安はエントリーシートと面接が最も多く 46 名であった (cf. 図6)。

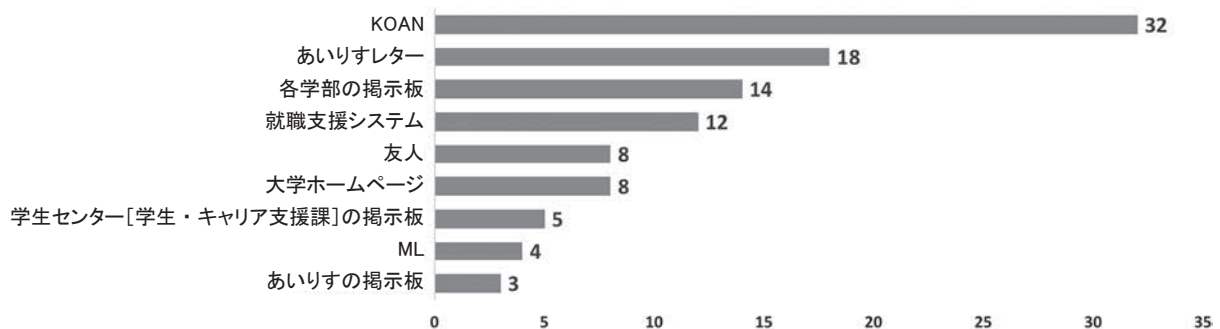


図5 この講座を何で知りましたか？

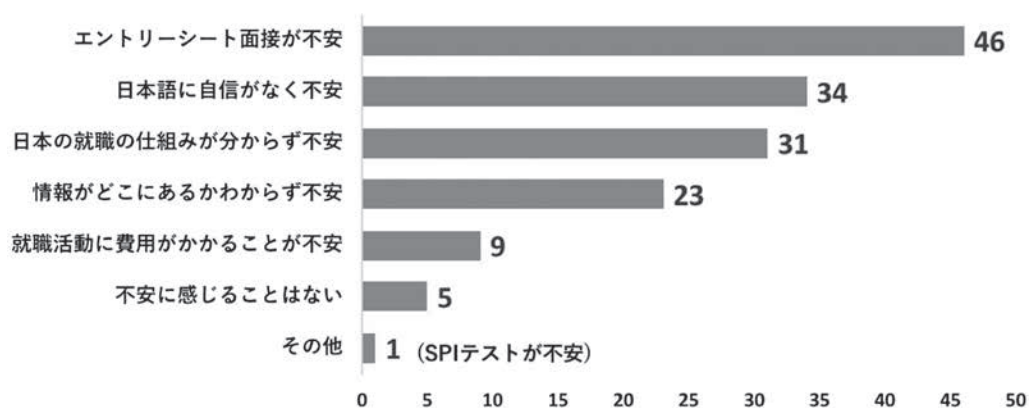


図6 参加者の就活に対する不安



i) 第2回 情報収集および企業・業界研究



ii) 第3回 自己分析／キャリアデザイン



iii) 第4回 OB・OGによる体験談



iv) 第8回 模擬面接

就職対策講座の様子

(2) 留学生のための就職相談コーナー

留学生の就職活動に対する「迷い」や「悩み」に対処するため、吹田、豊中および箕面キャンパスで各週1回の就職相談コーナーを原則予約制で行っている（図7参照）。平成29年度の利用者数は延べ45名、メールによる相談は延べ47件となっている（表9、10参照）。

留学生のための就職相談コーナー
Consultation on Job Search for International Students



留学生の皆さん、日本での就職活動について相談してみませんか？
 If you are interested in finding a job in Japan, why not come for consultation?

豊中/Toyonaka	毎週火曜日(Tue.) 12:00 ~13:00 学生交流棟 2F 国際教育交流センター ミーティングルーム CIEE Meeting Room, 2nd floor, Student and Service Union
箕面/Minoh	毎週水曜日(Wed.) 12:00 ~13:00 国際教育交流センター 箕面分室 B棟 1階 CIEE Minoh Branch, 1st floor, B-building
吹田/ Suita	毎週木曜日(Thu.) 12:00 ~13:00 ICホール2F, 講義室4 Room 4, 2nd floor, IC Hall

申込み Appointment career@ciee.osaka-u.ac.jp

1. 希望日時 2. 氏名 3. 学部 4. 学年 5. 国籍 を書いて申し込んでください。件名に「相談コーナー申し込み」と書いてください。
 Email us with 1. your preferred date, 2. your full name, 3. faculty, 4. year, and 5. nationality.
 Put "career consultation" in the subject line.

主催 大阪大学国際教育交流センター
Center for International Education and Exchange

協力 教育・学生支援部 学生キャリア支援課
Campus Life and Career Support Division

コーディネーター 桑嶋典子 特任准教授
Noriko UOJIAN, specially appointed associate professor



図7 就職相談コーナーポスター

表9 相談コーナー利用状況（月別・出身国別）

	中 国	ベ ト ナ ム	韓 国	台 湾	ロ シ ア	マ レ ー シ ア	ア フ ガ ニ ス タ ン	フ ィ リ ピ ン	イ ン ド	リ ト ア ニ ア	ド イ ツ	オ ラ ン ダ	イ タ リ ア	タ イ	計
4月	2	1	1												4
5月	1		1	1	1	1	1								6
6月	2		1					1							4
7月			1						1						2
8月										1	1				2
9月	1			1		1									3
10月				1											1
11月		1	2						1			1			5
12月	4			1											5
1月	1		1												2
2月	3														3
3月	3			1	1	1							1		8
	15	2	7	4	1	2	1	1	2	1	1	1	1	1	45

表10 メール相談件数（月別・出身国別）

	中 国	韓 国	台 湾	マレーシア	フィリピン	オランダ	イタリア	計
4月								0
5月				18				18
6月		1		3	1			5
7月								0
8月								0
9月								0
10月			2					2
11月								0
12月	3		4			2		9
1月			1					1
2月	3							3
3月	5			2			2	9
	11	1	7	23	1	2	2	47

主な相談内容は表11の通りである。

表11 主な相談内容

- 面接の練習（複数） - エントリーシートの日本語チェック（多数） - 履歴書の日本語チェック（複数） 1年間の留学を計画。就活とかぶるけれどどうしたらよいか。 - 交換留学生だけれども卒業後日本で就職したい。 - 就活、何から始めたらよいか。（複数） - 就職情報収集の仕方。 - 日本語能力が不安なので日本語教室の紹介してもらいたい。 - 企業に問い合わせるメール文の日本語チェック	- 何社ぐらいエントリーしたらいいですか？ - SPI対策はどうすればいいですか？（複数） - 大学で中国語を教えたい。 - ベンチャーは小論文が多く、それが苦手。 - 自分が何をしたいかがわからない。 - 教授に推薦がもらえと言われたが自由応募とどちらがよいか。 - 自己分析結果と行きたい企業が異なる。 - 一番行きたかった企業の評判がよくない。 - グループディスカッションが心配。
--	--

VIII. 海外派遣留学支援

国際教育交流センターでは、本学の学生の海外派遣留学促進のために様々な取り組みを行っている。留学を希望する学生数の増加に応え、短期語学研修プログラムの実施、海外留学オリエンテーションでの情報の提供、相談対応による疑問や不安の解消に努めている。

1. 海外研修・異文化体験プログラム

短期海外研修として、英国エセックス大学での夏季語学研修、オーストラリアモナシュ大学での春季語学研修を実施した。海外体験を希望する学生に機会を提供することに加え、これらのプログラムは、協定校への交換留学の準備段階としても位置付けられている。英語力の伸びを客観的に測るために研修前と、研修中あるいは研修後に、IELTS・TOEFLの受験を義務付けた。

また、事前研修として留学生との交流学习の場も設けた。エセックス現地研修出発前には、3度（6月24日、7月6日、8月8日）事前研修を行ったが、このうち1度目の事前研修では、箕面キャンパスにて、大阪大学で日本語を学ぶ留学生との協働活動（グループディスカッション、グループプレゼンテーション）を行った。モナシュ現地研修出発前にも3度（1月12日、1月20日、2月14日）出発前の事前研修を行い、2度目の事前研修は本学で短期間日本語研修プログラムに参加している留学生との協働活動を行った。

(1) 事前研修（留学生との協働活動）の様子



(2) エセックス大学夏季語学研修 現地研修日程（参加者 29 名）

年 月 日	時 刻	行 程 等
2017 年 8 月 20 日（日）	AM 08:50	関西国際空港集合
	AM 10:50	出国：関西国際空港発 （アジアナ航空 OZ111 便）
	PM 12:40	経由：仁川国際空港着
	PM 02:30	経由：仁川国際空港発 （アジアナ航空 OZ521 便）
	PM 06:25	入国：ヒースロー空港着
	大学のバスでエセックス大学へ移動	
2017 年 8 月 21 日（月） 2017 年 9 月 22 日（金）	エセックス大学にて研修 Excursion（Oxford）：8 月 26 日（土） IELTS 受験：9 月 9 日（土）	
2017 年 9 月 23 日（土）	大学のバスで空港へ移動	
	PM 08:50	出国：ヒースロー空港発 （アジアナ航空 OZ522 便）
2017 年 9 月 24 日（日）	PM 03:50	経由：仁川国際空港着
	PM 05:20	経由：仁川国際空港発 （アジアナ航空 OZ118 便）
	PM 07:05	入国：関西国際空港着

(3) モナシュ大学春季語学研修 現地研修日程（参加者 25 名）

年 月 日	時 刻	行 程 等
2018 年 2 月 17 日（土）	AM 07:55	関西国際空港集合
	AM 09:55	出国：関西国際空港発 （マレーシア航空 MH053 便）
	PM 04:10	経由：クアラルンプール国際空港着
	PM 09:50	経由：クアラルンプール国際空港発 （マレーシア航空 MH149 便）
2018 年 2 月 18 日（日）	AM 08:45	入国：メルボルン空港着
	大学のバスでモナシュ大学へ移動 オリエンテーション・ホストファミリーとの対面	
2018 年 2 月 19 日（月） 2018 年 3 月 16 日（金）	モナシュ大学にて研修	
2018 年 3 月 17 日（土）	大学のバスで空港へ移動	
	PM 03:10	出国：メルボルン空港発 （マレーシア航空 MH148 便）
	PM 08:25	経由：クアラルンプール国際空港着
2018 年 3 月 18 日（日）	PM 10:40	経由：クアラルンプール国際空港発 （マレーシア航空 MH052 便）
	AM 05:40	入国：関西国際空港着

2. 海外留学オリエンテーション

(1) 海外留学オリエンテーション入門編

平成 29 年度 4 月に主に新入生を対象に入学当初の段階で海外への興味関心を喚起する目的で、全新生が共通教育を受ける豊中キャンパスにおいて、海外留学オリエンテーション入門編をお昼休みと夕方に国際部国際学生交流課の協力のもと開催した（表 1 参照）。

オリエンテーションでは在学中の交換留学制度や夏休み／春休み中の短期の語学研修プログラムについての説明、実際のプログラム参加学生の体験談発表の後、質問を受け付けた。また交換留学生と本学の一般学生が共に受講する英語で行われる国際交流科目や、教員や留学経験学生による留学相談システムなどの情報を提供することで、計画的に交換留学へ向けた準備を始めるよう促した。終了後も多数の質問が寄せられ、新入生の海外に対する高い興味関心を確認することができた。

表 1 平成 29 年度 4 月海外留学オリエンテーション（入門編）参加者数

開催キャンパス	開催日時	参加者数
豊 中	4 月 11 日（12：10～12：55）	75
豊 中	4 月 24 日（18：00～19：30）	127
計		202（前年比－5％）

(2) 海外留学オリエンテーション本編

平成 29 年度 6 月には、主に交換留学の制度と手続きを解説する海外留学オリエンテーション本編を、こちらも国際部国際学生交流課の協力のもと開催した。例年通り豊中・吹田・箕面の 3 キャンパスで計 4 回開催した（表 2 参照）。

表 2 平成 29 年度 6 月海外留学オリエンテーション
各キャンパスの海外留学オリエンテーション参加者数

開催キャンパス	開催日時	参加者数
豊 中	6 月 2 日（12：10～12：50）	61
箕 面	6 月 5 日（12：10～12：50）	96
豊 中	6 月 6 日（18：00～19：00）	69
吹 田	6 月 7 日（18：00～19：00）	16
計		242（前年比－32％）



海外留学オリエンテーション（入門編）の様子



海外留学オリエンテーション（本編）の様子

3. 大学間交換留学者数

上記のように、総計 444 名の留学オリエンテーション参加者があり、また後述する留学相談件数の増加からも、多くの学生が海外留学に興味を示していることがうかがえる。それにともなって、大学間交換留学派遣者数も堅調に推移している。提携大学が受け入れに際し要求する語学能力水準などの条件をクリアし、書類選考を通過した学生に対し学内面接選考を実施した。これに合格して交換留学派遣の推薦を獲得した学生数は、平成 29 年度においては、大学間協定に限定しても 142 名に至っている（表 3 参照）。

表 3 交換留学派遣推薦者数（大学間協定）

地 域	国	大 学 名	人数
アジア	タイ王国	カセサート大学	3
		タマサート大学	2
		チェンマイ大学	2
		チュラロンコン大学	2
	大韓民国	中央大学校	4
		漢陽大学校	4
		釜山大学校	3
		延世大学校	1
	台湾	国立台湾大学	4
	中華人民共和国	清華大学	1
		南京大学	1
		武漢大学	1
		北京師範大学	1
		北京大学	5
		香港中文大学	1
	フィリピン共和国	アテネオ・デ・マニラ大学	2
	モンゴル国	モンゴル国立大学	1
オセアニア	オーストラリア連邦	オーストラリア国立大学	2
		クイーンズランド大学	3
北 米	アメリカ合衆国	ウェズリアンカレッジ	2
		カリフォルニア大学	19
		ジョージア大学	4
		テキサス A & M 大学	3
		ナザレスカレッジローチェスター校	1
		パデュー大学	2
		ワシントン大学	3
	カナダ	トロント大学	1
		ブリティッシュ・コロンビア大学	3
		マックマスター大学	4

南 米	ブラジル連邦共和国	サンパウロ大学	3
	メキシコ合衆国	メキシコ国立自治大学	2
ヨーロッパ	オーストリア共和国	ウィーン大学	3
	オランダ王国	グローニンゲン大学	3
	スウェーデン王国	イエーテボリ大学	3
	デンマーク王国	コペンハーゲン大学	7
	ドイツ連邦共和国	エアランゲン・ニュルンベルク・フリードリヒ・アレクサンダー大学	2
		ゲッティンゲン大学	2
		ハイデルベルク大学	3
		ベルリン工科大学	1
		ミュンヘンルートヴィヒ・マクシミリアン大学	1
		ヨハン・ヴォルフガング・ゲーテ大学フランクフルト・アム・マイン	2
	フィンランド共和国	オーボアカデミー大学	3
		ヘルシンキ大学	2
	フランス共和国	エクス・マルセイユ大学	1
		グルノーブル大学連合	2
		ストラスブール大学	4
	ベルギー王国	ルーヴァンカトリック大学	1
	英国	シェフィールド大学	1
		リーズ大学	7
	ロシア連邦	サンクトペテルブルク大学	4
総 計			142

4. 海外留学・研修等派遣前危機管理オリエンテーション

国際教育交流センターでは、国際部国際学生交流課と協力して、海外で研修あるいは留学する予定の学生を対象に、試験が終了する時期に派遣前危機管理オリエンテーションを実施している。

平成 29 年度は、2017 年 8 月 8 日豊中キャンパス（参加者 141 名）/2018 年 2 月 14 日吹田キャンパス（参加者 117 名）の 2 度開催し、海外渡航中のテロ対策や健康や生活の面で注意すべきことなどについて周知徹底した。

【プログラム】

平成 29 年度第 1 回留学・海外研修等危機管理オリエンテーション

日時：平成 29 年 8 月 8 日（火）14:00～16:00

場所：豊中キャンパス 全学教育推進機構 大講義室

司会：宮原 啓造（国際教育交流センター 准教授）

〈プログラム〉

14:00～14:05 開会の挨拶

近藤 佐知彦（国際教育交流センター 教授）

14:05～14:45 「海外渡航時の危機管理について」

江見 裕明（日本エマージェンシーアシスタンス株式会社営業部 部長）

14:45～14:55 休 憩

14:55～15:15 「留学生危機管理サービス（OSSMA）について」

江見 裕明（日本エマージェンシーアシスタンス株式会社営業部 部長）

15:15～15:25 休 憩

15:25～15:55 「海外渡航時の健康管理について」

馬場 幸子（医学系研究科 特任助教）

15:55～16:00 閉会の挨拶

近藤 佐知彦（国際教育交流センター 教授）

平成 29 年度第 2 回留学・海外研修等危機管理オリエンテーション

日時：平成 30 年 2 月 14 日(水) 14:00 ～ 16:35

場所：医学部 A 講堂

司会：中野 遼子（国際教育交流センター 特任助教）

〈プログラム〉

14:00～14:05 開会の挨拶

近藤 佐知彦（国際教育交流センター 教授）

14:05～15:05 「海外渡航中の危機管理について」

濱口 晃行（大阪府警察本部警備部外事課 国際テロ対策担当管理官）

15:05～15:35 「OSSMAについて」

江見 裕明（日本エマージェンシーアシスタンス株式会社営業部 部長）

15:35～15:45 休 憩

15:45～16:30 「海外渡航中の健康管理について」

大橋 一友 教授（医学系研究科保健学専攻）

16:30～16:35 閉会の挨拶

宮原 啓造（国際教育交流センター 准教授）

5. 海外留学相談とアドバイス

留学を希望する学生のサポートのために、学期期間中を中心として教員による留学相談を実施した。2017年7月11日、9月11日、2018年1月18日には、国際学生交流課と共同で「トビタテ！留学 JAPAN」に関する説明会および留学計画相談会を開催した。

(1) 教員による留学相談

国際教育交流センターの豊中分室と箕面分室において授業期間中にそれぞれ週1回、また吹田キャンパスICホールにおいては要望に応じて随時、留学経験のある教員により対面での留学相談を実施した。相談予約は留学ポートフォリオシステムを用いて随時受け付けた。相談利用者の総数は116名。内訳は以下の通り（留学ポートフォリオシステムにより集計。回答者数67名）。

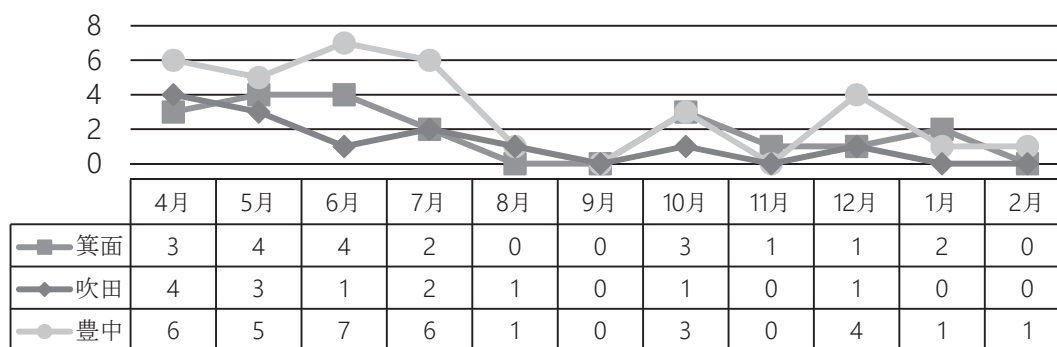


図1 相談件数

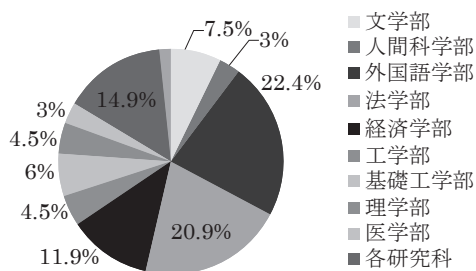


図2 所属学部・研究科

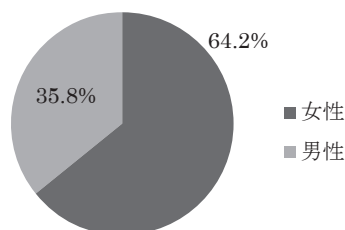


図3 性別

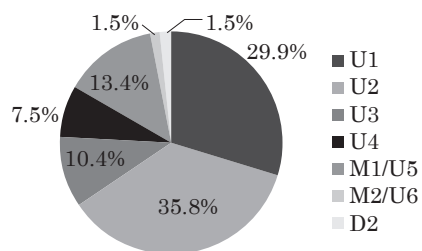


図4 学年

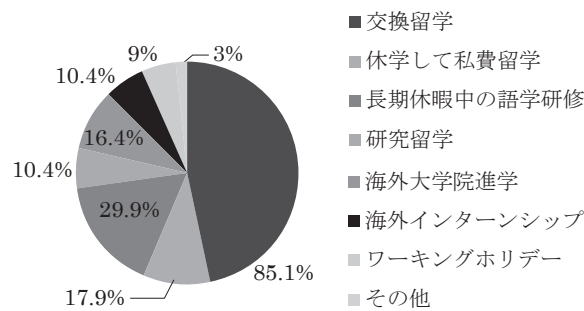


図5 希望する留学形態

(2) 留学経験学生による留学相談

交換留学から帰国した学生担当者2名により、定期的な留学相談会を開催した。豊中キャンパスと箕面キャンパスにおいて、授業期間中の昼休みに、月2回、計16回を実施した。相談会参加者の総数は53名であった。

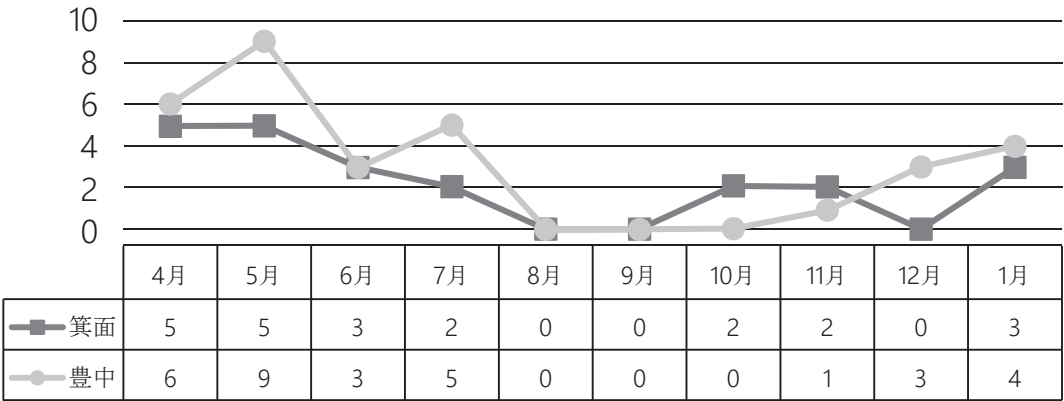


図 6 相談件数

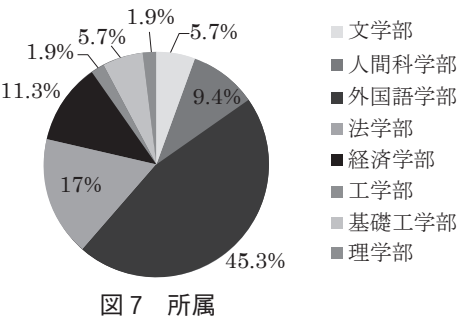


図 7 所属

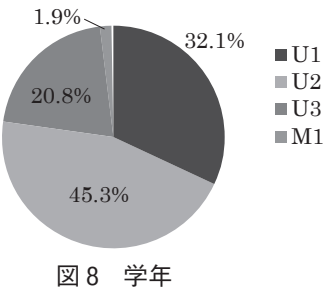


図 8 学年

IX. サポートオフィスの活動

2007年10月に国際部学生交流推進課内に設置されたサポートオフィスは、大阪大学が文部科学省から国際化拠点整備事業（Global 30）に採択されたことに伴い、2009年10月、国際教育交流センター（旧留学生センター）内に新オフィスを設立し、事業を拡大・拡充した。

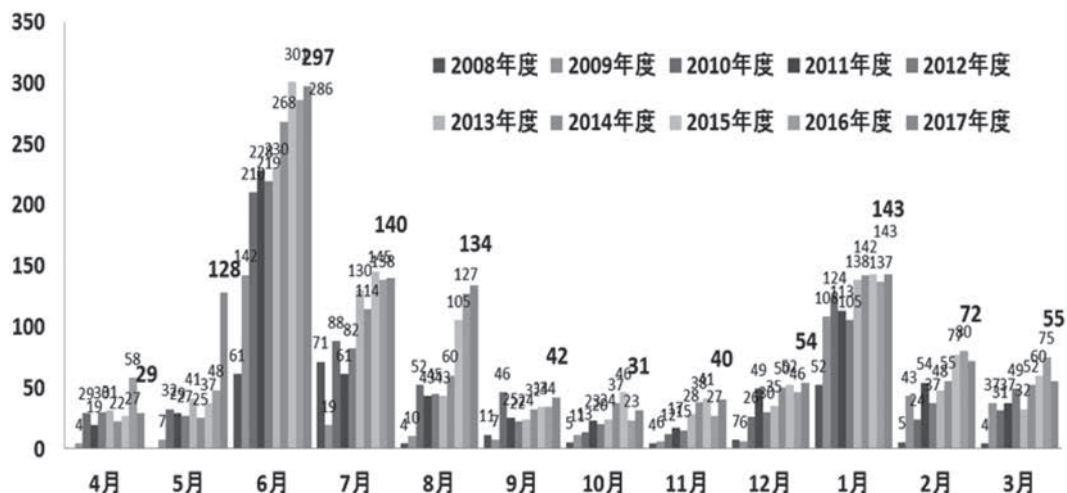


サポートオフィスでは、留学生・外国人研究者、およびその家族の方が必要とする、来日前の査証（ビザ）に関わる手続き、宿舎手配の支援、来日直後に必要な諸手続き、また日本滞在中に必要な在留手続き等を中心に、サポートや情報提供を行なっている。このような活動をとおして、世界中から大阪大学に来る留学生・外国人研究者と大阪大学のスタッフ全員の絆を大切に、留学生・外国人研究者が安心して日本で生活し、本来の目的である勉学・研究活動に集中できるように支援することを目指している。2017年度のサポートオフィスの主な取り組みは次のとおりである。

1. 査証（ビザ）関連手続きの支援

2017年度の在留資格認定証明書（CESR）交付申請手続きの件数は1,165件であった（「留学」841件、「教授」174件、「文化活動」64件、「家族滞在」86件、その他0件）。CESR Web申請システムは、申請者が利用しやすくなるよう年々改良を重ねている。また2014年度より申請書作成システムを全学内に導入することにより、日本滞在中に必要な在留手続きに対するサポートの強化が実現している。2017年度の同システムによる申請書作成件数は、294件であった。（「在留期間更新許可申請書」205件、「在留資格変更許可申請書」40件、「資格外活動許可申請書」48件、「再入国許可申請書」1件）。ビザ関連支援に関連するE-mailの送信件数は約6,149件、電話対応件数は約2,279件、窓口対応件数は約346件であった。

グラフは2008年度からの月別のCESR Web申請件数を示す。



2. 住宅・宿舍手配の情報提供・支援

2010年4月にUR都市機構との留学生・外国人研究者に対する賃貸住宅貸与に関わる全学での包括協定が締結され、連帯保証人不要・敷金減免や研究者向けには家具家電付住宅とNPOによる生活サポートサービスが実現した。これに伴い、URとの契約件数（入居者人数）は、2009年度は1件（1名）だったが、サポートオフィスが業務を引き継いだ2010年は10件（14名）、2011年度は33件（42名）、2012年度は48件（62名）、2013年度19件（26名）、2014年度43件（51名）、2015年度47件（60名）、2016年度77名と確実に支援実績を伸ばしている。2017年3月末日現在、約55名がキャンパス周辺のUR賃貸住宅に居住している。

2017年3月31日をもってサポートオフィスでのUR新規受付は終了し、4月1日以降は大阪大学生協マイルームにて受付並びに対応を開始した。ハウジングリクエスト機能を用いたリクエスト件数は70件であり、それに対する不動産会社からの返信件数は255件であった。またホームページでは、留学生や外国人研究者自身がおおよそどのような宿舎に該当するのかを導く宿舎ナビシステムの提供をしている。宿舎支援に関するE-mailの送信件数は約3,490件、電話対応件数は約1,592件、窓口対応件数は約93件であった。

3. 新規来日外国人留学生・研究者向けオリエンテーションの開催

サポートオフィスとIRISが主催となり、サイバーメディアセンターの協力のもと、新規来日者向けに、吹田・豊中キャンパスにて年2回オリエンテーションを開催した。2017年度の参加者の合計は275名であった。主な内容は以下のとおりであった。

- ① サポートオフィスの紹介
- ② 在留資格に関する案内
- ③ 市役所等での手続きの案内
- ④ 宿舎についての案内
- ⑤ 学内外のコミュニティとネットワークの紹介
- ⑥ 学内の情報ネットワークの説明
- ⑦ 異文化での生活についてのアドバイス
- ⑧ 日本語履修についての説明（留学生対象）

2017年度 春期
新規来日留学生・外国人研究者向けオリエンテーション

主催：サポートオフィス & IRIS（国際教育交流センター）／ 協力：サイバーメディアセンター

◆ 開催日時・場所

2017年 3月31日（金） 13時00分～（1時間程度）英語／14時45分～（1時間程度）日本語
吹田キャンパス コンベンションセンター1階 会議室1

2017年 4月 7日（金） 13時00分～（1時間程度）英語／14時45分～（1時間程度）日本語
豊中キャンパス 全学教育推進機構総合棟1
スチューデントcommons2階 セミナー室B

◆ 実施内容

- ・ サポートオフィス概要
- ・ IRISとその他の学内外コミュニティについて
- ・ 在留資格及びその更新・変更に必要な手続きについて
- ・ 宿舎について
- ・ 大阪大学で新しい生活を知るにあたってのアドバイス
- ・ 大阪大学のインターネットサービスについて
- ・ 日本語履修についての説明（留学生対象）
- ・ 個別相談（自由参加）

吹田キャンパスマップ 豊中キャンパスマップ

<お問い合わせ>

サポートオフィス
TEL: 06-6879-4748
E-mail: supportoffice@office.osaka-u.ac.jp

留学生交流情報室「IRIS」
TEL: 06-6879-7076
E-mail: iris@ciee.osaka-u.ac.jp

4. 留学生・外国人研究者受入事務に初めて関わる担当者向け研修会の開催

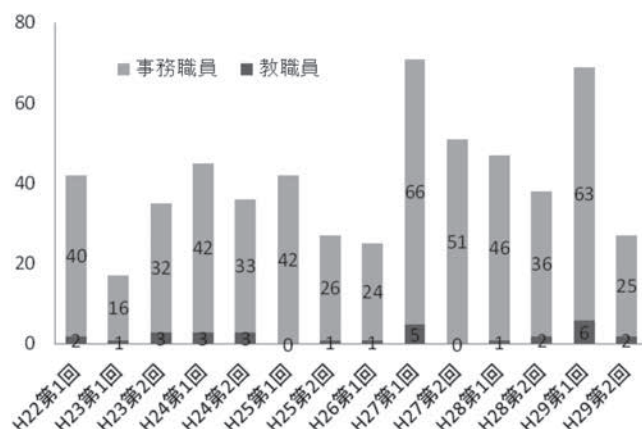
2017年秋および2018年春の留学生・外国人研究者の受入に関わる体制支援の強化を目指して、留学生・外国人研究者受入事務に初めて関わる担当者を対象に、受入に伴う在留資格認定証明書交付申請に必要な手続きや宿舎支援（情報提供）に関する研修会を以下の日程で開催した。グラフは研修会への参加者数の推移を示す。

【2017（H.29）年度第1回研修会】

参加者 69 名（教員 6 名、事務職員 63 名）
 2017 年 5 月 29 日（月） 13：00－15：10（豊中）
 2017 年 6 月 6 日（火） 13：00－15：10（吹田）

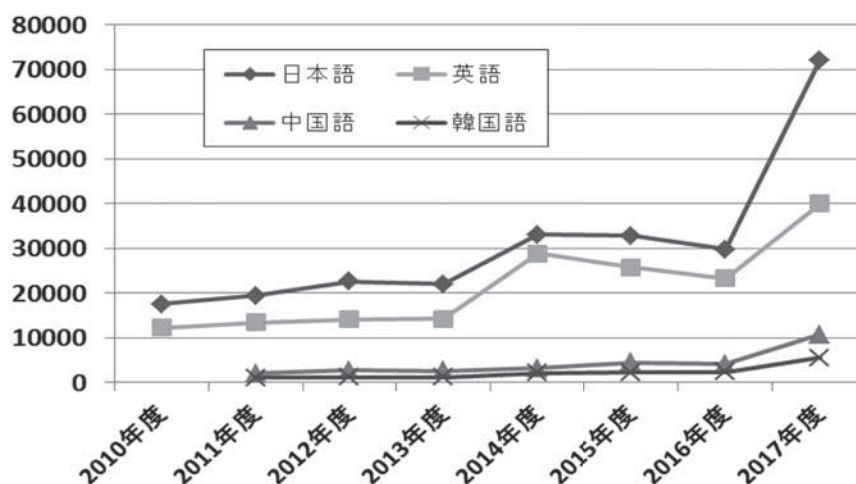
【2017（H.29）年度第2回研修会】

参加者 27 名（教員 2 名、事務職員 25 名）
 2017 年 12 月 4 日（月） 13：00－15：10（豊中）
 2017 年 12 月 12 日（火） 13：00－15：10（吹田）



5. ホームページの管理運営

サポートオフィスの業務や留学生・外国人研究者が必要な情報を集約したホームページを4ヶ国語で公開している（日・英サイトは2010年4月より、中・韓サイトは2011年4月より公開）。2017年度のサイトの閲覧件数は、日本語サイトが約72,184件、英語サイトが約39,998件、中国語サイトが約10,687件、韓国語サイトが約5,569件であった。グラフは各言語の閲覧件数を示す。2017年度は各言語ともホームページへのアクセスが前年度に比べて大きく伸びた。たとえば日本語、英語各ページへのアクセス昨年の2倍前後になった。大阪大学に興味を持ち志望する学生・研究者が増えたこと、さらにオリエンテーションでホームページ利用を呼びかけたことが功を奏したと考えられる。



6. 各種印刷物の改訂版作成・配布

『教職員のための留学生・外国人研究者受入ハンドブック』は、説明会や研修会を中心に配布した（126部）。『Coming to Osaka』は、主にCESR送付時に同封し（884部送付・配布）、『Living in Osaka』は新規来日者向けオリエンテーションで主に配布した（547部）。『Living in Osaka』の別冊として子育てに関する情報を集約した「妊娠・出産・子育て編」、および宿舎情報やそれに関連する契約・引越し等に関する情報を集約した「住まい編」も必要対象者に配布した（妊娠・出産・子育て編：30部送付・配布、住まい編：85部送付・配布）。また、6ヶ国語で作成されているサポートオフィスの紹介パンフレットは、来訪者や留学フェア等で配布された（英：295部）。

＊（ ）内の数値は2017年度の配布数。



X. 大学院・学部教育

国際教育交流センター教員はそれぞれの専門分野に応じて、兼任教員として大学院・学部教育を担当している。以下、1. 授業担当、2. 研究指導、3. 研究指導学生学位論文の順で、教学活動を記述する。

1. 授業担当

(1) 言語文化研究科

① 博士前期課程

【科目名】応用言語学研究A

【講義題目】第二言語教育学のための言語心理学（西口 光一）

【講義概要】現代の外国語教育学は、現代の言語研究が拠り所としているのと同じ言語観や言語コミュニケーション観に、基づいて成立している。その一方で、人文科学の分野においては、記号論の観点から言語や思考や意識などを基礎づけなおす作業がすすんでいる。本講義では、そうした動きの中心に位置するバフチンの言語哲学・記号論を、外国語教育学の興味・関心に引きつけて読み解いた。授業は、『対話原理と第二言語の習得と教育』（西口光一著、くろしお出版）の各章を輪読する形で進めた。また、バフチンの言語観に基づいて開発された基礎日本語教科書『NEJ: A New Approach to Elementary Japanese — テーマで学ぶ基礎日本語』（くろしお出版）に関して、バフチン言語論との関連や教育内容と教育方法等について解説した。

【科目名】応用言語学研究B

【講義題目】ダイアロジズムと第二言語教育学（西口 光一）

【講義概要】バフチンの言語哲学・文化記号論をさらに深く理解し、外国語教育学への応用を検討することを目的として、“Methods for teaching foreign languages”（Hall, 2002）などを輪読の形式で講じた。随時に、自己表現活動中心の基礎日本語教育の方法についても言及した。

【科目名】言語技術研究A

【講義題目】日本語による書記言語によるコミュニケーション（村岡 貴子）

【講義概要】本授業の目的は、日本語による書記言語の特徴と関連の概念について理解し、それをもとに、種々のメディアを通じたコミュニケーション、および言語教育の実践上の問題について考察することである。考察に際しては、ジャンル分析の手法を援用しつつ、各種文書の具体的な言語資料を材料として表現やテキスト構造の分析を行った。また、関連の学術論文等の文献を読むことにより、書記言語でのコミュニケーションにおいて生じる誤解や、正確な伝達の不成功に関する課題についても認識を促した。

本授業では、基本的に演習形式により、発表やディスカッションを積極的に取り入れた。受講者には、上記テーマにかかわる問題意識をもって事前に文献等の講読を行い、授業中に積極的かつ簡潔に発言することを課した。

【科 目 名】言語技術研究B

【講義題目】アカデミック・ライティングの実践と研究（村岡 貴子）

【講義概要】本授業の目的は、関連の学術論文等の文献を読み、コミュニケーションの目的や場面に応じた、書記言語コミュニケーションとしてのライティング活動について理解を深めることである。特に、大学院生として研究活動を行う上で必要となるアカデミック・ライティングに関して、ディスコース・コミュニティの概念から、受講者各自の専門分野における事情や方法論を客観的に把握できることを目指した。原著論文をはじめ、レポートやレジュメ、要旨の作成といった、アカデミックな場面でのライティング活動の特徴、および多様な背景を有する読み手への配慮について、具体例に基づき、十分な意見交換を行った。

本授業では、基本的に演習形式により、発表やディスカッションを積極的に取り入れた。受講者には、上記テーマにかかわる問題意識をもって事前に文献等の講読を行い、授業中に積極的かつ簡潔に発言することを課した。

【科 目 名】言語コミュニケーション論A

【講義題目】言語教育と質的研究（義永美央子）

【講義概要】本講義では、研究に関する理解を深め、受講生各自の今後の研究に役立てることを目的として、まず、言語の教育・学習に関する質的研究・定性的研究の基本的姿勢や分析方法について紹介した。そして、質的研究の手法を用いた言語教育・学習に関する論文を読み、フィールドワークやインタビュー等によって得られたデータの「分厚い記述」がどのようにして可能になるのかについて、関係文献の輪読及びグループディスカッションを通じて考察した。

【科 目 名】言語コミュニケーション論B

【講義題目】言語学習における自律学習とその支援（義永美央子）

【講義概要】近年、言語学習において、学習者の自律（オートノミー）、すなわち自分自身の学習を管理する能力に注目が集まっている。教室外にも学習リソースが豊富にある現代社会において、言語学習者は「何をどのように学ぶか」をどのように決定しているのか。また、そうした主体的な学習を教師はどのように支援できるのか。本講義では、自律学習に関する基本概念を検討した上で、自律学習・学習者オートノミーやその支援に関する論文を読み、自律学習がどのように生起するのか、また自律学習をどのように支援できるのかを考察した。

【科 目 名】言語文化教育論A

【講義題目】言語文化教育論入門（大谷 晋也）

【講義概要】言語とは、文化とは、言語文化とは、そして言語文化教育とは何かということを、それらを取り巻く周辺領域を視野に入れながら再考した。世界の多言語・多文化状況を確認した後、フランスや日本などを例にとりながら、言語文化教育が担い、担わされてきた負の歴史について振り返るとともに、それを正へと転換する方策について考察した。

同時に、言語文化・言語文化教育、およびその周辺領域に関する時事問題について随時取り扱い、この方面に関する幅広い視野の形成を期した。

【科 目 名】言語文化教育論B

【講義題目】言語文化教育の現状と課題（大谷 晋也）

【講義概要】ヨーロッパや東南アジア、オセアニア、東アジア、中東のいくつかの国や地域に焦点を当て、現在行われている言語文化教育を知るとともに、よりよい教育の可能性について、院生の発表を元に検討した。

特に、異言語教育や少数言語に関する各国の言語（教育）政策を取り上げ、その目的と効果、理想と現実について知り、より平等で開かれた社会を目指した言語文化教育がどのようなものであるべきなのかを考察した。

同時に、言語文化・言語文化教育、およびその周辺領域に関する時事問題について随時取り扱い、この方面に関する幅広い視野の形成を期した。

【科 目 名】応用マルチメディア論A

【講義題目】ITによる言語教育の拡張（難波 康治）

【講義概要】第二言語教育あるいは外国語教育にとって、IT技術の活用がどのような意味を持つかにについて検討した。前期は、インストラクショナルデザインの基盤となる教育および心理学の理論について、代表的なものを取り上げて検討した。

【科 目 名】応用マルチメディア論B

【講義題目】外国語教育におけるインターフェイスの変革（難波 康治）

【講義概要】後期は、ITを用いた教育の一つとして、映像がどのように語学教育を変えうるかにについて、実践的に検討した。受講者が映像教材を作成し、それを受講してみることで、相互に評価を行った。

【科 目 名】言語文化政策論A

【講義題目】「市民社会とは何か」（西村 謙一）

【講義概要】「市民社会」とは何か、「市民社会」を構成する価値観や要素にはどのようなものがあるのかについて、特に、公共圏と親密圏の関係をめぐる議論を中心に検討を行った。また、「市民社会」に関する議論と「表現の自由」をはじめとする基本的人権をめぐる議論を検討した。

【科 目 名】言語文化政策論B

【講義題目】多文化状況の中の「市民社会」（西村 謙一）

【講義概要】「言語文化政策論A」でみた「市民社会」の思想をも踏まえつつ、多エスニック・多文化状況下における「市民社会」の可能性について検討を加えた。中でも、ヘイトスピーチの問題に関して、それをめぐる法規制の動向にもふれつつ、規制の是非をめぐる議論を俯瞰した。

② 博士後期課程

- 【科目名】応用言語学特別研究A（西口 光一）
- 【科目名】応用言語学特別研究B（西口 光一）
- 【科目名】言語コミュニケーション論特別研究A（村岡 貴子）
- 【科目名】言語コミュニケーション論特別研究B（村岡 貴子）
- 【科目名】言語コミュニケーション論特別研究A（義永美央子）
- 【科目名】言語コミュニケーション論特別研究B（義永美央子）

(2) 人間科学研究科

① 博士前期課程 及び ② 博士後期課程

- 【科目名】生涯教育学特定演習I（木村 涼子、有川 友子）
- 【講義題目】文化と教育に関する研究I及びII（有川 友子 担当分）
- 【講義概要】授業は2名の教員で分担したが、有川は文化と教育にかかわる多様な研究を参考にしながら、その理論的枠組みや研究方法、また社会に生起する具体的な諸課題への示唆について考えた。

(3) 工学研究科

① 博士前期課程

- 【科目名】プロダクトデザイン Product Design（宮原 啓造）
- 【講義概要】機械や装置などのプロダクトを設計し開発していくための方法論を実践的な課題学習を通じて修得する。具体的には「プロダクトデザイン方法論」で講述される設計・開発のための方法論に基づきつつ、数名の学生からなるチームに産業界から提供される具体的な開発設計のための模擬課題をプロジェクトとして与え、各課題の分析・設計・試作などを通じて、一連の方法論の内容、それらを総合的に運用するためのプロセスについての考え方、創造的なデザインに求められる基本的な能力などを養う。

(4) 大学院高度副プログラム

- 【プログラム名】インターカルチュラル・コミュニケーションの理論と実践
- 【プログラム実施部局／連携部局】国際教育交流センター／言語文化研究科
- 【履修対象者】大学院博士前期（修士）課程学生および博士後期課程学生
- 【修了要件】8単位以上を修得すること（原則として1年で修得すること）
- 【プログラムの趣旨・概要】グローバル化、ボーダレス化の進展に伴い、言語や文化を必ずしも共有しない人々の間でのコミュニケーションの必要性が大いに高まっている。こうした「インターカルチュラル・コミュニケーション」は、多様な価値観や思考様式への気づきを促す契機となる一方で、様々な誤解や対立を引き起こす場合もある。このような問題は、自文化で当然とされる言語行動様式等が共有されていないことが原因であることが多いものである。本プログラムでは、現代社会の多言語・多文化化の現状やインターカルチュラル・コミュニケーションに関する基礎理論を学ぶと同時に、実際のインターカルチュラル・コミュニケーション場面で生じる問題への対処方法について、実践的な課題を通じて考える。
- 【到達目標】本プログラムでの学習を通じて多様性への自覚を促し、地球市民としての知恵と態度を

涵養すること。また、各授業での協働的な学習活動を通じて、背景の異なる他者とのコミュニケーションの際に、他者の話を傾聴し、かつ、他者への配慮ある発信方法を獲得すること。

【カリキュラムの構成】言語コミュニケーション論A・B（義永美央子）、言語技術研究A・B（村岡貴子）、言語文化教育論A・B（大谷 晋也）、言語文化政策論A・B（西村 謙一）から原則として1年以内に8単位を修得する。

(5) インターナショナル・カレッジ

【春夏学期】

国際交流科目（※共通教育科目の基礎教養科目として設定）

科 目 名（日本語名称）	科 目 名（英語名称）	担当教員名
オンライン・リソースを活用したL2学習	Second Language Learning with Online Resources	魚崎 典子
日本の社会とイデオロギー	Japan: Society and Ideology	近藤佐知彦
数学とその工学応用（I）	Topics in Mathematics and its Engineering Applications (I)	宮原 啓造
科学英語入門	Introduction to Scientific English	岡本 紗知
異文化コミュニケーションとパフォーマンス	Intercultural Communication and Performance	中野 遼子

日本語 100 ～ 600 レベル

科 目 名（日本語名称）	科 目 名（英語名称）	担当教員名
国際コミュニケーションセミナー 日本語 103	International Communication Seminar (Japanese) 103	難波 康治
国際コミュニケーションセミナー 日本語 203	International Communication Seminar (Japanese) 203	義永美央子
国際コミュニケーションセミナー 日本語 303	International Communication Seminar (Japanese) 303	西口 光一
国際コミュニケーションセミナー 日本語 403	International Communication Seminar (Japanese) 403	勝田 順子
国際コミュニケーションセミナー 日本語 503	International Communication Seminar (Japanese) 503	難波 康治
国際コミュニケーションセミナー 日本語 603	International Communication Seminar (Japanese) 603	大谷 晋也

日本語 700 レベル（共通教育科目）

科 目 名（日本語名称）	科 目 名（英語名称）	担当教員名
総合日本語	Japanese for Advanced Communication	大谷 晋也
総合日本語	Japanese for Advanced Communication	勝田 順子
専門日本語	Japanese for Academic Purposes	義永美央子
専門日本語	Japanese for Academic Purposes	村岡 貴子
多文化コミュニケーション（日本語）	Communication in Multicultural Contexts (Japanese)	岡本 紗知
多文化コミュニケーション（日本語）	Communication in Multicultural Contexts (Japanese)	宮原 啓造
多文化コミュニケーション（日本語）	Communication in Multicultural Contexts (Japanese)	大谷 晋也
多文化コミュニケーション（日本語）	Communication in Multicultural Contexts (Japanese)	西村 謙一
多文化コミュニケーション（日本語）	Communication in Multicultural Contexts (Japanese)	有川 友子

【秋冬学期】

国際交流科目（※共通教育科目の基礎教養科目として設定）

科 目 名（日本語名称）	科 目 名（英語名称）	担当教員名
文化：その理解へのアプローチ	Approaches to Understanding Cultures	有川 友子
言語心理学と日本語の習得	Psychology of Language and Japanese Language Acquisition	西口 光一
数学とその工学応用（II）	Topics in Mathematics and its Engineering Applications（II）	宮原 啓造
コンピュータを活用した語学学習	Computers in Language Learning	魚崎 典子
日本のメディアとコミュニケーション	Media and Communications in Japan	近藤佐知彦
科学と社会	Science and Society	岡本 紗知
近現代日本の諸事情	Modern Japanese Circumstances	後藤 厳寛
異文化コミュニケーションと言語	Intercultural Communication and Language	中野 遼子
アジアのなかの近代日本	Modern Japan in Asia	佐藤 治子

日本語 100 ～ 600 レベル

科 目 名（日本語名称）	科 目 名（英語名称）	担当教員名
国際コミュニケーションセミナー 日本語 103	International Communication Seminar (Japanese) 103	難波 康治
国際コミュニケーションセミナー 日本語 203	International Communication Seminar (Japanese) 203	義永美央子
国際コミュニケーションセミナー 日本語 303	International Communication Seminar (Japanese) 303	西口 光一
国際コミュニケーションセミナー 日本語 403	International Communication Seminar (Japanese) 403	勝田 順子
国際コミュニケーションセミナー 日本語 503	International Communication Seminar (Japanese) 503	難波 康治
国際コミュニケーションセミナー 日本語 603	International Communication Seminar (Japanese) 603	大谷 晋也

共通教育科目（700 レベル）

科 目 名（日本語名称）	科 目 名（英語名称）	担当教員名
総合日本語	Japanese for Advanced Communication	勝田 順子
総合日本語	Japanese for Advanced Communication	畑中 香乃
専門日本語	Japanese for Academic Purposes	義永美央子
専門日本語	Japanese for Academic Purposes	大谷 晋也
専門日本語	Japanese for Academic Purposes	村岡 貴子
多文化コミュニケーション（日本語）	Communication in Multicultural Contexts (Japanese)	岡本 紗知
多文化コミュニケーション（日本語）	Communication in Multicultural Contexts (Japanese)	西村 謙一
多文化コミュニケーション（日本語）	Communication in Multicultural Contexts (Japanese)	大谷 晋也
多文化コミュニケーション（日本語）	Communication in Multicultural Contexts (Japanese)	後藤 厳寛

2. 研究指導

(1) 言語文化研究科

① 博士前期課程学生

学年	研 究 題 目	指 導 教 員
M2	日本語母語話者と中国人上級日本語学習者の「ほめ返答」のモデルについて —「ほめ対象」のフェイス侵害度からの考察を中心として—	西口 光一 (佐藤 彰)
M2	ピア・リーディングにおける知識の相互行為的達成 —クリティカル・リーディング力育成を目指した活動のタスク横断的な会話分析—	義永美央子 (岡田 悠佑)
M2	中国人大学院生・研究生の日本語Eメール作成時における意識 —教員宛に作成されたメール文章をもとに—	村岡 貴子 (植田 晃次)
M2	大学副専攻の日本語教員養成課程受講生の学習プロセス —他者との関わりに着目して—	(岩居 弘樹) 大谷 晋也
M2	外国にルーツを持つ子どもと教師のコミュニケーション —教科内容に関するコミュニケーションの諸相について—	(山下 仁) 難波 康治
M2	すべての女性は輝けるのか —「女性活躍加速のための重点方針」の内実—	(山下 仁) 西村 謙一
M1	アラビア語学習者から見た日本語教育の名詞修飾節 —エジプト人中級日本語学習者を中心に—	西口 光一 (平山 晃司)
M1	アカデミック・ジャパニーズとビジネス日本語で求められるコミュニケーション 能力の分析—出口を意識したAJ教育を目指して—	義永美央子 難波 康治
M1	日本語母語話者のコミュニケーション意識の変化 —過剰依頼表現「テイタダク系」を通じて—	義永美央子 (瀧田 恵巳)
M1	第二言語としての日本語によるアカデミック・ライティングのパラフレーズの諸相 —中国人上級日本語学習者の事例から—	村岡 貴子 大谷 晋也
M1	中国におけるメディアの在り方の新たな可能性 —表現の自由とナショナリズムをめぐって—	(我田 広之) 西村 謙一

注)「指導教員」欄については、前者が主指導教員で、後者が副指導教員。()内は言語文化研究科・全学教育推進機構教員。

② 博士後期課程学生

学年	研 究 題 目	指 導 教 員
D3	SMTアプローチにおける表現活動中心の日本語教育 — 台湾人学習者が日本へ実習に行くための面接を言語活動のテーマとして	西口 光一 (山本 佳樹)
D3	コミュニケーションのための英語教育をめざしたインターアクション概念の再考	西口 光一 (秦 かおり)
D3	第二言語教育におけるテキスト相互作用を通じた自己変容の可能性 — 初級韓国語学習者のナラティブを適用した教育実践を中心に	西口 光一 (植田 晃次)
D3	日本語非母語話者同士の会話における言語規範について — 自己開示場面に焦点を当てて	義永美央子 (秦 かおり)
D3	EPA 看護師候補者のための漢字・語彙指導 — 看護師国家試験の出題漢字・語彙のデータベースに基づくオンライン教材開発 —	村岡 貴子 大谷 晋也
D3	観光ガイドのための自律的な日本語学習環境の構築を目指す教育と学習支援 — 中国の大学における観光日本語教育の改善に向けて —	村岡 貴子 (力武 京子)
D3	多文化社会を担う子どもたちの人間形成	(山下 仁) 難波 康治
D3	台湾における言語使用と母語意識にみる帰属意識 — 小学校での閩南語履修者を事例に —	(伊勢 芳夫) 西村 謙一
D2	経験を形づくる物語行為 — 日本語学習者による語りの生成の現場から	西口 光一 (力武 京子)
D2	日本語の複合語におけるアクセントの融合・非融合に関する研究	(郡 史郎) 大谷 晋也
D1	実践共同体を支えるもの — インドネシア・スマトラ島メダンにおける日本語教育ユーザーのコミュニティ	西口 光一 (大村 敬一)
D1	日本語教師の「専門性」 — 日本語教育関係者及び一般の人々へのインタビューとフォーカス・グループの会話分析	義永美央子 (岡田 悠佑)

注)「指導教員」欄については、前者が主指導教員で、後者が副指導教員。()内は言語文化研究科教員。

③ 研究生

研 究 題 目	指 導 教 員
バフチン対話原理に基づいた第二言語教育に関する研究	西口 光一
トルコ人学習者に対する日本語アカデミック・ライティング教育の現状と課題 — 学習者、教員及び日本語既習者のビジネスパーソンへの調査から —	村岡 貴子

3. 研究指導学生学位論文

(1) 言語文化研究科

① 修士学位論文

論 文 題 目	指 導 教 員
日本語母語話者と中国人上級日本語学習者の「ほめ返答」のモデルについて —「ほめ対象」のフェイス侵害度からの考察を中心として—	西口 光一 (佐藤 彰)
訂正フィードバックと「傍観者」の認知的反応 —学習者は他者へのフィードバックから何を学ぶのか—	西口 光一 (瀧田 恵巳)
ピア・リーディングにおける知識の相互行為的達成 —クリティカル・リーディング力育成を目指した活動のタスク横断的な会話分析—	義永美央子 (岡田 悠佑)
中国大学院生・研究生の日本語Eメール作成時における意識 —教員宛に作成されたメール文章をもとに—	村岡 貴子 (植田 晃次)
外国にルーツを持つ子どもと教師のコミュニケーション —教科内容に関するコミュニケーションの諸相について—	(山下 仁) 難波 康治
すべての女性は輝けるのか —「女性活躍加速のための重点方針」の内実—	(山下 仁) 西村 謙一
大学副専攻の日本語教員養成課程受講生の学習プロセス —他者との関わりに着目して—	(岩居 弘樹) 大谷 晋也

注)「指導教員」欄については、前者が主指導教員で、後者が副指導教員。()内は言語文化研究科・全学教育推進機構教員。

② 博士学位論文

論 文 題 目	指 導 教 員
中国における日本語専攻課程のカリキュラムについて —日本語専攻教学大綱後の新時代のカリキュラムを考える—	西口 光一 (山本 佳樹) (岩根 久)
初級段階からの専門日本語教育の重要性とその実践への提言 —研究留学生による専門紹介プレゼンテーション資料作成過程から—	村岡 貴子 (岩根 久) (秦 かおり)
中国語母語話者による日本語の漢語形容動詞の習得	(渡邊 伸治) (沖田 知子) 村岡 貴子 (瀧田 恵巳)

*印は博士論文資格審査後の研究指導教員。()内は言語文化研究科教員。

4. リサーチ・アシスタント (RA) の受入れ

研 究 プ ロ ジ ェ ク ト 名	採 用 時間数	担 当 教 員
教育機関・プログラムと連携した地域家庭への留学生受入れ ホームステイへの研究	40	近藤佐知彦
東南アジア地方自治に関する住民意識調査	67	西村 謙一
中級日本語教材の開発と効果の検証	75	西口 光一

XI. その他の活動

1. 各種行事

○学内行事

- 2017年4月6日 平成29年度春季第47-1回大阪大学留学生ホストファミリープログラム「出合いの会」
於：吹田キャンパス ICホール2階講義室1～6、4階会議室、留学生交流情報室（IRIS） 組み合わせ数62組
- 2017年4月10日 留学生のための交通安全防犯講習会
於：吹田キャンパス 銀杏会館3階、阪急電鉄・三和銀行ホール 参加者：34名
- 2017年4月11日 海外留学オリエンテーション（入門編）
於：豊中キャンパス 大学会館講堂 参加者：75名
- 2017年4月15日 平成29年度春季第47-2回大阪大学留学生ホストファミリープログラム「出合いの会」
於：箕面キャンパス 日本語日本文化教育センター 多目的ホール、講義室1313 組み合わせ数31組
- 2017年4月17日 第16回大阪大学・地域「国際理解教育」推進連絡協議会
於：吹田キャンパス ICホール4階会議室 学内参加者：5名、学外参加者：8名 計13名
- 2017年4月22日 ホームステイ研修説明会
於：吹田キャンパス ICホール 参加者：学内3名、学外40名 計43名
- 2017年4月24日 海外留学オリエンテーション（入門編）
於：豊中キャンパス 大学会館講堂 参加者：127名
- 2017年6月2日 海外留学オリエンテーション（本編）
於：豊中キャンパス 大阪大学会館講堂 参加者：61名
- 2017年6月5日 海外留学オリエンテーション（本編）
於：箕面キャンパス 管理棟4階大会議室 参加者：96名
- 2017年6月6日 海外留学オリエンテーション（本編）
於：豊中キャンパス 大阪大学会館講堂 参加者：69名
- 2017年6月7日 海外留学オリエンテーション（本編）
於：吹田キャンパス ICホール2階講義室5-6 参加者：16名
- 2017年6月14日 第78回大阪大学留学生支援フロントスタッフネットワーク・ミーティング
於：豊中キャンパス 大学会館セミナー室1 参加者：17名
- 2017年7月5日 留学生対象交通安全防犯防災講習会「異国の地で身を守るために」
於：豊中キャンパス サイエンスコモンズ・サイエンススタジオA
参加者：学生8名、教職員8名 計16名
- 2017年7月11日 トビタテ！留学JAPAN第8期募集説明会

- 於：豊中キャンパス 大阪大学会館講堂 参加者：160 名

• 2017年 7 月28日 平成 29 年度国際教育交流関係者連絡・交換会

於：吹田キャンパス コンベンションセンター 1 階研修室 参加者：76 名
- 2017年 8 月 5 日 第 46 回大阪大学留学生ホストファミリープログラム連絡協議会
(台風により会議自体はキャンセルとなり、配布資料等は郵送の上、個別対応した)
- 2017年 8 月 8 日 海外留学・研修等派遣前危機管理オリエンテーション

於：豊中キャンパス 全学教育推進機構大講義室 参加者：141 名
- 2017年 9 月 5 日 平成 29 年度大阪大学学生関係事務研修「留学・海外研修等における危機管理について」

於：吹田キャンパス 銀杏会館大講義室 参加者：41 名
- 2017年 9 月 6 日 第 79 回大阪大学留学生支援フロントスタッフネットワーク・ミーティング

於：吹田キャンパス IC ホール 4 階会議室 参加者 18 名
- 2017年 9 月11日 トビタテ！留学 JAPAN 第 8 期留学計画相談会

於：吹田キャンパス IC ホール 2 階講義室 5-6 参加者：10 名
- 2017年 9 月28日 平成 29 年度秋季第 48-1 回大阪大学留学生ホストファミリープログラム「出会いの会」

於：吹田キャンパス IC ホール 2 階講義室 1～6、4 階会議室、留学生交流情報室 (IRIS) 組み合わせ数 50 組
- 2017年10月 5 日 平成 29 年度秋季第 48-2 回大阪大学留学生ホストファミリープログラム「出会いの会」

於：吹田キャンパス IC ホール 2 階講義室 5-6、留学生交流情報室 (IRIS) 組み合わせ数 23 組
- 2017年10月14日 平成 29 年度秋季第 48-3 回大阪大学留学生ホストファミリープログラム「出会いの会」

於：箕面キャンパス 日本語日本文化教育センター多目的ホール、講義室 1301-1305、講義室 1311-1313 組み合わせ数 80 組
- 2017年10月16日 留学生のための交通安全防犯集会

於：吹田キャンパス 銀杏会館 3 階、阪急電鉄・三和銀行ホール 参加者：29 名
- 2017年10月18日 留学生対象防犯防災交通安全講習会「異国の地で身を守るために：For surviving in the foreign country」

於：豊中キャンパス ステューデントコモンズ・セミナー室 B
参加者：学生 10 名、教職員 8 名 計 18 名
- 2017年10月23日 平成 29 年度外国人留学生のための就職対策講座 第 1 回目「Introduction」

於：豊中キャンパス ステューデントコモンズセミナー室 B 参加者：24 名
- 2017年11月 1 日 平成 29 年度外国人留学生のための就職対策講座 第 2 回目「情報収集及び企業・業界研究」

於：吹田キャンパス IC ホール 2 階講義室 5-6 参加者：36 名
- 2017年11月 2 日 防災体験学習フィールドトリップ

於：大阪市立阿倍野防災センター 参加者：学生 20 名、教職員 3 名 計 23 名

- 2017年11月9日 平成29年度外国人留学生のための就職対策講座 第3回目「自己分析 キャリアデザイン」
 於：豊中キャンパス スチューデントコモンズセミナー室A 参加者：34名
- 2017年11月17日 平成29年度外国人留学生のための就職対策講座 第4回目「OB・OGによる体験談」
 於：吹田キャンパス ICホール2階講義室5-6 参加者：29名
- 2017年11月22日 平成29年度外国人留学生のための就職対策講座 第5回目「内定者による体験談」
 於：吹田キャンパス ICホール2階講義室5-6 参加者：16名
- 2017年11月29日 平成29年度外国人留学生のための就職対策講座 第6回目「エントリーシートの書き方/合同企業説明会等対策」
 於：豊中キャンパス スチューデントコモンズセミナー室B 参加者：18名
- 2017年12月1日 国際教育交流センタースピーチコンテスト
 於：吹田キャンパス ICホール2階講義室5-6 発表者16名
- 2017年12月4日 第80回大阪大学留学生支援フロントスタッフネットワーク・ミーティング
 於：豊中キャンパス 大学会館セミナー室2 参加者：15名
- 2018年1月11日 平成29年度外国人留学生のための就職対策講座 第7回目「面接対策(1)」
 於：吹田キャンパス ICホール2階講義室5-6 参加者：35名
- 2018年1月18日 トビタテ！留学JAPAN第9期留学計画相談会 参加者：10名
 於：吹田キャンパス ICホール2階講義室5-6
- 2018年1月18日 平成29年度外国人留学生のための就職対策講座 第8回目「面接対策(2)」
 於：豊中キャンパス スチューデントコモンズセミナー室B 参加者：10名
- 2018年2月2日 平成29年度第2回国立大学法人留学生指導研究協議会兼 第48回大阪大学留学生教育・支援協議会
 於：吹田キャンパス 銀杏会館3階 阪急電鉄・三和銀行ホール
 学内参加者：18名、学外参加者：69名 計87名
- 2018年2月3日 第6回留学生交流・指導研究会
 於：吹田キャンパス 銀杏会館3階会議室
 学内参加者：5名、学外参加者：34名 計39名
- 2018年2月14日 海外留学・研修等派遣前危機管理オリエンテーション
 於：吹田キャンパス 医学部A講義室 参加者：117名
- 2018年2月15日 第26回大阪大学・地域団体ボランティア留学生支援連絡協議会
 於：吹田キャンパス 銀杏会館3階 阪急電鉄・三和銀行ホール
 学内参加者：29名、学外参加者113名 計142名
- 2018年2月16日 第11回専門日本語教育研究協議会
 於：吹田キャンパス ICホール2階講義室5-6
 参加者：81名（学外45名・学内36名）
- 2018年2月22日 日本語授業教務オリエンテーション
 於：吹田キャンパス ICホール4階会議室 参加者：22名

- 2018年 2 月22日 学生対応研修会
於：吹田キャンパス ICホール 4階会議室 参加者：22 名
- 2018年 2 月22日 日本語・グローバル理解演習科目説明会
於：吹田キャンパス ICホール 2階講義室 1 参加者：11 名
- 2018年 3 月 2 日 第 47 回大阪大学留学生ホストファミリープログラム連絡協議会
於：吹田キャンパス ICホール 4階会議室
参加者：学内 4 名、学外 23 名 計 27 名
- 2018年 3 月 7 日 第 81 回大阪大学留学生支援フロントスタッフネットワーク・ミーティング
於：吹田キャンパス ICホール 4階会議室 参加者：15 名
- 2018年 3 月 8 日 日本語授業教務オリエンテーション
於：吹田キャンパス ICホール 2階講義室 1 参加者：7 名
- 2018年 3 月 8 日 学生対応研修会
於：吹田キャンパス ICホール 2階講義室 1 参加者：7 名
- 2018年 3 月11日 ホームステイ研修説明会
於：吹田キャンパス ICホール 参加者：学内 3 名、学外 40 名 計 43 名
- 2018年 3 月21日 ホームステイ研修説明会
於：吹田キャンパス ICホール 参加者：学内 3 名、学外 40 名 計 43 名

2. 海外出張・海外研修

○海外出張

- 2017年 5 月29日－ 6 月 4 日 近藤佐知彦教授 アメリカ合衆国カリフォルニア州ロサンジェルス
に出張
NAFSAにおける大学広報および情報収集のため
- 2017年 6 月 1 日－ 6 月 7 日 魚崎典子特任准教授 香港に出張
第 4 回 International Mobile Learning Festival (IMFL2017) で学会発表を行うため
- 2017年 6 月28日－ 7 月 1 日 宮原啓造准教授 大韓民国の済州島へ出張
工学系国際学会 (URAI2017) における研究発表および情報収集のため
- 2017年 6 月28日－ 7 月 1 日 西村謙一准教授 シンガポールに出張
ICPP 3-SINGAPORE 2017 で学会発表を行うため
- 2017年 7 月 1 日－ 7 月 9 日 魚崎典子特任准教授 ルーマニアのティミショアラに出張
第 17 回 IEEE International Conference on Advanced Learning Technologies (ICALT2017) でポスター発表を行うため
- 2017年 8 月 8 日－ 8 月11日 魚崎典子特任准教授 カナダのサスカトゥーンに出張
第 9 回 International Conference on Collaboration Technologies (CollabTech 2017) で学会発表を行うため
- 2017年 8 月 7 日－ 8 月11日 西村謙一准教授 インドネシアのジャカルタおよびバンテン州に出張
科研で調査を行うため
- 2017年 8 月14日－ 9 月 6 日 西村謙一准教授 フィリピンのマニラ首都圏およびカビテ州に出張

- UP NCPAG 65th Anniversary International Conferenceで学会発表を行い、また、科研で調査を行うため
- 2017年9月10日－9月14日 村岡貴子教授 タイのバンコクに出張
科研による情報収集・調査・打ち合わせのため
 - 2017年9月12日－9月15日 西村謙一准教授 韓国のソウル市に出張
Eastern Regional Organization for Public Administrationの2017 Annual Conferenceで学会発表を行うため
 - 2017年10月26日－10月28日 西村謙一准教授 フィリピンのマニラ首都圏に出張
科研でフィリピン側研究協力機関と協議を行うため
 - 2017年11月3日－11月8日 宮原啓造准教授 マレーシアのクアラルンプールへ出張
科研による調査、情報収集、および会議出席のため
 - 2017年11月9日－11月11日 大谷晋也准教授 中華人民共和国上海市に出張
上海海洋大学における講演のため
 - 2017年12月5日－12月8日 魚崎典子特任准教授 ニュージーランドのクライストチャーチに出張
第20回ACM Conference on Computer-Supported Cooperative Work and Social Computing CSCW 2017で学会発表を行うため
 - 2017年12月9日－12月15日 魚崎典子特任准教授 チリのサンチャゴに出張
チリ大学のDr. Gustavo Zuritaとの共同研究の打ち合わせを行うため
 - 2017年12月11日－12月15日 宮原啓造准教授 中華人民共和国の香港へ出張
工学教育国際学会（IEEE-TALE2017）における研究発表および情報収集のため
 - 2018年2月15日－2月22日 近藤佐知彦教授 アメリカ合衆国のカリフォルニア州サンタバーバラおよびワシントンDCに出張
AIEAに参加し研究発表および情報収集、並びにUCEAPを訪問しプログラム等について協議のため
 - 2018年3月11日－3月28日 西村謙一准教授 フィリピンのマニラ首都圏に出張
フィリピンの外交政策の調査のため
 - 2018年3月13日－3月19日 村岡貴子教授 タイのバンコクに出張
科研費による情報収集・調査・成果報告、次年度以降の打ち合わせのため

3. 出版物・印刷物等（2017年5月から2018年4月まで）

No.	出 版 物 の タ イ ト ル	発 行 年 月
1	大阪大学国際教育交流センター 2016年度年報	2017年7月
2	OUSSEP	2018年1月
3	第26回大阪大学・地域団体ボランティア留学生支援連絡協議会参加団体活動概要	2018年2月
4	第11回専門日本語教育研究協議会報告書（web版）	2018年3月
5	第26回大阪大学・地域団体ボランティア留学生支援連絡協議会報告書	2018年3月
6	大阪大学留学生センター研究論集 多文化社会と留学生交流 第22号 Journal of Multicultural Education and Student Exchange No.22	2018年3月
7	留学生日本語プログラム事務職員用ガイド	2018年3月
8	留学生日本語プログラム 2018年度履修ガイド Japanese Language Programs for International Students 2018	2018年3月

4. 来訪者対応

年 月 日	来 訪 者	センターからの対応者
2017年 5 月23日	ルール ボーフム大学 Ms. Meike Schaich、Mr. Daniel Wollnik (CP for International Exchange Students、International Office)	近藤教授 宮原准教授
2017年 6 月15日	モナシュ大学 櫻木真由美氏 (Business Development General Manager)	宮原准教授
2017年 7 月12日	ビーレフェルト大学 鈴木氏	中野特任助教
2017年 8 月 7 日	マヒドン大学 Assistant Professor Wanida Koo-amornpattana 氏 (Department Chair) 他 3 名	宮原准教授
2017年 9 月 4 日	マプア大学 (フィリピン)	近藤教授
2017年 9 月25日	Singapore Republic Polytechnic	近藤教授
2017年10月 2 日	モナシュ大学 Mark Cosby 氏	近藤教授
2017年10月 4 日	University College London 大沼教授	近藤教授
2017年10月11日	クイーンズランド大 五島氏	近藤教授
2017年10月20日	モナシュ大学 櫻木真由美氏 (Business Development General Manager)	宮原准教授
2017年10月24日	University College London Mr. Martin White (Marketing and Business Development Coordinator)	宮原准教授
2017年11月21日	大阪府招聘インドネシア人高校生デリゲーション	近藤教授
2017年11月24日	大阪府招聘ベトナム人高校生デリゲーション	近藤教授
2018年 1 月18日	King Moncht University 関教授	近藤教授
2018年 2 月13日	韓国嶺南大学校 学生来訪	近藤教授 宮原准教授

5. にほんごテーブル

にほんごテーブルは、国際教育交流センターとの連絡・調整・協力の下で、ボランティアグループが主催する自主的な活動である。にほんごテーブルでは、参加者はボランティアとペアになって、ひらがなや漢字の学習をしたり、各自が選んだ教科書に沿ってボランティアといっしょに日本語の練習をしたり、自由に会話を楽しんだりしている。こうした活動に参加することで、参加者は自身の日本語学習の達成感を得てさらにモチベーションを高めることができ、いっそう日本語力を伸ばすことができる。また、にほんごテーブルでは、参加しているボランティアの方々から、日本での生活を快適に過ごすことができるさまざまな生活情報等も得ることができ、参加する外国人研究者や留学生及びその配偶者にとって、日本で快適に楽しく暮らす上でのたいへん貴重な場となっている。国際教育交流センターは、活動場所の確保、及び、各部局の留学生相談室等への案内や、留学生会のメーリングリストでの案内など広報の面で、日本語テーブルの活動を支援している。

○吹田地区でのにほんごテーブル活動

吹田地区ではボランティアグループ竹の子にほんご交流会がにほんごテーブルを運営している。竹の子にほんご交流会は、外国人研究者とその配偶者や留学生等の日本語習得支援と交流を目的とした市民

ボランティアグループで、市民ボランティアと国際教育交流センターとで協議して平成 18 年 4 月に発足した。会員数は、発足時が 41 名で、平成 30 年 2 月現在 30 名である。

吹田地区のにほんごテーブルでは、通常の活動の他に、学習者による自分の国や専門等の話題での日本語による発表を随時行っている。また、七夕飾り、年賀状教室、お茶会、カルタ会などの日本の習慣や文化の紹介も行っている。このような種々の活動により、にほんごテーブルは、外国人参加者の日本語学習・習得のための機会として、また外国人参加者と一般日本人市民との交流の機会として、さらには外国人参加者同士の交流・情報交換の機会として重要な機能を果たしている。また、平成 27 年 9 月に竹の子にほんご交流会のホームページが立ち上げられた。

他に、竹の子にほんご交流会のメンバーの有志が、日本語テーブル終了後に日本語集中コースの初級クラスにビジターとして参加し、学生の会話パートナーをした。実績は、以下の通り。

春夏学期：2017年 5 月 9 日(火)－7 月 25 日(火) の計 12 回 ビジター参加者 11 名

秋冬学期：2017年 11 月 7 日(火)－2018 年 2 月 6 日(火) の計 12 回 ビジター参加者 10 名

□実施状況

・期 間：春季

参加登録—平成 29 年 4 月 25 日(火)

平成 29 年 5 月 9 日(火)－7 月 25 日(火)

※ 7 月 25 日(火) は交流会として、七夕飾りを実施した。

秋季

参加登録—平成 29 年 10 月 31 日(火)

平成 29 年 11 月 7 日(火)－平成 30 年 2 月 6 日(火)

※ 2 月 6 日(火) は交流会として、茶話会を実施した。

・曜日と時間：上記期間中の毎週火曜日 13 時 00 分－14 時 30 分

春季は 12 回、秋季は 12 回

・場 所：国際教育交流センター 第 5・6 教室

・平均参加者数：春季

外国人参加者：14.2 人、日本人参加者：19.3 人

秋季

外国人参加者：14.5 人、日本人参加者：16.1 人

□交流映画会

・平成 29 年 8 月 1 日(火) 13:00－16:00

『君の名は』(新海 誠 監督 長編アニメーション)

外国人参加者：10 人、日本人参加者：6 人

□竹の子にほんご交流会総会

・平成 30 年 3 月 20 日(火) 13:00－13:50

□研修会

・平成 30 年 3 月 20 日(火) 14:00－15:30

「大阪大学における留学生の状況と各種派遣：受け入れプログラム」

中野 僚子 先生(大阪大学国際教育交流センター)

○豊中地区でのにほんごテーブル活動

ホストファミリーなどの活動をしている市民ボランティアの方々から豊中地区でのにほんごテーブルの開催のご提案があり、国際教育交流センターとしてもそうした活動の意義を認識したところから、平成26年6月より、豊中地区においても、市民ボランティアグループの自主運営と国際教育交流センターがそれを支援する形で、にほんごテーブルが開設されることとなった。豊中地区ではボランティアグループマチカネにほんご交流会がにほんごテーブルを運営している。参加者は主として、実施場所である国際交流会館に居住する外国人研究者や留学生・外国人研究者などの配偶者である。研究生や大学院生等も参加している。

マチカネにほんご交流会は、外国人研究者とその配偶者や留学生等の日本語習得支援と交流を目的とした市民ボランティアグループで、市民ボランティアと国際教育交流センターとで協議して平成26年5月に発足した。会員数は、平成30年4月現在23名である。

□実施状況

- ・期 間：春季

参加登録—登録日を設定せず、いつからでも参加できるようにした。

平成29年4月19日(水)－7月26日(水)

秋季

参加登録—登録日を設定せず、いつからでも参加できるようにした。

平成29年10月11日(水)－平成30年1月31日(水)

- ・曜日と時間：上記期間中の毎週水曜日 10時30分－12時00分

春季は14回、秋季も14回

- ・場 所：大阪大学国際交流会館 本館ロビー

- ・平均参加者数：春季

外国人参加者：15人、日本人参加者：16人

秋季

外国人参加者：20人、日本人参加者：16人

□マチカネにほんご交流会総会

- ・平成30年4月4日(水) 10:30－12:00

□研修会（竹の子にほんご交流会との合同による実施、吹田地区での日本語テーブル活動参照）

XII. 教員個人データ

【記載事項】

1. 専門分野
2. 授業担当 (1) 共通教育 (2) 学際融合教育科目 (3) 大学院 (4) 留学生日本語プログラム (5) 国際交流科目 (6) インターナショナル・カレッジ (7) その他
3. 学生指導 (1) 博士後期課程 (2) 博士前期課程 (3) 日本語研修生 (4) 短期留学特別プログラム (5) 日韓共同理工系学部留学生予備教育生 (6) その他
4. 教育(学外) 5. 学内運営 6. 外部資金
7. 研究業績 (1) 論文 (2) 著書 (3) 口頭発表
8. 学外運営 9. 会議運営 10. 講演 11. 報道 12. その他

※以下の記載の7の(1)論文と(3)口頭発表の記載の末尾にある「有」「無」は、査読の有無。

有 川 友 子

1. 専門分野

教育人類学、異文化間教育学

2. 授業担当

(1) 共通教育

○春夏学期

多文化コミュニケーションI/II-3

(3) 大学院

○春夏学期

生涯教育学特定演習I(共同) 人間科学研究科

(5) 国際交流科目

○秋冬学期

Approaches to Understanding Cultures

(6) インターナショナルカレッジ

○秋冬学期

Approaches to Understanding Cultures (上記国際交流科目を英語コース学生へのオープンとした)

3. 学生指導

- 留学生の相談対応

5. 学内運営（職指定を含む）

- 国際教育交流センター長
- 国際交流委員会委員
- キャンパスライフ健康支援センター運営委員会委員
- ハウジング委員会委員
- 経営協議会委員
- グローバル連携オフィス員

7. 研究業績

(1) 論文

- 2018、研究ノート「日本の大学院における教育研究指導体制の問題——理工系大学院留学生を研究室にて指導するある日本人教員のケースを通して考える——」、『留学生交流・指導研究』第20号、pp.7-16、国立大学留学生指導研究協議会。

(3) 口頭発表

- 2017、「大学のグローバル化と改革の中で留学生アドバイジングについて考える」（単独ポスター）、異文化間教育学会第38回大会、平成29年6月17-18日（東北大学）

8. 学外運営

- 国立大学留学生指導研究協議会 近畿地区幹事

9. 会議運営

- 平成29年度第2回国立大学法人留学生指導研究協議会、企画運営、大阪大学国際教育交流センター、2018年2月
- 大阪大学・地域団体ボランティア留学生支援連絡協議会、企画運営、大阪大学国際教育交流センター、2018年2月

10. 講演

- 阪大－朝日 中之島塾
「留学生の立場からの日本留学について考える」
日時：平成29年6月24日（土）10時半-12時 場所：大阪大学中之島センター
- 平成29年度広島大学ハラスメント防止研修会
「留学生支援の観点から大学におけるハラスメント防止について考える」
日時：平成29年12月11日（月）14時30分-16時 場所：広島大学法人本部棟 4F会議室

12. その他

- 豊中市人権文化のまちづくりをすすめる協議会委員
- 文部科学省 住環境・就職支援等留学生の受入れ環境充実事業選定委員会委員
- 独立行政法人日本学生支援機構 評価委員会委員

1. 専門分野

教育工学、外国語教育学

2. 授業担当

(2) 学際融合教育科目

○ 春夏学期

キャリアデザインとビジネスコミュニケーション

(5) 国際交流科目

○ 春夏学期

オンライン・リソースを活用したL2学習

○ 秋冬学期

コンピュータを活用した語学学習

3. 学生指導

- ・就職相談コーナーにおいて留学生の個別相談対応（豊中・吹田・箕面キャンパス）
- ・留学生の相談対応（IRIS、箕面分室）

5. 学内運営

- ・海外派遣候補者選考WG
- ・大阪大学学内留学生指導フロントスタッフネットワーク・ミーティング構成員
- ・大阪大学卒業生担当者ネットワーク連絡会
- ・大阪大学キャリアセンター連携協力者

6. 外部資金

- ・科学研究費補助金基盤研究（B）課題番号：16H03078 平成28年～31年度「教育ビッグデータの解析による教材改善手法の開発と評価」（研究代表者：殷 成久）研究分担者
- ・科学研究費補助金基盤研究（S）課題番号：16H06304 平成28年～33年度「教育ビッグデータを用いた教育・学習支援のためのクラウド情報基盤の研究」（研究代表者：緒方広明）研究協力者

7. 研究業績

(1) 論文

- ・Real-time Analysis of Digital Textbooks: What Keywords Make Lecture Difficult? Kousuke Mouri, Atsushi Shimada, Chengjiu Yin, Noriko Uosaki and Keiichi Kaneko, *Proceedings of the 25th International Conference on Computers in Education (ICCE2017)*, 733-735. Dec.4-Dec.8, 2017, Christchurch, New Zealand. 査読有
- ・Learning Behavioral Pattern Analysis based on Students' Logs in Reading Digital Book, Chengjiu Yin,

Noriko Uosaki, Hui-Chun Chu, Gwo-Jen Hwang, Gi -Zen Liu, Jau-Jian Hwang, Itsuo Hatono, Etsuko Kumamoto & Yoshiyuki Tabata, *Proceedings of the 25th International Conference on Computers in Education (ICCE2017)*, 549-557. Dec.4-Dec.8, 2017, Christchurch, New Zealand. 査読有 (Best Overall Paper Candidate)

- デジタル教科書における学習ログを利活用した教員支援システム, 毛利考佑, 島田敬士, 殷 成久, 魚崎典子, 金子敬一, 日本教育工学会全国大会, 島根大学, 2017. 査読無

(2) 著 書

- Implementing Sustainable Mobile Learning Initiatives for Ubiquitous Learning Log System Called SCROLL, Noriko Uosaki, Hiroaki Ogata, Kousuke Mouri, Mahdi Choyekh, *Mobile Learning in Higher Education in the Asia-Pacific Region: Harnessing Trends and Challenging Orthodoxies*, pp.89-110, 2017. Springer. ISBN-10: 9811049432

(3) 口頭発表

- Supporting Collaborative Interaction among Learners with InCircle, Noriko Uosaki, Takahiro Yonekawa, Chengjiu Yin, *Proceedings of the International Mobile Learning Festival 2017: Mobile Learning, Emerging Learning Design & Learning 2.0*, 45-52. June 8-10, 2017, Hong Kong. 査読有
- Building A Group Formation System by using Educational Log Data, Chengjiu Yin, Noriko Uosaki, *Proceedings of the 2017 IEEE 17th International Conference on Advanced Learning Technologies*, Timisoara, Romania, 320-321, July 3-7, 2017. 査読有 (ポスター発表) (Best Poster Paper Candidate)
- Enhancing Learners' Cross-Cultural Understanding in Language and Culture Class Using InCircle, Noriko Uosaki, Takahiro Yonekawa, and Chengjiu Yin, *Proceedings of International Conference on Collaboration Technologies (CollabTech 2017) Collaboration Technologies and Social Computing*, 145-152, Saskatoon, SK, Canada, August 8-10, 2017.
- InCircleを活用した異文化理解支援, 魚崎典子, 米川, 殷 成久, 日本教育工学会全国大会, 島根大学, 2017. 査読無
- Enhancing Seamless Learning Using Learning Log System, Noriko Uosaki, Hiroaki Ogata and Kousuke Mouri, *Proceedings of the 25th International Conference on Computers in Education (ICCE2017)*, 529-538. Dec.4-Dec.8, 2017, Christchurch, New Zealand. 査読有

8. 学外運営

- グローバル人材活用運営協議会構成員
- CARES-Osaka 運営委員会構成員
- CUMTEL SIG (Classroom, Ubiquitous and Mobile Technologies Enhanced Learning Special Interest Group, sub-division of ICCE2017) program committee member
- LTLE2017 (6th International Conference on Learning Technologies and Learning Environments) program committee member

9. 会議運営

- 大阪大学・地域ボランティア留学生支援連絡協議会、企画運営、大阪大学国際教育交流センター、2018年2月

12. そ の 他

- 2017 年度「留学生のための就職対策講座」企画運営、大阪大学国際教育交流センター、2017 年 10 月～2018 年 1 月（計 8 回）
- 大阪大学ホストファミリープログラム（OHP）「出会いの会」、企画運営、大阪大学国際教育交流センター、2017 年 4 月、10 月（計 4 回）
- 2017 年度春学期新規渡日留学生対象「交通安全講習会」企画運営 2017 年 4 月
- 2017 年度秋学期新規渡日留学生対象「交通安全防犯講習会」企画運営 2017 年 10 月

1. 専門分野

応用言語学、言語社会学、文献学

2. 授業担当

(1) 共通教育

○春夏学期

総合日本語・多文化コミュニケーション（日本語）／多文化コミュニケーションセミナー

○秋冬学期

専門日本語・多文化コミュニケーション（日本語）／多文化コミュニケーションセミナー

(3) 大学院（言語文化研究科）／外国語学部

○春夏学期

言語文化教育論A／言語文化教育論（F）

○秋冬学期

言語文化教育論B／言語文化教育論（G）

(5) 国際交流科目

○春夏学期

総合日本語 JA600

○秋冬学期

総合日本語 JA600

(6) インターナショナルカレッジ日本語科目

○春夏学期

国際コミュニケーションセミナー日本語 603

○秋冬学期

国際コミュニケーションセミナー日本語 603

3. 学生指導

(1) 博士後期課程 2（留学生）

(2) 博士前期課程 2（うち留学生は1）

5. 学内運営

- ・大学院言語文化研究科兼任教員
- ・外国語学部教授会構成員
- ・全学教育推進機構兼任教員
- ・超域イノベーション博士課程プログラム担当教員
- ・未来共生イノベーター博士課程プログラム担当教員
- ・情報化推進会議委員

- 情報セキュリティ連絡会委員
- ODINS運用部会委員
- マチカネにほんご交流会担当教員

6. 外部資金

- 科学研究費補助金基盤研究（C）課題番号：26370607 平成26年度～平成29年度「EPA看護師候補者のためのオンライン漢字語彙教材の開発」、研究代表者
- 科学研究費補助金基盤研究（C）課題番号：15K02639 平成27年度～平成29年度「ICT学習支援オンラインアカデミック日本語教育の開発と実践研究」、研究分担者

7. 研究業績

(2) 編著書

- 『竹取物語』（平安文学ライブラリー）、日本文学Web図書館（古典ライブラリー）、伊井春樹・伊藤鉄也・大谷晋也・谷口敏夫・中村一夫編、2018年1月、Web配信
- 『伊勢物語』（平安文学ライブラリー）、日本文学Web図書館（古典ライブラリー）、伊井春樹・伊藤鉄也・大谷晋也・谷口敏夫・中村一夫編、2018年1月、Web配信

8. 学外運営

- 国・地方公共団体、医療事務連絡会（箕面市等）委員
- その他、みのお外国人医療サポートネット 運営委員

10. 講演

- 「日本の医療の不思議 ～保健・医療文化の違い～」外国人市民への保健・医療サポートセミナー 2018（医療事務連絡会（箕面市等））2018.1（共同でコーディネーター）

1. 専門分野

微生物学、科学教育学、科学英語

2. 授業担当

学部

○春夏学期

多文化コミュニケーション（日本語）

多文化コミュニケーションセミナー I

○秋冬学期

多文化コミュニケーション（日本語）

多文化コミュニケーションセミナー II

(5) 国際交流科目

○春夏学期

Introduction to Scientific English

○秋冬学期

Science and Society

3. 学生指導

- ・留学生の相談対応（IRIS、豊中分室）
- ・留学生の個別相談対応

4. 教育（学外）

九州大学基幹教育院 高年次基幹教育科目「レトリック基礎」（集中講義）

5. 学内運営

- ・国際教育交流センター評価WG委員
- ・人権・セクシャルハラスメント対策委員
- ・国際教育交流センター財務委員

6. 外部資金

平成 28 年度～平成 30 年度科学研究費補助金若手研究 B（課題番号 70769067）

「市民科学リテラシーの向上に向けて：認知科学的手法に基づく高校教育の解析」研究代表者

7. 研究業績

(1) 論文

- ・「教科書は科学リテラシーの向上に寄与するか——高校生物の教科書が求める認知的能力とは——」、

『科学教育研究』、査読有、2018年3月

(3) 口頭発表

- “Scientific Literacy of Japanese Students - Performance and Self-Efficacy”, *The Asian Conference on Education*, 2017年10月, 国際学会, 神戸

12. その他

- 新規来日国費留学生研究訪問コーディネート
- 新規来日留学生への生活サポーターコーディネート
- 第2回日独HeKKSaGOn学生ワークショップ、企画
- 大阪大学ホストファミリープログラム（OHP）「出会いの会」、運営、大阪大学国際教育交流センター、2017年4月、2017年10月
- 大阪大学・地域ボランティア留学生支援連絡協議会、運営、大阪大学国際教育交流センター、2018年2月

1. 専門分野

社会言語学、会話分析、日本語教育学

2. 授業担当

(1) 共通教育

○春夏学期

総合日本語

(5) 国際交流科目

○春夏学期

総合日本語 JA400-1

(7) その他

○日本語集中（研修）コース IJ300 授業担当（週に 1 コマ）、春夏学期

○夏季 J-ShIP（ショートステイ学期内日本語専修プログラム、2017 年 6 月 19 日－8 月 10 日までの 8 週間）のコーディネーション及び授業担当（週に 2 コマ）

○冬季 J-ShIP プログラム（2018 年 1 月 5 日－2 月 9 日）のコーディネーション及び授業担当（週に 2 コマ）

○中級日本語と防災（超短期プログラム、2018 年 2 月 1 日－2 月 22 日）のコーディネーション

5. 学内運営

・教務委員会

7. 研究業績

(1) 論文

・「2016－2017 年度短期日本語教育プログラム“夏 J-ShIP”——実施概要及び評価・課題について——」, 『多文化社会と留学生交流』第 22 号, 2017 年 3 月, 査読無

(3) 口頭発表

・「マレーシア語会話における聞き手行動——談話マーカー「ね」「さ」相当語 *kan* 周辺に注目して——」, 第 40 回社会言語科学会, pp.26-29, 2017 年 9 月, 於：関西大学, 査読有

1. 専門分野

日本語教育学、協働実践研究、ビジネスコミュニケーション教育

2. 授業担当

(4) 留学生日本語プログラム

○春夏学期

アカデミックライティング JW400/500

アカデミックコミュニケーション JC400/500

○秋冬学期

アカデミックライティング JW400/500

アカデミックコミュニケーション JC400/500

ビジネス日本語コミュニケーション BJ500600700

ビジネスコミュニケーションのためのケース学習（オンライン） CBL-BJ500600700（Online）

(7) その他

○学際融合教育科目 「キャリアデザインとビジネスコミュニケーション」、春学期と夏学期

○日本語集中（研修）コース IJ150 コーディネータと授業担当（週に1コマ）、春学期と夏学期

6. 外部資金

- ・基盤研究（C）平成 29 年度～平成 32 年度 課題番号：17K02851「外国人社員の異業種協働型ビジネスコミュニケーション研修プログラムの開発研究」（研究代表者：金孝卿）
- ・基盤研究（C）平成 29 年度～平成 31 年度 課題番号：17K02869「日本語教師のための協働的内省ツールの開発：個人と組織の相乗的発展を目指して」（研究代表者：トンプソン美恵子）、研究分担者
- ・基盤研究（B）平成 28 年度～平成 30 年度 課題番号：16H03435「多文化共生社会におけるホストパーソン・支援者の接触支援スキルと意識の変容」（研究代表者：義永美央子）、研究分担者
- ・基盤研究（C）平成 27 年度～平成 29 年度 課題番号：15K02669「JFL 環境の中等日本語教育における教師間協働の研究」（研究代表者：門脇薫）、研究分担者
- ・挑戦的萌芽研究 平成 27 年度～平成 29 年度 課題番号：16K13249「映像記録を用いた日本語教師の語りの保存に関する基礎研究」（研究代表者：牛窪隆太）、研究分担者
- ・基盤研究（B）平成 26 年度～平成 29 年度 課題番号：26284073「学びの関係性構築をめざした「対話型教師研修」の研究」（研究代表者：舘岡洋子）、研究分担者

7. 研究業績

(1) 論文

- ・「元留学生社会人交流会「サロン・デ・ゼクスパット」におけるケース学習の実践——企業と大学の協働による学びの場の構築に向けて——」『多文化社会と留学背交流』第 22 号、大阪大学国際教育

交流センター研究論集、57-65、2018年3月、研究ノート

(3) 口頭発表

- 「対話型教師研修における「ティーチング・ポートフォリオ」の可能性」、金孝卿・トンプソン美恵子・羅曉勤・張瑜珊、『2017年度日本語文国際学術シンポジウム』、台湾日本語文学会、2017年12月16日
- 「自分のあり方を語ることばの資源をつくる——日本語を学ぶこと・その学びを支援することの意義——」、第13回協働実践研究会・パネルディスカッション（早稲田大学）、『第13回協働実践研究会&科研報告会』予稿集、65-67、2017年12月
- 「ティーチング・ポートフォリオの枠組みを媒介にした対話型教師研修の実践」、第13回協働実践研究会・科研報告会（早稲田大学）、金孝卿・トンプソン美恵子、『第13回協働実践研究会&科研報告会』予稿集、5-6、2017年12月
- 「関西の企業における元留学生社会人交流会「サロン・デ・ゼクスパット」活動——ビジネスコミュニケーションのためのケース学習の実践の意義と課題——」国際交流基金ハノイ・ビジネス日本語研究会（ハノイ貿易大学）、『国際シンポジウム・ビジネス日本語教育とグローバル人材育成』、267-273、2017年06月

9. 学外運営

- 公益財団法人日本語教育学会 大会企画運営委員会委員長、理事
- 国立大学日本語教育研究協議会 理事（2016年6月から2018年5月）
- 言語文化教育研究学会 年次大会実行委員（2016年4月から）
- 協働実践研究会 代表幹事

10. 講演会

- ロシア語教育研究集会2017、「協働学習（ピア・ラーニング）における相互作用と言語学習活動デザイン」（於：大阪大学言語文化研究科）、2017年12月、招待講演
- 「ビジネスコミュニケーションのためのケース学習～日本語を共通の言語として働く日本人と外国人の協働的な学びの実践をつくる～」経営技術コンサルタント協会総合研修、2017年9月21日、招待講演
- 「協働の理念に基づくケース学習」、池田玲子・金孝卿、立命館大学大学院言語教育情報研究科多文化共生をめざした日本語教プロジェクト、2017年9月14日、招待講演
- 「ロシアの中高校の日本語教師研修「ピア・ラーニングの授業デザイン」」（東京・八王子大学セミナーハウス）、2017年9月、招待講演
- 「ビジネスコミュニケーション教育を考える」、近藤彩・金孝卿、ビジネス日本語研究会 於：国際交流基金ベトナム日本文化交流センター（ベトナム・ハノイ）、2017年6月4日、招待講演

1. 専門分野

グローバル教育、防災・危機管理学、地政学・風土論

2. 授業担当

(1) 共通教育

○秋冬学期

多文化コミュニケーション

多文化コミュニケーション・セミナーⅡ

(5) 国際交流科目

○秋冬学期

近現代日本の諸事情／Modern Japanese Circumstances

3. 学生指導

留学生交流情報室（IRIS）、豊中分室等での留学生の相談対応

5. 学内運営

- ・国際教育交流センター広報・出版委員会委員
- ・留学生指導フロントスタッフネットワーク構成メンバー

7. 研究業績

(1) 論文

- ・世界遺産「軍艦島」の観光と安全・安心対策、日本セーフティプロモーション学会誌 第10巻1号、pp.38-43、2017年4月、査読有

8. 学外運営

- ・日本農村生活学会 理事・総務委員・九州支部長
- ・日本セーフティプロモーション学会 第12回学術大会準備委員会

9. 会議運営

- ・大阪大学・地域ボランティア留学生支援連絡協議会、企画運営、大阪大学銀杏会館 阪急電鉄・三和銀行ホール、2018年2月
- ・大阪大学ホストファミリープログラム（OHP）「出会いの会」、企画運営、大阪大学国際教育交流センター、2017年4月、10月（計4回）

10. 講演

- ・「留学・海外研修等における危機管理」平成29年度 大阪大学学生関係事務研修、2017年9月、大

阪大学銀杏会館 大講義室

- 「災害現場等における医療情報共有の課題と、その解決に向けて」全日本病院協会研修会、2017 年 2 月、大阪大学銀杏会館 大講義室

12. その他

- 2017 年度春学期新規渡日留学生対象「交通安全・防犯講習会」企画運営 2017 年 4 月
- 2017 年度春学期新規渡日留学生対象「防災防犯講習会」企画運営 2017 年 7 月
- 2017 年度秋学期新規渡日留学生対象「交通安全・防犯講習会」企画運営 2017 年 10 月
- 2017 年度秋学期新規渡日留学生対象「防災防犯講習会」企画運営 2017 年 10 月
- 2017 年度「防災体験学習フィールドトリップ」企画運営 2017 年 11 月

1. 専門分野

留学生教育、社会心理学、ディスコース分析

2. 授業担当

(5) 国際交流科目

- 春夏学期；日本の社会とイデオロギー
- 秋冬学期；日本のメディアとコミュニケーション
- 夏季集中講義 グローバル長期インターンシップ

3. 学生指導

(4) 短期留学特別プログラム

国際教養・専門複合型プログラム（OUSSEP）春夏学期 70 名

国際教養・専門複合型プログラム（OUSSEP）秋冬学期 72 名

(6) その他

Japanese Short-stay In-session Program (J-ShIP)

Summer Program (06/19－08/09) 49 名

Winter Program (01/05－02/05) 34 名

Winter Intensive Program Japanese Language and Disaster Prevention

(02/01－02/22) 15 名

4. 教育（学外）

広島大学・客員教授

PhD 研究員受入 (Coventry University PhD candidate 7 月 26 日～8 月 24 日)

5. 学内運営

G30 企画室室員

大阪大学とカリフォルニア大学との学術交流推進室室員

学生交流プログラム検討ワーキング

学生交流プログラム検討ワーキング OUSSEP ワーキング座長

6. 研究業績

(2) 論文

- ・ (2017) 「現代のホームステイのあり方に関する一考察： 宿舎は留学生の学習・異文化理解を担えるか」 ウェブマガジン留学交流, vol.78 pp.13-32

(3) 学会発表

2 月 20 日

Internationalization at Home -Goals, Outcomes and Strategies

(2018 AIEA Annual Conference@Washington DC ; The Internationalization Imperative in Turbulent Times)

Presenters: Sachihiko Kondo, Professor Osaka University, Japan

Bruce Stronach, Dean, Temple U., Japan Campus

Chair: Miki Sugimura, Professor, Sophia University, Japan

7. 学外運営

大阪府市都市魅力戦略推進会議委員

大阪府国際化戦略実行委員会委員

(公財) 大阪府国際交流財団理事

(公財) 吹田市国際交流協会理事

住環境・就職支援東留学生の受入環境支援事業「CARES-Osaka」運営委員

日本学生支援機構短期プログラム審査委員

官民協働「トビタテ！留学JAPAN」学識者選考委員

(公財) 業務スーパージャパンドリーム財団奨学金選考委員

留学生教育学会理事・会長

グローバル人材育成教育学会理事・副会長

アゴラブリタニカ（イギリス研究会）副会長

8. 会議運営

6月16日

笹川中東イスラム基金説明会（於：大阪大学）

8月18日19日

留学生教育学会第22回全国大会第一部（於：東洋大学）

9月2日

留学生教育学会第22回全国大会第二部（於：日本電子専門学校）

2月23日

「大阪型専修学校グローバル化対応推進支援事業」ファシリテーター（於：大阪私学会館）

主催一般社団法人 大阪府専修学校各種学校協会

（平成29年度 文部科学省委託事業「専修学校グローバル化対応推進支援事業」）

3月11日20日

大阪大学ホームステイ説明会

（株）ネクステージジャパンと共催

12. その他

2016/10から（公財）英語検定協会およびBritish Council Tokyoと連携して日本人学生と留学生がペアワークをするProject HELP! (Harmonized English Learning Program) を実施。

中 野 遼 子

1. 専門分野

留学生教育、異文化コミュニケーション

2. 授業担当

(5) 国際交流科目

○ 春夏学期

異文化コミュニケーションとパフォーマンス

○ 秋冬学期

異文化コミュニケーションと言語

5. 学内運営

- OUSSEP 運営 Sub WG
- 海外派遣候補者選考 WG

7. 研究業績

(1) 論 文

- 「在日ドイツ人交換留学生と日本人学生の友人関係構築に関する比較考察」、中野遼子（2017）、『独文学報』第 33 号、大阪大学ドイツ文学会、論文、有、pp.101-118

(3) 口頭発表

- 「演劇創作プロセスにおける人的ネットワーク構築に関する考察——ネットワーク構築要因を中心に——」2017 年 9 月 10 日、多文化関係学会第 16 回年次大会、於：藤女子大学、有、pp.58-61
- 「Project HELP! 実践報告——留学生との交流を促進する英語学習プログラムの検討——」、2018 年 1 月 10 日、大阪大学第 2 回豊中地区研究交流会、於：大阪大学、無、ポスター発表

12. その他

- 「大阪大学における留学生の状況と各種派遣・受け入れプログラム」、2018 年 3 月 20 日、竹の子にほんご・マチカネにほんご合同研修会講師、於：大阪大学

1. 専門分野

日本語教育学、社会言語学、教育工学

2. 授業担当

(2) 学際融合教育科目

○春夏学期

上級日本語（アカデミック・プレゼンテーション）

(3) 大学院

○春夏学期

応用マルチメディア論A

○秋冬学期

応用マルチメディア論B

(4) 留学生日本語プログラム

○春夏学期

JP600/700（アカデミック・プレゼンテーション）

(5) 国際交流科目

○春夏学期

総合日本語 JA100

総合日本語 JA500

○秋冬学期

総合日本語 JA100

総合日本語 JA500

(6) インターナショナルカレッジ

○春夏学期

国際コミュニケーションセミナー日本語 103

国際コミュニケーションセミナー日本語 503

○秋冬学期

国際コミュニケーションセミナー日本語 103

国際コミュニケーションセミナー日本語 503

3. 学生指導

(1) 博士後期課程 1（うち留学生は1）

(2) 博士前期課程 2（うち留学生は1）

(3) 研究生 1（うち留学生は1）

5. 学内運営

- 教育情報化WG
- CALL システム WG
- インターナショナルカレッジ教務委員会

6. 外部資金

- 科学研究費補助金基盤研究（C） 課題番号：15K02639 平成 27 年度～平成 29 年度「ICT 学習支援 オンラインアカデミック日本語教育の開発と実践研究」、研究代表者

7. 研究業績

(1) 論 文

- 融入影像教材與學習策略於任務型日語課程之設計（「映像を取り入れたオンライン日本語授業のデザインと実践」）林盈萱・難波康治 逢甲人文社會學報 34 期、pp.107-128.

9. 学外運営

- 公益信託井内留学生奨学基金運営委員会委員

10. 講 演

- “How Has Technology in the Classroom Changed Education at OU?”, 2017 年 8 月 3 日, 逢甲大學外語教學中心

1. 専門分野

日本語教育学、言語心理学

2. 授業担当

(3) 大学院

○春夏学期

応用言語学研究A

言語文化教育論特別研究A

○秋冬学期

応用言語学研究B

言語文化教育論特別研究B

(4) 留学生日本語プログラム

○春夏学期

文法講義JG300/400

(5) 国際交流科目

○春夏学期

総合日本語JA300-1

○秋冬学期

総合日本語JA300-1

Psychology of language and Japanese language acquisition

(6) インターナショナルカレッジ

○春夏学期

国際コミュニケーションセミナー日本語 303

○秋冬学期

国際コミュニケーションセミナー日本語 303

3. 学生指導

(1) 博士後期課程 5 (うち留学生は1)

(2) 博士前期課程 2 (うち留学生は2)

(3) 研究生 1 (うち留学生は1)

(4) 日本語研修生 21

4. 教育 (学外)

- ・立命館大学言語情報教育研究科 日本語教育学Ⅶ (集中講義)
- ・関西学院大学言語コミュニケーション文化研究科 日本語教育研究F (集中講義)
- ・京都外国語大学外国語学研究科 日本語教育研究Ⅲ (集中講義)

5. 学内運営

- 評価委員会
- 吹田地区事業場安全衛生委員会
- OUSSEP 運営サブWG
- Maple 運営サブWG
- 日本語・日本文化研修留学生プログラム実施WG
- 博士課程教育リーディングプログラム 未来共生イノベーター博士課程プログラム 兼任（選抜・審査ワーキング・グループのメンバー）

6. 外部資金

- 科学研究費補助金基盤研究（C）課題番号：16K02811 平成28年度～平成31年度「ことば行為についての対話論的対照研究——対面的相互行為におけることばの日英比較」、研究代表者

7. 研究業績

(1) 論文

- ‘Sociocultural and dialogical perspectives on language and communicative activity for second language education’ Koichi Nishiguchi、招待、“Journal of Japanese linguistics”vol.33（De Gruyter Mouton）、学術論文、有、pp.5-13
- 「システム論の観点から見た日本語教育の課題——日本の大学における日本語教育の状況を中心に」、西口光一、『日中言語研究と日本語教育』10号（好文出版）、学術論文、招待、pp.37-49
- 「人間学とことば学として知識社会学を読み解く——第二言語教育学のためのことば学の基礎として」、西口光一、投稿、『多文化社会と留学生交流』第22号、学術論文、有、pp.1-11
- 「学習言語事項からの解放と自己表現活動への移行は何を意味するか——自己表現活動中心の基礎日本語教育とKrashenの入力仮説」、西口光一、投稿、『多文化社会と留学生交流』第22号、研究ノート、無、pp.67-76

(3) 口頭発表

- 「教育の企画・開発者の仕事と教授者の仕事——自己表現活動中心の基礎日本語教育 or NEJ」、2017年9月10日、筑波大学CEGLOC日本語・日本事情遠隔教育拠点シンポジウム『日本語の教科書が目指すもの——教科書執筆者・活用者と語る』於：筑波大学
- 「記号による被媒介性からストーリーの心理学へ——第二言語発達のマトリクスとしてのナラティブ」、2017年11月5日、ヴィゴツキー学第19回大会、於：神戸勤労会館

8. 学外運営

- 公益社団法人日本語教育学会 大会委員
- 公益社団法人日本語教育学会 査読協力者
- 国立大学日本語教育研究協議会 代表理事（2016年6月から）

10. 講演

- 「新しい基礎日本語教育の内容と方法——NEJを活用した教育の実践」、2017年4月8日、東海日本語ボランティアネットワーク研修会、於：名古屋国際センター

1. 専門分野

比較政治学、東南アジア地域研究、フィリピン研究

2. 授業担当

(1) 共通教育

○春夏学期

多文化コミュニケーション（日本語）／多文化コミュニケーションセミナーⅠ

○秋冬学期

多文化コミュニケーション（日本語）／多文化コミュニケーションセミナーⅡ

(2) 学際融合教育科目

○春夏学期

アカデミックリーディング（日本語）

○秋冬学期

アカデミックリーディング（日本語）

(3) 大学院

○春夏学期

言語文化政策論A

○秋冬学期

言語文化政策論B

(4) 留学生日本語プログラム

○春夏学期

日本語集中（研修）コース IJ300 クラス

アカデミックリーディング（日本語）

○秋冬学期

日本語集中（研修）コース IJ300 クラス

アカデミックリーディング（日本語）

3. 学生指導

(1) 博士後期課程 1（うち留学生1）

(2) 博士前期課程 2（うち留学生2）

(4) 日本語研修生 18

(5) 日韓共同理工系学部留学生（予備教育生） 7

5. 学内運営

- ・日韓共同理工系学部留学生受入れ方法検討WG（日本語科目コーディネーター）
- ・男女協働推進センター会議委員
- ・ハラスメント相談室全学相談員

6. 外部資金

- 科学研究費補助金基盤研究（A） 課題番号：15H02600 平成 27 年度～平成 30 年度「東南アジア地方自治ガバナンスに関する住民意識調査—フィリピンとインドネシアの比較」研究代表者
- 科学研究費補助金基盤研究（C） 課題番号：15K02639 平成 27 年度～平成 29 年度「ICT 学習支援 オンラインアカデミック日本語教育の開発と実践研究」（研究代表者：難波康治）、研究分担者
- 独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所 平成 29 年度「東南アジアの自治体サーベイ：比較のための解題とデータ作成」（研究代表者：船津鶴代）、研究分担者

7. 研究業績

(1) 論文

- “People’s Participation in the Local Administration in the Philippines: An Empirical Study on the Local Development Council”, Kenichi Nishimura, *Journal of Multicultural Education and Student Exchange*, Vol. 22, March 2018, pp.77-88
- 「解題：自治体における開発計画の決定過程」西村謙一、『東南アジアの地方自治サーヴェイ—比較のための解題とデータ—』（船津鶴代・籠谷和弘・永井史男編）独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所、2018 年 3 月、47-66 頁

(2) 著書

- 『新版国際関係論へのファーストステップ』法律文化社、2017 年 4 月（分担執筆）

(3) 口頭発表

- “Do Mayors’ Social Networks Increase Local Governments’ Performance?: Network Analyses of 300 Local Governments in the Philippines”, Jun Kobayashi, Kenichi Nishimura, Hiroko Osaki, XXXVII Sunbelt Conference of the International Network for Social Network Analysis, Beijing Continental Grand Hotel, June 2, 2017
- “Where the Western Style Decentralization Reform meets the East (and West): Institutionalization of Local Government Bureaucracy and Performance of Local Government in the Philippines”, Masao Kikuchi, Kenichi Nishimura, 3rd International Conference on Public Policy of International Public Policy Association, Lee Kuan Yew School of Public Policy of National University of Singapore, June 29, 2017
- “New Public Management in the Philippine Local Governments: The Mayors’ Political Behavior and their Idea of Local Governance”, Kenichi Nishimura, The UP NCPAG 65th Anniversary International Conference Public Administration in Changing Times: New Norms and Sustainable Reforms, Marco Polo Hotel, Metro Manila, Philippines, August 25, 2017
- “How People’s Participation is Realized in the Philippine Local Governments: An Empirical Study on the Local Development Council”, Kenichi Nishimura, 2017 EROPA CONFERENCE, Grand International Parnas Hotel Seoul, September 14, 2017

8. 学外運営

- 兵庫県立高等学校 学校評議員、同 SGH 企画推進委員会委員長

12. その他

- 日韓共同理工系学部留学生対象日本語科目コーディネーションおよびホームルーム担当

宮 原 啓 造

1. 専門分野

機械工学, 留学生教育

2. 授業担当

(1) 共通教育

○ 春夏学期

- 多文化コミュニケーション (日本語), “Communication in Multicultural Contexts (Japanese)”
- 多文化コミュニケーションセミナー I, “Multicultural Communication Seminar I”

(3) 大学院

○ 春夏学期 工学研究科

- プロダクトデザイン, “Product Design”

○ 秋冬学期 工学研究科

- プロダクトデザイン, “Product Design”

(5) 国際交流科目

○ 春夏学期

- 数学とその工学応用 (I), “Topics in Mathematics and its Engineering Applications (I)”

○ 秋冬学期

- 数学とその工学応用 (II), “Topics in Mathematics and its Engineering Applications (II)”

○ 集中

- イギリス「異文化体験」演習, “Pre-Study Abroad Intensive English Program in the UK”
- オーストラリア「異文化体験」演習, “Multicultural Interaction between Australia and Japan”
- グローバル・長期インターンシップ, “Global Internship (Long Term)”

(6) インターナショナルカレッジ

○ 春夏学期 基礎教養科目

- 数学とその工学応用 (I), “Topics in Mathematics and its Engineering Applications (I)”
- 多文化コミュニケーション (日本語), “Communication in Multicultural Contexts (Japanese)”

○ 秋冬学期 基礎教養科目

- 数学とその工学応用 (II), “Topics in Mathematics and its Engineering Applications (II)”

3. 学生指導

(1) 博士後期課程

- TA1 名 (留学生)

(4) 短期留学特別プログラム

- FrontierLab@OsakaU
- FrontierLab@OsakaU Summer Program

(6) その他

- ・イギリス「異文化体験」演習
- ・モナシユ大学 International Business コース向け「インターンシップ」プログラム
- ・国連ユースボランティアプログラム
- ・オーストラリア「異文化体験」演習

4. 教育（学外）

- ・神戸大学農学部非常勤講師

5. 学内運営

- ・ファカルティ・ディベロップメント委員会 委員
- ・国際交流委員会 海外派遣候補者選考ワーキンググループ 委員
- ・国際教養・専門複合型プログラム（OUSSEP）運営サブワーキンググループ 委員
- ・FrontierLab@OsakaU 運営企画会議 委員
- ・FrontierLab@OsakaU 運営サブワーキンググループ 委員／コーディネータ
- ・国連ユースボランティアプログラム推進タスクフォース 委員
- ・大学院工学研究科兼任教員
- ・国際教育交流センター広報出版委員会 委員
- ・国際教育交流センター将来計画および評価に関する原案の作成を行うワーキンググループ 委員
- ・国際教育交流センター研究倫理教育 実施担当
- ・国際教育交流センター研究調査申請 対応窓口
- ・国際教育交流センター研究会 実施担当
- ・教員による留学相談 実施担当
- ・交換留学経験学生による留学相談 コーディネータ

6. 外部資金

- ・科学研究費補助金 挑戦的萌芽研究「国際交流に係る学生支援方針の研究——統合支援システムを用いた実証試験——」（平成 26－28 年度：期間延長 29 年度末まで）

7. 研究業績

(1) 論文

- ・「講師派遣型インターンシッププログラムの開発」大阪大学国際教育交流センター研究論集 多文化社会と留学生交流, 第 22 号, 2018.3

(3) 口頭発表

- ・MIYAHARA, Keizo, “Prototype of ARM processor-based robot module for a multi-agent mobile robot system,” Proceeding of the International Conference on Ubiquitous Robots and Ambient Intelligence (KROS-URAI), pp.629-631, June 28-July 1, 2017, Korea, 査読有
- ・丸山峻, 河合貴志, 木村雄大, 坂下僚平, 宮原啓造「開閉時の操作性を考慮した油圧ショベル外装フードの提案」日本機械学会第 27 回設計工学・システム部門講演会講演論文集, CD-ROM #2602,

2017.9.13-15, 山口県下関市

- MIYAHARA, Keizo, “Affecting Factors and Supporting Measures for International Student Mobility,” Proceedings of the IEEE International Conference on Teaching, Assessment, and Learning for Engineering (IEEE TALE), pp.283-289, December 12-14, 2017, China, 査読有

8. 学外運営

- 応用物理学会 論文誌 Applied Physics Express (APEX) , Japanese Journal of Applied Physics (JJAP) 登録閲読者.
- Journal of Mechanical Science & Technology 査読者.

1. 専門分野

日本語教育学、アカデミック・ライティング研究、専門日本語教育研究

2. 授業担当

(1) 共通教育

- 春夏学期
専門日本語 A
- 秋冬学期
専門日本語 B

(2) 大学院

- 春夏学期
言語技術特殊研究 A
言語コミュニケーション論特別研究 A
- 秋冬学期
言語技術特殊研究 B
言語コミュニケーション論特別研究 B

(3) 留学生日本語プログラム

- 春夏学期
日本語集中コース IJ200 (読解)
選択コース JW600/700 (アカデミックライティング)
- 秋冬学期
日本語集中コース IJ200 (読解)
選択コース JW600/700 (アカデミックライティング)

(6) その他

- 学際融合教育科目
春夏学期 「上級専門日本語 アカデミック・ライティング A」
秋冬学期 「上級専門日本語 アカデミック・ライティング B」
- 共通教育科目
春夏学期 「日本語表現に潜むジェンダー」 牟田和恵他「現代の差別を考える ― 女性学・男性学 ―」
(オムニバス形式の講義担当)

3. 学生指導

- (1) 博士後期課程 3 (うち留学生は 2)
- (2) 博士前期課程 2 (うち留学生は 1)
- (3) 日本語集中コース生 18
- (4) 日韓共同理工系学部留学生予備教育生 5

5. 学内運営

- 教育課程委員会委員
- 全学教育推進機構兼任教員（企画開発部・言語教育部門）
- 日韓共同理工系学部留学生受入れ方法検討WG座長
- ASEANキャンパス設置WGメンバー
- グローバル教育運営委員会オブザーバー
- 国際教育交流センター副センター長
- 国際教育交流センター財務委員会委員長

6. 外部資金

- 科学研究費補助金基盤研究（B） 課題番号：26284072 平成26年度～平成29年度「大学・大学院でのキャリア形成に資する在学段階別日本語ライティング教育の開発と評価」、研究代表者
- 科学研究費補助金基盤研究（C） 課題番号：15K02639 平成27年度～平成29年度「ICT学習支援オンラインアカデミック日本語教育の開発と実践研究」、（研究代表者：難波康治）、研究分担者
- 科学研究費補助金基盤研究（B） 課題番号：16H03434 平成28年度～平成30年度「非漢字圏アジア留学生のための日本語教育と理工系専門教育の高大接続を目指す協働研究」、（研究代表者：太田亨）研究分担者
- 科学研究費補助金基盤研究（C） 課題番号：17K02878 平成29年度～平成31年度「アカデミック・ライティング技術の習得を目指したピア・レスポンスの実証的研究」、（研究代表者：鳥日哲）、研究分担者
- 科学研究費補助金基盤研究（A） 課題番号：15H01884 平成27年度～平成30年度「読解コーパスの構築による日本語学習者の読解過程の実証的研究」（研究代表者：野田尚史）、連携研究者

7. 研究業績

(1) 論文

- 「大阪大学における日本語ライティング教育の実践——2017年度の留学生および一般大学院生を対象とした各授業の報告から——」、村岡貴子・堀一成・坂尻彰宏（2018）『大阪大学国際教育交流センター研究論集多文化社会と留学生交流』第22号、pp.23-32、大阪大学国際教育交流センター、査読無

(3) 口頭発表

- 「論理的思考力涵養のための方策と課題：事例分析から」パネルセッション「学部段階の日本語教育と理工系専門教育との効果的な連携——数学教育・物理教育とのコラボ授業事例から——」、太田亨・佐藤尚子・菊池和徳・藤田清士・村岡貴子『日本語教育学会秋季大会予稿集』、2017年11月25日、於：新潟大学、査読有
- 「日本語学習者のアカデミック・ライティングにおける引用に関する調査・分析」劉偉・村岡貴子（2018）、『専門日本語教育学会第20回研究討論会誌』pp.26-27、2018年3月2日、於：名古屋大学、査読有
- 「韓国人理工系学部入学前予備教育生の「論理的文章」に関する意識について——第18期日韓プログラム生へのアンケート結果より——」太田亨・安龍洙・村岡貴子、『第20回専門日本語教育学会』

研究討論会誌』、pp.28-29、2018 年 3 月 2 日、於：名古屋大学、査読有

8. 学外運営

- 日本語教育学会調査研究推進委員会委員、2015 年 6 月～
- 日本語教育学会学会誌委員会査読協力者、2015 年 7 月～ 2017 年 8 月
- 日本語教育学会審査・運営協力員、2017 年 9 月～
- 専門日本語教育学会代表幹事、2015 年 3 月～

12. その他

- 日韓共同理工系学部留学生対象日本語科目アドバイザー担当

1. 専門分野

日本語教育学、応用言語学

2. 授業担当

(1) 共通教育科目

○春夏学期

専門日本語

○秋冬学期

専門日本語

(2) 学際融合教育科目

○春夏学期

上級専門日本語 アカデミックコミュニケーションA

○秋冬学期

上級専門日本語 アカデミックコミュニケーションB

(3) 大学院

○春夏学期

言語コミュニケーション論A

言語コミュニケーション論特別研究A

○秋冬学期

言語コミュニケーション論B

言語コミュニケーション論特別研究B

(4) 留学生日本語プログラム

○春夏学期

選択コース JC600/700 (アカデミックコミュニケーション)

○秋冬学期

選択コース JC600/700 (アカデミックコミュニケーション)

(5) 国際交流科目

○春夏学期

総合日本語 JA200-1

○秋冬学期

総合日本語 JA200-1

(6) インターナショナルカレッジ

○春夏学期

国際コミュニケーションセミナー日本語 203

○秋冬学期

国際コミュニケーションセミナー日本語 203

3. 学生指導

- (1) 博士後期課程 3（うち留学生は1）
- (2) 博士前期課程 3（うち留学生は1）

5. 学内運営

- 大学院言語文化研究科兼任教員
- 学生生活委員会委員
- 学生支援小委員会委員
- 学生生活調査専門委員
- 国際教育交流センター教務委員長

6. 外部資金

- 科学研究費補助金基盤研究（B） 課題番号：16H03435 平成28年度～平成30年度「多文化共生社会におけるホストパーソン・支援者の接触支援スキルと意識の変容」、研究代表者
- 科学研究費補助金挑戦的萌芽研究 課題番号：16K13243 平成28年度～平成30年度「ライフコースの視点からみた日本語教師の成長とキャリア支援プログラムの開発」、研究代表者
- 科学研究費補助金基盤研究（C） 課題番号：15K02639 平成27年度～平成29年度「ICT学習支援オンラインアカデミック日本語教育の開発と実践研究」、研究分担者
- 科学研究費補助金挑戦的萌芽研究 課題番号：16K13241 平成28年度～平成30年度「外国人の保護者のための学校配布プリントの研究」、研究分担者

7. 研究業績

(1) 論文

- 「日本語教育におけるピア・ラーニングの意義と課題——メタ・エスノグラフィーによる質的研究の統合——」、義永美央子、柳町智治・岡田みさを（編）『インタラクションと学習』ひつじ書房、pp.149-173、招待
- 「自律学習支援のための日本語学習記録における教師コメントの分析」、義永美央子、『大阪大学国際教育交流センター研究論集 多文化社会と留学生交流』22号、pp.33-46、査読無

(3) 口頭発表

- 「オンライン自律学習支援サイト「OU日本語ひろば」の構想について」、義永美央子、第11回大阪大学専門日本語教育研究協議会、2018年2月16日、於大阪大学、査読無

8. 学外運営

- 日本語教育学会 大会委員
- 社会言語科学会 査読協力者
- 言語文化教育研究学会 年次大会実行委員
- 言語文化教育研究学会 査読協力者
- 第二言語習得研究会 査読委員

9. 会議運営

- 2017 年度日本語教育学会春季大会、企画運営、於早稲田大学、2017 年 5 月
- 2017 年度日本語教育学会秋季大会、企画運営、於朱鷺メッセ、2017 年 11 月
- 言語文化教育研究学会第 4 回年次大会、企画運営、於立命館大学、2018 年 3 月

資料 1 国際教育交流センターが提供する日本語科目 2017 年度 時間割

春夏学期・吹田キャンパス

■：専門日本語 □：一般日本語

時間帯	講義室	月		火		水		木		金	
		授 業	担当	授 業	担当	授 業	担当	授 業	担当	授 業	担当
I 8:50 }	1			JB200-T2-1	総合日本語	JK202/302	漢字と語彙 (漢字系)	JK202/302	漢字と語彙 (漢字系)	JK202/302	漢字と語彙 (漢字系)
	2			JB100-1	総合日本語						
	3							JK301	漢字と語彙 (非漢字系)		TA チャン
	4										
	5			JB200-T1-1	総合日本語						
	6			JB300-1	総合日本語						
II 10:30 }	1			チュートリアル	総合日本語			チュートリアル	総合日本語	JB200-T2-2	総合日本語
	2	JK201	漢字と語彙 (非漢字系)	TA チャン				TA 横川			
	3										
	4			チュートリアル	総合日本語						
	5	合同講義	IJ100/IJ150	西口				合同講義	IJ100/IJ150	金	
	6										
III 13:00 }	1		IJ100A (IJ100)	蔭山				IJ100A (IJ100)	花井		蔭山
	2		IJ200	畑中				IJ200	村上		小原
	3		IJ300	西村				IJ300	菅		野々口
	4		IJ100B (IJ150)	新庄				IJ100B (IJ150)	乾		乾
	5				日本語テーブル (昼休みも)			JG300/400 文法講義	西口		
	6										
IV 14:40 }	1		IJ100A (IJ100)	蔭山				IJ100A (IJ100)	花井		蔭山
	2		IJ200	畑中	日本語テーブル						小原
	3							JG600/700 アカデミックプレゼンテーション	難波		
	4		IJ100B (IJ150)	新庄				IJ100B (IJ150)	乾		乾
	5										
	6				JG600/700 アカデミックコミュニケーション			JG400/500 アカデミックコミュニケーション	金		魚崎・ 金
V 16:20 }	1										
	2										
	3										
	4										
	5										
	6	JR600/700 アカデミックライティング	西村	JW600/700 アカデミックライティング	村岡						

春夏学期・豊中キャンパス

■：専門日本語 □：一般日本語

時間帯	月			火			水			木			金	
	授業	担当	講義室	授業	担当	講義室	授業	担当	講義室	授業	担当	講義室	授業	担当
Ⅰ 8:50 ～ 10:20				JA100 -T1/T2 総合日本語 (講義)	難波	全学教育 C409	JA100 -T1 総合日本語	岡田	全学教育 C308	JA100 -T1 総合日本語	乾	SCセミナー 室C		
				JA200 -T1/T2 総合日本語 (講義)	義永	全学教育 C305	JA100 -T2 総合日本語	花井	全学教育 C403	JA100 -T2 総合日本語	花井	全学教育 C204		
				JA300 -T1 総合日本語	畑中	全学教育 C404	JA200 -T1 総合日本語	上仲	全学教育 B306	JA200 -T1 総合日本語	滝井	全学教育 C402		
				JA300 -T2 総合日本語	岡崎	全学教育 C306	JA200 -T2 総合日本語	半田	全学教育 C107	JA200 -T2 総合日本語	半田	全学教育 C107		
				JA400 -T1/T2 総合日本語 (講義)	勝田	全学教育 C303	JA300 -T1/T2 総合日本語 (講義)	西口	共 C203	JA300 -T1 総合日本語	矢部	文法経 講義棟 演習室 3		
				JA500 -T1 総合日本語	菅	全学教育 C107	JA400 -T1 総合日本語	新庄	全学教育 C207	JA300 -T2 総合日本語	岡崎	文法経 講義棟 演習室 4		
				JA500 -T2 総合日本語	滝井	全学教育 C104	JA400 -T2 総合日本語	矢部	全学教育 C405	JA400 -T1 総合日本語	新庄	全学教育 C207		
				JA600 -T1/T2 総合日本語 (講義)	大谷	全学教育 C206	JA500 -T1 総合日本語	藤澤	全学教育 C204	JA400 -T2 総合日本語	蔭山	基礎工学部 B202		
							JA500 -T2 総合日本語	滝井	全学教育 C205	JA500 -T1/T2 総合日本語 (講義)	難波	文法経講義棟 32		
							JA600 -T1 総合日本語	岡崎	全学教育 C307	JA600 -T1 総合日本語	小原	基礎工学部 B204		
Ⅱ 10:30 ～ 12:00							JA600 -T2 総合日本語	佐川	全学教育 C305	JA600 -T2 総合日本語	伊藤	基礎工学部 B205		
Ⅲ 13:00 ～ 14:30														
Ⅳ 14:40 ～ 16:10										多文化コミュニケーション	有川	全学教育 B206		
Ⅴ 16:20 ～ 17:50	専門日本語	義永	全学教育 A212	総合日本語	大谷	全学教育 C208	専門日本語	村岡	全学教育 C405	総合日本語	勝田	全学教育 C207		
	多文化コミュニケーション	岡本	全学教育 A312	多文化コミュニケーション	西村	全学教育 C107	多文化コミュニケーション	大谷	全学教育 B307	多文化コミュニケーション	宮原	全学教育 B206		

時間帯	月		火		水		木		金	
	授業	担当	授業	担当	授業	担当	授業	担当	授業	担当
I 8:50 ~ 10:20	講義室									
	1		JB100T1-1	総合日本語	滑川					
	2		JB100T2-1	総合日本語	岡田					
	3		JB300T2-1	総合日本語	半田					
	4									
	5		JB300T1-1	総合日本語	小原					
II 10:30 ~ 12:00	6		JB200-1	総合日本語	山崎					
	1	チュートリアル	IJ100	TA 吉川	TA 野瀬		チュートリアル	IJ100	TA スネー	TA 植田
	2				山崎		チュートリアル	IJ200	村岡	梅本
	3				半田			IJ300	松田	矢部
	4	専門基礎日本語①								
	5	JK201								
III 13:00 ~ 14:30	6		JC400-T1/500-T1	アカデミックコミュニケーション	岡田		BJ500/600/700	ビジネス日本語コミュニケーション	金	
	1		IJ100	蔭山	滝井		IJ100		乾	浦木
	2		IJ200	畑中	山崎		IJ200		小原	福良
	3		IJ300	西村	半田		IJ300		松田	TA 横川
	4	物理	KOSMOS	寺井			英語	KOSMOS	スミス	上仲
	5									
IV 14:40 ~ 16:10	6									
	1		IJ100	蔭山	滝井		IJ100		花井	浦木
	2		IJ200	畑中		(たけのこ)	IJ200		小原	福良
	3									
	4	物理	KOSMOS	寺井						
	5						JW400/500	アカデミックライティング	金	上仲
V 16:20 ~ 17:50	6		JC600/700	アカデミックコミュニケーション	義永			JC400-T2/500-T2	アカデミックコミュニケーション	
	1						IJ100		西口	
	2									
	3									
	4									
	5	国際交流科目								
6	JR600/700	言語心理学と日本語の習得リーディング	西口	西村	村岡					

資料2 2017年度 留学生日本語プログラム(選択コース) 履修登録者数一覧

2-1 春夏学期

(1) 部局別履修者数・身分内訳

研究科 / 学部	総 計	身 分 別 内 訳				
		学部研究生	大学院生 ^{*4}	研究生 ^{*1}	特 別 研究学生 ^{*2}	特 別 聴講学生 ^{*2}
文学研究科 / 文学部	2	1		1	1	1
人間科学研究科 / 人間科学部	12	2	9			1
法学研究科 / 法学部	12	4	2	2		4
経済学研究科 / 経済学部	3					3
理学研究科 / 理学部	6		5	1	2	
医学系研究科 / 医学部	13		7	6		2
歯学系研究科 / 歯学部	2		1	1		
薬学研究科 / 薬学部	2		2	1		
工学研究科 / 工学部	56	7	44	4	1	8
基礎工学研究科 / 基礎工学部	7	2	4	1		
言語文化研究科	10		3	7		
国際公共政策研究科	8		3	5		
情報科学研究科	12		6	6	1	1
社会経済研究所	0			2		
産業科学研究所	2			2		
生命機能研究科	4		3		1	1
接合科学研究所	0			2	1	
微生物病研究所	1			1		
レーザーエネルギー学研究センター	2			2		
免疫学フロンティア研究センター	0			1		
蛋白質研究所	1				1	
国際教育交流センター ^{*3}	2			2		
計 ^{*5}	157	16	89	41	3	8

【特記事項】

*1. 研究生：大学院レベル、および予備教育生（日本語集中コース）。

研究生のうち、他大学配属日本語研修生以外の日本語集中コース生13名は、所属部局欄に記載されている。

*2. 特別研究学生・特別聴講学生には、OUSSEP・FrontierLabのほか、iExpoの学生が含まれる。

*3. 国際教育交流センター欄の研究生5名は、他大学配属日本語集中コース生。

*4. 大学院生には、「学際融合教育科目」として履修登録している学生が含まれる。

*5. JA（国際交流科目）科目受講学生は含まない。

また、正規学部留学生については、本プログラムではなく共通教育の第2外国語科目（国際教育交流センターが提供）を受講しているため、ここには含まれていない。

(2) レベル別身分内訳

選 択 レ ベ ル	総 計	身 分 別 内 訳				
		学部研究生	大学院生	研究生	特 別 研究学生	特 別 聴講学生
(未習) 100	14	0	13	1	0	0
200	45	2	33	9	1	0
300	31	4	16	8	2	1
400	15	3	7	3	0	2
500	13	3	3	4	0	3
600	12	4	0	7	0	1
(超上級レベル) 700	27	2	17	6	0	2
計	157	18	89	38	3	9

*：大学院生の「(超上級レベル) 700」は「学際融合教育科目」として履修登録。

2-2 秋冬学期

(1) 部局別履修者数・身分内訳

研 究 科 / 学 部	総 計	身 分 別 内 訳				
		学部研究生	大学院生 ^{*4}	研究生 ^{*1}	特 別 研究学生 ^{*2}	特 別 聴講学生 ^{*2}
文学研究科/文学部	7	2		3	1	1
人間科学研究科/人間科学部	8	2	5			1
法学研究科/法学部	11	6		5		
経済学研究科/経済学部	6	6				
理学研究科/理学部	14	0	12		2	
医学系研究科/医学部	19	3	6	8		2
歯学系研究科/歯学部	4	0	1	3		
薬学研究科/薬学部	7	6		1		
工学研究科/工学部	85	18	54	4	1	8
基礎工学研究科/基礎工学部	10	8	2			
言語文化研究科	11			11		
国際公共政策研究科	2		2			
情報科学研究科	17		6	9	1	1
社会経済研究所	2			2		
産業科学研究所	5			5		
生命機能研究科	3		1	1		1
接合科学研究所	3			2	1	
微生物病研究所	7			7		
レーザーエネルギー学研究センター	1			1		
免疫学フロンティア研究センター	1			1		
蛋白質研究所	1				1	
国際教育交流センター ^{*3}	5			5		
計 ^{*5}	229	51	89	68	7	14

【特記事項】

- *1. 研究生：大学院レベル、および予備教育生（日本語集中コース）。
研究生のうち、他大学配属日本語研修生以外の日本語集中コース生 13 名は、所属部局欄に記載されている。
- *2. 特別研究学生・特別聴講学生には、OUSSEP・FrontierLabのほか、iExpoの学生が含まれる。
- *3. 国際教育交流センター欄の研究生 5 名は、他大学配属日本語集中コース生。
- *4. 大学院生には、「学際融合教育科目」として履修登録している学生が含まれる。
- *5. JA（国際交流科目）科目受講学生は含まない。
また、正規学部留学生については、本プログラムではなく共通教育の第2外国語科目（国際教育交流センターが提供）を受講しているため、ここには含まれていない。

(2) レベル別身分内訳

選 択 レ ベ ル	総 計	身 分 別 内 訳				
		学部研究生	大学院生	研究生	特 別 研究学生	特 別 聴講学生
(未習) 100	45	2	28	6	2	7
200	35	2	21	8	2	2
300	42	5	23	12	2	0
400	34	18	3	13	0	0
500	26	13	6	6	1	0
600	22	11	1	7	0	3
(超上級レベル) 700	25	2	7	14	0	2
計	229	53	89	66	7	14

*：大学院生の「(超上級レベル) 700」は「学際融合教育科目」として履修登録。

資料 3-1 国際交流科目授業時間割 (平成 29 年春夏学期)

時 限	時 間	月	火		水			木		金
		吹田キャンパス	豊中キャンパス/吹田キャンパス		豊中キャンパス/吹田キャンパス/ 箕面キャンパス			豊中キャンパス/吹田キャンパス		吹田キャンパス
I	8:50 ~ 10:20		日本語 JA (100, 200, 300-1, 300-2, 400, 500-1, 500-2, 600) 《国際教育交流センター》		日本語 JA (100-1, 100-2, 200-1, 200-2, 300, 400-1, 400-2, 500-1, 500-2, 600-1, 600-2) 《国際教育交流センター》			日本語 JA (100-1, 100-2, 200-1, 200-2, 300-1, 300-2, 400-1, 400-2, 500, 600-1, 600-2) 《国際教育交流センター》		
			100 : 難波 康治 200 : 義永美央子 300-1 : 畑中 香乃 300-2 : 岡崎 洋三 400 : 勝田 順子 500-1 : 菅 摂子 500-2 : 滝井 未来 600 : 大谷 晋也		100-1 : 岡田亜矢子 100-2 : 花井 理香 200-1 : 上仲 淳 200-2 : 半田佳奈子 300 : 西口 光一 400-1 : 新庄あいみ 400-2 : 矢部 正人 500-1 : 藤澤 好恵 500-2 : 滝井 未来 600-1 : 岡崎 洋三 600-2 : 佐川 祥予			100-1 : 乾 逸子 100-2 : 花井 理香 200-1 : 滝井 未来 200-2 : 半田佳奈子 300-1 : 矢部 正人 300-2 : 岡崎 洋三 400-1 : 新庄あいみ 400-2 : 藤山 拓 500 : 難波 康治 600-1 : 小原 俊彦 600-2 : 伊藤 創		
			100 : 全学教育 C409 200 : 全学教育 C305 300-1 : 全学教育 C404 300-2 : 全学教育 C306 400 : 全学教育 C303 500-1 : 全学教育 C107 500-2 : 全学教育 C104 600 : 全学教育 C206		100-1 : 全学教育 C408 100-2 : 全学教育 C403 200-1 : 全学教育 B306 200-2 : 全学教育 C107 300 : 全学教育 C401 400-1 : 全学教育 C207 400-2 : 全学教育 C405 500-1 : 全学教育 C204 500-2 : 全学教育 C205 600-1 : 全学教育 C307 600-2 : 全学教育 C305			100-1 : 全学教育 C408 100-2 : 全学教育 C204 200-1 : 全学教育 C402 200-2 : 全学教育 C107 300-1 : 文法経講義棟演習室 3 300-2 : 文法経講義棟演習室 4 400-1 : 全学教育 C207 400-2 : 基礎工学部 B202 500 : 文法経講義棟 32 600-1 : 基礎工学部 B204 600-2 : 基礎工学部 B205		
II	10:30 ~ 12:00	我が国の保健サービスと 医療ケア 《医学部》	哲学的思考と 日本の伝統 《文学部》	文化人類学 入門 《人間科学部》	社会の中 の自己 《人間 科学部》	身の回り の化学 《理学部》	バイオエ シックス とヘル ス・ロー 《法学部》	近代日本文 学における 大阪 《言語文化 研究科》	日本の 社会階層 《人間科学部》	多文化共生論 《人間科学部》
		磯 博康	榎本 文雄	MOHACSI Gergely	Don BYSOUTH	石川 直人	瀬戸山 晃一	村上 スミス・ アンドリュウ	Paola CAVALIERE	Viktoriya KIM
		IC Hall Room 6	豊中総合学館 302	全学教育 SCセミナー室B	全学教育 SCセミ ナー室B	理学部 D301	豊中 総合学館 L3	全学教育 SCセミナー室B	人間科学部 本館 43	人間科学部本館 32
III	13:00 ~ 14:30	異文化コミュニケーションと パフォーマンス 《国際教育交流センター》	比較 社会学 《人間科学 部》	ジェン ダー論 《人間科学 部》	日本法の 諸問題 《法学部》	知覚と認知の心理学 《人間科学部》		基本的人権論 《人間科学部》	科学英語入門 《国際教育交 流センター》	
		中野 遼子	Scott NORTH	Paola Cavaliere	Elbalti Beligh	森川 和則		Christie LAM	岡本 紗知	
		IC Hall Room 6	人間科学 部東館 404	全学教育 SCセミ ナー室B	文法経 講義棟22	人間科学部本館 34		全学教育 C304	文法経講義棟 32	
IV	14:40 ~ 16:10		国際貿易と 投資 《国際公共政策 研究科》	比較法の 諸問題 《法学部》	政治学 入門 《人間 科学部》	異文化 理解演習 《外国語 学部》	イノベー ションの 管理 と変遷 《インター ナショナル カレッジ》	家族と結婚の社会学入門 《人間科学部》		
			利 博友	Elbalti Beligh	Philip Streich	堀川 智也	三森 八重子	Viktoriya KIM		
			OSIPP 講義シアター	文法経講義棟 22	全学教育 B316	外国語学 部 A208	全学教育 C208	全学教育 C304		
V	16:20 ~ 17:50		数学と その工学応用 (I) 《国際教育交 流センター》	オンライン・リ ソースを活用 したL2学習 《国際教育交 流センター》				日本の社会とイデオロギー 《国際教育交流センター》		地球総合工学入門 《工学部》
			宮原 啓造	魚崎 典子				近藤佐知彦		大倉 一郎
			文法経講義棟 32	全学教育 A304				全学教育 C404		工学部 S1-615

■ : 箕面キャンパス

資料 3-2 国際交流科目授業時間割（平成 29 年秋冬学期）

時 限	時 間	月		火		水		木		金		
		吹田キャンパス		豊中キャンパス / 吹田キャンパス		豊中 / 吹田 / 箕面キャンパス		豊中キャンパス		豊中キャンパス / 吹田キャンパス		
Ⅰ	8:50 ～ 10:20			日本語 JA (100, 200, 300-1, 300-2, 400, 500-1, 500-2, 5600) 《国際教育交流センター》		日本語 JA (100-1, 100-2, 100-3, 200-1, 200-2, 300, 400-1, 400-2, 500-1, 500-2, 600-1, 600-2) 《国際教育交流センター》		日本語 JA (100-1, 100-2, 100-3, 200-1, 200-2, 300-1, 300-2, 400-1, 400-2, 500, 600-1, 600-2) 《国際教育交流センター》				
				100 : 難波 康治 200 : 義永未央子 300-1 : 畑中 香乃 300-2 : 岡崎 洋三 400 : 矢部 正人 500-1 : 菅 摂子 500-2 : 滝井 未来 600 : 大谷 晋也		100-1 : 岡田亜矢子 100-2 : 花井 理香 100-3 : 畑中 香乃 200-1 : 上仲 淳 200-2 : 半田佳奈子 300 : 西口 光一 400-1 : 新庄あいみ 400-2 : 矢部 正人 500-1 : 藤澤 好恵 500-2 : 滝井 未来 600-1 : 岡崎 洋三 600-2 : 佐川 祥予		100-1 : 乾 逸子 100-2 : 花井 理香 100-3 : 佐川 祥予 200-1 : 滝井 未来 200-2 : 半田佳奈子 300-1 : 矢部 正人 300-2 : 岡崎 洋三 400-1 : 新庄あいみ 400-2 : 蔭山 拓 500 : 難波 康治 600-1 : 小原 俊彦 600-2 : 伊藤 創				
				100 : 全学教育 B307 200 : 全学教育 C305 300-1 : 全学教育 C404 300-2 : 全学教育 C403 400 : 全学教育 C408 500-1 : 全学教育 C409 500-2 : 全学教育 C104 600 : 全学教育 C304		100-1 : 全学教育 C405 100-2 : 全学教育 C403 100-3 : 全学教育 A001 200-1 : 全学教育 B306 200-2 : 全学教育 C107 300 : 全学教育 C305 400-1 : 全学教育 C208 400-2 : 全学教育 C205 500-1 : 全学教育 C204 500-2 : 全学教育 A101 600-1 : 全学教育 B206 600-2 : 全学教育 B316		100-1 : 全学教育 C408 100-2 : 全学教育 C107 100-3 : 全学教育 C405 200-1 : 基礎工学部 B105 200-2 : 基礎工学部 B302 300-1 : 基礎工学部 B102 300-2 : 基礎工学部 B303 400-1 : 全学教育 C208 400-2 : 法経研究棟 505セミナー室 500 : 文法経講義棟 32 600-1 : 法経研究棟 509セミナー室 600-2 : 法経研究棟 605セミナー室				
Ⅱ	10:30 ～ 12:00	社会学 《人間科学部》		社会学入門 《人間科学部》	比較法の 諸問題 《法学部》	近代・現代日本文学 《言語文化研究科》		現代物理学の最前線 《理学部》		持続可能な社会 に向けた環境と エネルギー問題 《工学部》	文化人類学理 論と論文の 書き方 《人間科学部》	
		Viktoriya KIM		Viktoriya KIM	Elbalti Beligh	村上スミス・アンドリュース		久野 良孝		田中 敏宏	Christie LAM	
		人間科学部東館 316		全学教育 SCセミナー室B	文法経講義棟 22	文理融合棟 共通講義室 1 及び 2		理学部 E210		情報科学研究 科 A110	人間科学部本 館 12	
				日本における文化 と言語の多様性 《文学部》	*ミクロ経済学 入門 《経済学部》			社会起業 《未来戦略機構》		メディア社会学 《人間科学部》		
				渋谷 勝己	恩地 一樹			伊藤ゆかり / 樺澤 哲		Viktoriya KIM		
				豊中総合学館 302	文法経講義棟 31			全学教育 A312		全学教育 C107		
Ⅲ	13:00 ～ 14:30	国際理解 入門 《工学部》	異文化コミュニ ケーションと 言語 《国際教育交 流センター》	機械科学 への招待 《基礎工 学部》	日本法の 諸問題 《法学部》	グローバ ル化と大 学教育 《人間科 学部》	移動の 社会学 《人間科 学部》	特別講義 (比較契約 法・不法行為 法の諸問題) 《法学部》	アジアの なかの 近代日本 《国際教育交 流センター》	数学とその 工学応用(Ⅱ) 《国際教育交 流センター》	市民社会運動 《人間科学部》	情報システム工学基礎論 《工学部》
		藤田 清士	中野 遼子	杉山和靖	Elbalti Beligh	Kim Mawer	Viktoriya KIM	Leonardo Ciano	佐藤治子	宮原 啓造	Christie LAM	鬼塚 真
		工学部 C1-111	IC Hall Room 6	基礎工学 部 A304	文法経講 義棟 22	人間科学 部本館 34	人間科学 部本館 41	文法経講 義棟 23	全学教育 A001	全学教育 C404	全学教育 B206	IC Hall Room 5
Ⅳ	14:40 ～ 16:10	多変量統計 科学 《人間科学部》	日本のサル学 《人間科学部》	比較思想史 《人間科学部》	*ミクロ経済学 入門 《経済学部》	日本のメディア とコミュニ ケーション 《国際教育交 流センター》	近現代日本 の諸事情 《国際教育交 流センター》	異文化 理解演習 《外国語 学部》	文化： その理解への アプローチ 《国際教育交 流センター》	ソーシャルイノ ベーションとソー シャルデザイ ン 《インターナシ ョナルカレッジ		
		足立 浩平	中道 正之	Wolfgang SCHWENTKER	恩地 一樹	近藤佐知彦	後藤巖寛	堀川智也	有川 友子	三森八重子		
		人間科学部 本館 33	人間科学部 本館 41	人間科学部 東館 404	文法経講義棟 31	全学教育 A114	IC Hall Room 2	外国語学 部 A208	全学教育 C404	全学教育 C208		
Ⅴ	16:20 ～ 17:50	言語心理学と 日本語の習得 《国際教育交 流センター》	分子科学入門 —化学と社会— 《工学部》	コンピュータを活用した 語学学習 《国際教育交流センター》		日本の神話と伝説 《人間科学部》		科学と社会 《国際教育交流センター》				
		西口 光一	安田 誠	魚崎 典子		Irina HOLCA		岡本 紗知				
		IC Hall Room 5	工学部 C1-212	全学教育 A304		全学教育 B306		全学教育 C404				

■：箕面キャンパス

* 秋学期のみで開講

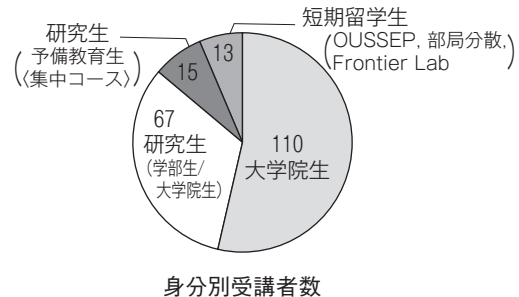
資料 4 日本語授業についてのアンケート

2017 年度 春夏学期 日本語授業についてのアンケート集計（回答者：選択コース受講学生）

Students' Evaluation of the Japanese Language Class

◆ 身分（2017 年度 春夏学期 科目別受講者数調べより（のべ受講者数））

(1) 大学院生	110
(2) 研究生（学部生 / 大学院生）	67
(3) 研究生（予備教育生〈集中コース〉）	15
(4) 短期留学生 （OUSSEP, 部局分散, Frontier Labo）	13
計	205



* 延総受講者数 205 名のうち、アンケート回答者数 41 名（全体の約 20%）

A. あなたの受講状況について

(1) あなたは、この授業にどのくらい出席しましたか。	(5：高評価)					全科目平均値
50%未満 1	50～70% 2	70～80% 3	80～90% 4	90%以上 5	4.6	
(2) あなたはこの授業を意欲的に受講したと思いますか。						
全くそう思わない 1	そう思わない 2	どちらともいえない 3	そう思う 4	強くそう思う 5	4.2	
(3) あなたはこの授業の準備のために、毎回どのくらい時間をかけましたか。						
全くしない 1	～30分 2	～60分 3	～90分 4	90分以上 5	3.4	
(4) あなたはこの授業の復習に、毎回どのくらい時間をかけましたか。						
全くしない 1	～30分 2	～60分 3	～90分 4	90分以上 5	2.9	
(5) あなたは、この授業中（90分）にいつもどのくらい自分から質問や発言をしましたか。						
一度もしなかった 1	1回 2	2～3回 3	4～5回 4	6回以上 5	3.1	
(6) あなたは、この授業を受講して、日本語が上達したと思いますか。						
ぜんぜん 上達しなかった 1	ほとんど 上達しなかった 2	すこしだけ 上達した 3	かなり 上達した 4	とても 上達した 5	4.0	

B. 授業への感想

(5：高評価)

全くそう思わない 1	そう思わない 2	どちらともいえない 3	そう思う 4	強くそう思う 5	
(1) この授業は体系的に構成されていた。					4.4
(2) 教師は十分な準備をしていた。					4.4
(3) 教師の説明はわかりやすかった。					4.4
(4) 教師は質問にいていねいに答えてくれた。					4.6
(5) 練習やアクティビティは役に立った。					4.3
(6) クイズや課題・テストなどは適切だった。					4.2
(7) 宿題の量は適切だった。					4.1
(8) 指定された教科書や、配付されたプリントは役に立った。					4.2
(9) この授業を受講してよかったと思う。					4.4

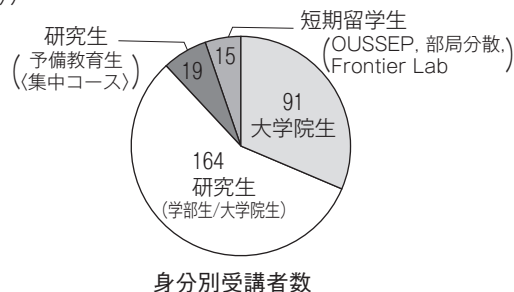
C. 記述 → 別紙

2017 年度 秋冬学期 日本語授業についてのアンケート集計（回答者：選択コース受講学生）

Students' Evaluation of the Japanese Language Class

◆身分（2017 年度 秋冬学期 科目別受講者数調べより（のべ受講者数））

(1) 大学院生	91
(2) 研究生（学部生 / 大学院生）	164
(3) 研究生（予備教育生〈集中コース〉）	19
(4) 短期留学生 （OUSSEP, 部局分散, Frontier Labo）	15
計	289



*延総受講者数 289 名のうち、アンケート回答者数 94 名（全体の約 32.5%）

A. あなたの受講状況について

(1) あなたは、この授業にどのくらい出席しましたか。	(5：高評価)					全科目平均値
50%未満 1	50～70% 2	70～80% 3	80～90% 4	90%以上 5	4.3	
(2) あなたはこの授業を意欲的に受講したと思いますか。						
全くそう思わない 1	そう思わない 2	どちらともいえない 3	そう思う 4	強くそう思う 5	4.2	
(3) あなたはこの授業の準備のために、毎回どのくらい時間をかけましたか。						
全くしない 1	～30分 2	～60分 3	～90分 4	90分以上 5	2.8	
(4) あなたはこの授業の復習に、毎回どのくらい時間をかけましたか。						
全くしない 1	～30分 2	～60分 3	～90分 4	90分以上 5	2.5	
(5) あなたは、この授業中（90分）にいつもどのくらい自分から質問や発言をしましたか。						
一度もしなかった 1	1回 2	2～3回 3	4～5回 4	6回以上 5	2.8	
(6) あなたは、この授業を受講して、日本語が上達したと思いますか。						
ぜんぜん 上達しなかった 1	ほとんど 上達しなかった 2	すこしだけ 上達した 3	かなり 上達した 4	とても 上達した 5	3.7	

B. 授業への感想

(5：高評価)

全くそう思わない 1	そう思わない 2	どちらともいえない 3	そう思う 4	強くそう思う 5	
(1) この授業は体系的に構成されていた。					4.2
(2) 教師は十分な準備をしていた。					4.6
(3) 教師の説明はわかりやすかった。					4.5
(4) 教師は質問にいていねいに答えてくれた。					4.7
(5) 練習やアクティビティは役に立った。					4.4
(6) クイズや課題・テストなどは適切だった。					4.4
(7) 宿題の量は適切だった。					4.2
(8) 指定された教科書や、配付されたプリントは役に立った。					4.4
(9) この授業を受講してよかったと思う。					4.5

C. 記述 → 別紙

資料 5 国際交流科目 授業アンケート (質問票)

International Exchange Subjects 2017 Fall and Winter Semester Final Questionnaire on the Subject you attended

Conducted by Center for International Education and Exchange

*Note:

This format of the questionnaire is for all exchange students. If you are NOT an exchange student, please answer to the Japanese questionnaires instead.

The main purpose of this survey is to enhance the educational effect and teaching quality of the instructors in the rest of the semester. The information may be used only by the instructor, coordinator and the staff of the program as reference for study and educational purposes.

Your answers to the questions below are irrelevant to your grade. Do NOT write your name.

Please spend at least 10 minutes to answer the questionnaires.

Do NOT submit this sheet to the instructor, please submit it after you have filled in to the designated students.

1. Which is your program?

A: OUSSEP B: iExPO C: Frontier Lab D: Maple
E: International-College (G30) CBCMP, F: International-College (G30) HUS, G: Others

2. Title of the Subject:

3. Name of the instructor:

4. Which below-mentioned field is your major close to?

1 ☐ Dentistry, 2 ☐ Economics, 3 ☐ Engineering, 4 ☐ Engineering-Science,
5 ☐ Foreign Studies, 6 ☐ Human Sciences, 7 ☐ Information Science and Technology,
8 ☐ International Public Policy, 9 ☐ Language and Culture, 10 ☐ Law and Politics, 11 ☐ Letters,
12 ☐ Medicine, 13 ☐ Pharmaceutical, 14 ☐ Sciences, 15 ☐ Others,

5. How often did you attend this class so far?

A: all B: 80%~ C: 60%~ D: 50~59% E: less than half

6. (a) Do you intend to transfer the credit to the credit at your home institution?

(Osaka University would encourage the international students to transfer the academic credits)

Yes No

(b) If “No”, please choose the reason.

A: I'm an Osaka University's student. B: I can transfer, but I don't need credits.
C: I cannot transfer. D: other

7. Let us know your main purpose of taking this class. Please specify the reason, such as OUSSEP completion, your own interest in the subject, or others.

8. Are you satisfied with this class?

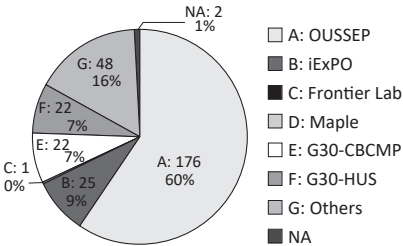
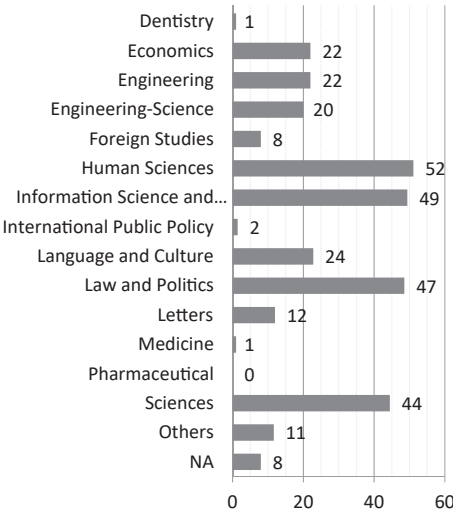
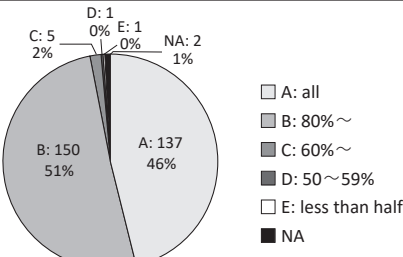
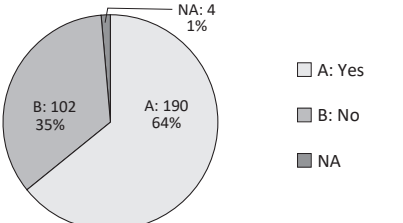
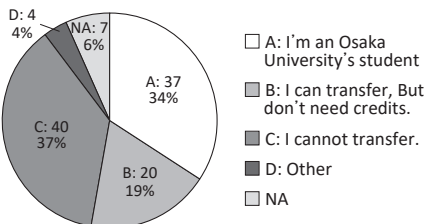
A: yes, very much B: almost always C: to some extent D: not so much E: not at all

<Continue to the reverse side>

9. To what extent have you had opportunities to talk to Japanese students through attending this class so far?
A: yes, very much B: to some extent C: not so much D: not at all
10. Is the lecture understandable?
A: yes, very much B: almost always C: to some extent D: not so much E: not at all
11. Does the instructor speak English understandably?
A: yes, very much B: almost always C: to some extent D: not so much E: not at all
12. Is the class conducted in accordance with the syllabus?
A: yes, very much B: almost always C: to some extent D: not so much E: not at all
13. Does the instructor answer appropriately to the questions that students raise?
A: yes, very much B: almost always C: to some extent D: not so much E: not at all
14. Let us know your opinion on the amount of reading materials and assignment.
A: too much B: adequate C: not enough (insufficient)
15. Did the instructor explain the grading method and policy sufficiently?
Was there any opportunity offered to ask a question about the grading scale of the course?
A: yes, very much B: to some extent C: not at all
16. (a) Is there any TA in the class? Yes No
(b) If Yes, how well does the TA contribute?
A: yes, very much B: almost always C: to some extent D: not so much E: not at all
17. Let us know, if any, favorable method of teaching or organizing classes that you think the instructor should continue to maintain. (e.g. Audio-visual material, Field trip, Experiments, discussion, quiz, etc.)
18. Let us know your suggestion or advice to improve the class.
19. Please write other comments and frank opinions freely, if any.

Thank you so much for your cooperation!

資料 6 国際交流科目 授業アンケート（結果）

1	Which is your program?	Answer	Num.	 A: OUSSEP B: iExPO C: Frontier Lab D: Maple E: G30-CBCMP F: G30-HUS G: Others NA
		A: OUSSEP	176	
		B: iExPO	25	
		C: Frontier Lab	1	
		D: Maple	0	
		E: G30-CBCMP	22	
		F: G30-HUS	22	
		G: Others	48	
		NA	2	
		Total Num.	266	
2	Subject	All the International Exchange Subjects (a number of subjects included)		
4	Your Major	Answer	Num.	
		Dentistry	1	
		Economics	22	
		Engineering	22	
		Engineering-Science	20	
		Foreign Studies	8	
		Human Sciences	52	
		Information Science and Technology	49	
		International Public Policy	2	
		Language and Culture	24	
		Law and Politics	47	
		Letters	12	
		Medicine	1	
		Pharmaceutical	0	
		Sciences	44	
		Others	11	
		NA	8	
		Total Num.	296	
5	How often did you attend this class so far?	Answer	Num.	 A: all B: 80%~ C: 60%~ D: 50~59% E: less than half NA
		A: all	137	
		B: 80%~	150	
		C: 60%~	5	
		D: 50~59%	1	
		E: less than half	1	
		NA	2	
		Total Num.	296	
6 (a)	Do you intend to transfer the credit to the credit at your home institution?	Answer	Num.	 A: Yes B: No NA
		A: Yes	190	
		B: No	102	
		NA	4	
		Total Num.	296	
6 (b)	If "No", please choose the reason.	Answer	Num.	 A: I'm an Osaka University's student B: I can transfer, But I don't need credits. C: I cannot transfer. D: Other NA
		A: I'm an Osaka University's student	37	
		B: I can transfer, But I don't need credits.	20	
		C: I cannot transfer.	40	
		D: Other	4	
		NA	7	
		Total Num.	108	

7	Let us know your main purpose of taking this class. Please specify the reason, such as OUSSEP completion, your own interest in the subject, or others.																		
	I want to review what I've learned at my home university, and compare the difference for my future study.																		
	Seems really interesting, I need to do work field for my research.																		
	Recommended by the cohort adviser, also it would be useful to understand this subject.																		
	I like the presentations and the content of the course in general. It's new and really interesting.																		
	My home university doesn't offer classes of this subject.																		
	Wanted to get opportunities of communication with international students, and class title sounds interesting.																		
8	Are you satisfied with this class?	<table><tr><th>Answer</th><th>Num.</th></tr><tr><td>A: yes, very much</td><td>130</td></tr><tr><td>B: almost always</td><td>108</td></tr><tr><td>C: to some extent</td><td>47</td></tr><tr><td>D: not so much</td><td>10</td></tr><tr><td>E: not at all</td><td>1</td></tr><tr><td>NA</td><td>0</td></tr><tr><td>Total Num.</td><td>296</td></tr></table>	Answer	Num.	A: yes, very much	130	B: almost always	108	C: to some extent	47	D: not so much	10	E: not at all	1	NA	0	Total Num.	296	Legend: □ A: yes,very much ▒ B: almost always ▓ C: to some extent ■ D: not so much ■ E: not at all ■ NA
Answer	Num.																		
A: yes, very much	130																		
B: almost always	108																		
C: to some extent	47																		
D: not so much	10																		
E: not at all	1																		
NA	0																		
Total Num.	296																		
9	To what extent have you had opportunities to talk to Japanese students through attending this class so far?	<table><tr><th>Answer</th><th>Num.</th></tr><tr><td>A: yes, very much</td><td>39</td></tr><tr><td>B: to some extent</td><td>71</td></tr><tr><td>C: not so much</td><td>67</td></tr><tr><td>D: not at all</td><td>119</td></tr><tr><td>NA</td><td>0</td></tr><tr><td>Total Num.</td><td>296</td></tr></table>	Answer	Num.	A: yes, very much	39	B: to some extent	71	C: not so much	67	D: not at all	119	NA	0	Total Num.	296	Legend: □ A: yes,very much ▒ B: to some extent ▓ C: not so much ■ D: not at all ■ NA		
Answer	Num.																		
A: yes, very much	39																		
B: to some extent	71																		
C: not so much	67																		
D: not at all	119																		
NA	0																		
Total Num.	296																		
10	Is the lecture understandable?	<table><tr><th>Answer</th><th>Num.</th></tr><tr><td>A: yes, very much</td><td>177</td></tr><tr><td>B: almost always</td><td>92</td></tr><tr><td>C: to some extent</td><td>23</td></tr><tr><td>D: not so much</td><td>4</td></tr><tr><td>E: not at all</td><td>0</td></tr><tr><td>NA</td><td>0</td></tr><tr><td>Total Num.</td><td>296</td></tr></table>	Answer	Num.	A: yes, very much	177	B: almost always	92	C: to some extent	23	D: not so much	4	E: not at all	0	NA	0	Total Num.	296	Legend: □ A: yes,very much ▒ B: almost always ▓ C: to some extent ■ D: not so much ■ E: not at all ■ NA
Answer	Num.																		
A: yes, very much	177																		
B: almost always	92																		
C: to some extent	23																		
D: not so much	4																		
E: not at all	0																		
NA	0																		
Total Num.	296																		
11	Does the instructor speak English understandably?	<table><tr><th>Answer</th><th>Num.</th></tr><tr><td>A: yes, very much</td><td>204</td></tr><tr><td>B: almost always</td><td>64</td></tr><tr><td>C: to some extent</td><td>20</td></tr><tr><td>D: not so much</td><td>5</td></tr><tr><td>E: not at all</td><td>0</td></tr><tr><td>NA</td><td>0</td></tr><tr><td>Total Num.</td><td>293</td></tr></table>	Answer	Num.	A: yes, very much	204	B: almost always	64	C: to some extent	20	D: not so much	5	E: not at all	0	NA	0	Total Num.	293	Legend: □ A: yes,very much ▒ B: almost always ▓ C: to some extent ■ D: not so much ■ E: not at all ■ NA
Answer	Num.																		
A: yes, very much	204																		
B: almost always	64																		
C: to some extent	20																		
D: not so much	5																		
E: not at all	0																		
NA	0																		
Total Num.	293																		
12	Is the class conducted in accordance with the syllabus?	<table><tr><th>Answer</th><th>Num.</th></tr><tr><td>A: yes, very much</td><td>222</td></tr><tr><td>B: almost always</td><td>52</td></tr><tr><td>C: to some extent</td><td>12</td></tr><tr><td>D: not so much</td><td>5</td></tr><tr><td>E: not at all</td><td>0</td></tr><tr><td>NA</td><td>0</td></tr><tr><td>Total Num.</td><td>291</td></tr></table>	Answer	Num.	A: yes, very much	222	B: almost always	52	C: to some extent	12	D: not so much	5	E: not at all	0	NA	0	Total Num.	291	Legend: □ A: yes,very much ▒ B: almost always ▓ C: to some extent ■ D: not so much ■ E: not at all ■ NA
Answer	Num.																		
A: yes, very much	222																		
B: almost always	52																		
C: to some extent	12																		
D: not so much	5																		
E: not at all	0																		
NA	0																		
Total Num.	291																		

13	Does the instructor answer appropriately to the questions that students raise?	Answer	Num.	□ A: yes,very much ▒ B: almost always ▓ C: to some extent ■ D: not so much ■ E: not at all ■ NA
		A: yes, very much	209	
		B: almost always	68	
		C: to some extent	16	
		D: not so much	0	
		E: not at all	0	
		NA	2	
		Total Num.	295	
14	Let us know your opinion on the amount of reading materials and assignment.	Answer	Num.	□ A: too much ▒ B: adequate ▓ C: not enough (insufficient) ■ NA
		A: too much	39	
		B: adequate	241	
		C: not enough (insufficient)	16	
		NA	0	
		Total Num.	296	
15	Did the instructor explain the grading method and policy sufficiently? Was there any opportunity offered to ask a question about the grading scale of the course?	Answer	Num.	□ A: yes,very much ▒ B: to some extent ▓ C: not at all ■ NA
		A: yes, very much	212	
		B: to some extent	75	
		C: not at all	8	
		NA	1	
		Total Num.	296	
16	Is there any TA in the class?	Answer	Num.	□ A: Yes ▒ B: No ■ NA
		A: Yes	204	
		B: No	90	
		NA	2	
		Total Num.	296	
		If YES, how well does the TA contribute?	Answer	
A: yes, very much	112			
B: almost always	48			
C: to some extent	28			
D: not so much	10			
E: not at all	1			
NA	7			
Total Num.	206			
17	Let us know, if any, favorable method of teaching or organizing classes that you think the instructor should continue to maintain.	The structure is great. We enjoyed the field trip, so the more the better! Audio-visual materials were just enough.		
		All was really nice. Easy to understand but with a very good level. I really enjoyed this class. The readings were really interesting to. And it help me to see in other way my own subject.		
		Was interenting to hear about the research of the TA.		
		The methods were diverse; group discussions, videos etc. Students were supposed to fill out quizzes and respond to questions.		
		This class is very iformative and professor is very considerate that classmates can join the discussion always.		
		I like how to teacher offers a lot of chances to ask questions and leaves room for conversation.		
		Because we are from different major, some students couldn't understand some topics quickly, the class should start from easy point.		

18	Let us know your suggestion or advice to improve the class.
	Maybe less topics to go further in depth on specific topic (some lectures had 2 lectures, that was better in my opinion.)
	Focus more on one topic and teach how to apply some methods to actual problems.
	More explanation needed not only reading the PDF. More homework so I can learn more. I can not learn by only listening.
	The presentation worksheets distract from listening to the presentation. I miss half while trying to write.
	The use of handouts and worksheets was beneficial as it encouraged reflection on topics and ideas addressed in class.
	More student-interaction in general (can often be difficult to concentrate with just own person speaking for a long time.)
	My suggestion might be it would be better if we could learn more different things from class than materials.
	Lots of additional material for further studying, independently decide the topic of choosing the field term papers topic.
	I think going over some content instead of just talking about experiences would be nice.
19	Please write other comments and frank opinions freely, if any.
	Thanks to the teacher. He is very enthusiastic and the class was always interesting.
	The teacher explains really well (even if the theories are sometimes difficult we really understand the core of this theories).
	Till now this class is very good but hope we could have more conversation with Japanese students in class, especially Japanese law students.
	Instructor is very friendly and tries to improve based on feedback.
	Some of the subjects were too similar between them so a couple times it just felt like we were repeating the same lecture, at least for a while.
	The class is great; the professor has a really good didactic method; the choice of the material is very interesting.
	It was very interesting to learn about multicultural issues in Japan and how they are seen in the country.

2017年度 年 報

2018年7月20日 発行

編集・発行者：大阪大学国際教育交流センター

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1番1号

電話：06-6879-7118 FAX：06-6879-7077

印刷所：株式会社 遊 文 舎